

各校の教育活動の状況

目 次

1 全日制の課程

普通科

青森	普通科	p	1
青森西	普通科	p	3
青森東	普通科	p	4
青森北	普通科	p	5
青森南	普通科	p	7
浪岡	普通科	p	8
五所川原	普通科	p	10
鱒ヶ沢	普通科	p	13
五所川原工科	普通科	p	15
弘前	普通科	p	17
弘前中央	普通科	p	18
弘前南	普通科	p	19
黒石	普通科	p	20
三本木	普通科	p	22
三沢	普通科	p	23
野辺地	普通科	p	24
百石	普通科	p	25
六ヶ所	普通科	p	27
三本木農業恵拓	普通科	p	28
田名部	普通科	p	31
大間	普通科	p	32
八戸	普通科	p	33
八戸東	普通科	p	34
八戸北	普通科	p	36
八戸西	普通科	p	37
三戸	普通科	p	39

普通科系専門学科

五所川原	理数科	p	40
青森北	スポーツ科学科	p	43
弘前実業	スポーツ科学科	p	45
八戸西	スポーツ科学科	p	48
青森南	外国語科	p	50
八戸東	表現科	p	51

農業科

五所川原農林	農業科（生物生産科、森林科学科、環境土木科、食品科学科）	p	53
柏木農業	農業科（生物生産科、環境工学科、食品科学科、生活科学科）	p	56
三本木農業恵拓	農業科（植物科学科、動物科学科、環境工学科、食品化学科）	p	59
名久井農業	農業科（生物生産科、環境システム科）	p	62

工業科

青森工業	工業科（機械科、電気科、電子科、情報技術科、建築科、都市環境科）	p 64
五所川原工科	工業科（機械科、電子機械科、電気科）	p 66
弘前工業	工業科（機械科、電気科、電子科、情報技術科、建築科、土木科）	p 68
十和田工業	工業科（機械・エネルギー科、電気科、電子科、建築科）	p 73
むつ工業	工業科（機械科、電気科、設備・エネルギー科）	p 75
八戸工業	工業科（機械科、土木科、電気科、材料技術科、電子科、建築科）	p 76

商業科

青森商業	商業科（商業科、情報処理科）	p 80
弘前実業	商業科（商業科、情報処理科）	p 82
黒石	商業科（情報デザイン科）	p 85
三沢商業	商業科（商業科、情報処理科）	p 87
八戸商業	商業科（商業科、情報処理科）	p 89

水産科

八戸水産	水産科（海洋生産科、水産食品科、水産工学科）	p 91
------	------------------------	------

家庭科

弘前実業	家庭科（家庭科学科、服飾デザイン科）	p 93
百石	家庭科（食物調理科）	p 96

看護科

黒石	看護科	p 98
----	-----	------

総合学科

青森中央	総合学科	p 100
木造	総合学科	p 101
七戸	総合学科	p 102
大湊	総合学科	p 103

2 定時制の課程

北斗	普通科	p 104
五所川原	普通科	p 105
尾上総合	総合学科	p 106
三沢	普通科	p 107
田名部	普通科	p 108
八戸中央	普通科	p 109

3 通信制の課程

北斗	普通科	p 110
八戸中央	普通科	p 111
尾上総合	普通科	p 112

青森	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1. 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○本校は平成26年度にSGH、平成29年度にSSH第Ⅰ期、今年度第Ⅱ期に指定された。SGHの指定を受けた10年前から3年間は対象のクラスで、7年前からは全校体制で探究学習に取り組み、知的興味・関心や社会に対する問題意識を育てるとともに、課題発見力、論理的思考力、課題解決力といった資質・能力を育成している。また、研究のテーマをSDGsの17の目標のいずれかに関連付け、持続可能な社会づくりに貢献するというグローバルな視点や考え方も養っている。大学入試の形式が多様化する中で、探究学習と進路指導が一体となって支援する体制が確立されている。</p> <p>○教職員・教科の連携が強く、新たな取り組みに意欲的に挑戦する風土がある。重点校事業を運営し、大学・研究機関・企業等と連携する中で、各分野の第一人者とのつながりが強まり、学校活動への協力をスムーズに得られる環境が確立している。</p> <p>○連携横断型プログラムを利用した科学技術系グローバル人材の育成を目的に、探究的な活動を中心とした課題研究に取り組んでいる。</p> <p>○キャリア意識の向上を目的に、外部機関の協力を得て科学技術体験セミナー、科学分野の各種フィールドワーク、大学・企業・研究所体験研修等を実施している。</p> <p>○科学系部活動の活性化、科学オリンピック・数学オリンピック、科学の甲子園等外部大会への参加を励行し、実績を上げている。</p>
2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>普通科</p> <p>○東北大学大学院生命科学研究所、弘前大学理工学部、青森県産業技術センターの協力によるフィールドワーク等の実施。</p> <p>○花王株式会社、理化学研究所、東京大学大学院理学研究科等の県外企業・大学や住友化学三沢工場、環境科学技術研究所等県内企業における大学・企業・研究所体験研修の実施。</p> <p>○東北大学、岩手大学、産業技術センター等の研究者を招聘しての科学技術体験セミナーの実施。</p> <p>○ベトナム国立大学高校、ホーチミン市工科大学、ホーチミン市天然資源環境大学、現地最大の病院を訪問しての研究発表や交流会、学習会を行うSSH海外研修の実施。</p> <p>○シンガポールナンヤン高校と台湾ワシントン高校の生徒および青森中央学院大学留学生との交流活動の実施。</p>

3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>○本校生徒が周辺の小・中学生を本校に招いて夏休みの学習を支援（個別指導）する「夏期学習会」を開催している。毎年80～100名ほどの参加者があり、魅力や特色を生徒が発信する機会となっている。</p> <p>○SSH事業の一環として、本校生徒が地域の方々や子供たち、保護者に理科実験を披露、体験をしてもらい、科学の楽しさ・高校の学びについての理解を深め、興味・関心を引き出す取り組みをしている。</p> <p>○探究学習の一環として、県内の外国人労働者を対象に「生活する上での困り事」を調査し、その解決策についての提言を行っている。</p> <p>○上記のような取組をはじめ、学校に関する最新情報を、本校ホームページトップの「最新情報・お知らせ」に掲載し、広く発信している。</p>

青森西	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○部活動の充実と、文武両道による人格の陶冶（しっかり部活動に取り組む者に学業優秀者が多い）</p> <p>○JR新青森駅から徒歩10分とアクセスが良好で、津軽線、奥羽線、青い森鉄道、新幹線を利用し県内各地から生徒が通学している。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>普通科</p> <p>高大連携に関わる協定を市内3つの大学・短大(青森中央学院大学・青森大学・青森明の星短期大学)と結んでいる。</p>
	<p>地域活性化ボランティア組織「青西おもてなし隊」、公共施設等における観光客向け地域アピール活動や、メディアや広報誌を通しての活動内容の発信</p>
	<p>他者と触れ合うボランティア活動（主に保育、介護、看護）への積極的な参加</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>青森大学・本校の高大連携事業で発行している『地域・駅・新幹線ニュースレター はっしん！新青森』（フリーペーパー、現在第44号）で本校の取り組みや情報を発信している。</p>

青森東	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科	
1. 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○選択科目が幅広く設定されており、生徒の興味関心に応じて少人数指導を行っている。</p> <p>○青森県立保健大学との高大連携事業により、大学での学修を1単位修得できる。</p> <p>○原別小学校との連携事業として、学習ボランティアやねぶた運行ボランティアを行っている。</p> <p>○本校職員によるミニ講座を実施している。</p>	
2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科	青森県立保健大学との高大連携事業が行われており、本校生徒が大学の講座を大学生と一緒に受講、協働で作業を行うことで、青森県における医療従事者の育成の一端を担っている。
		原別小学校との連携事業として、学習ボランティアやねぶた運行ボランティアを行っており、地域の子供の育成の一端を担っている。
3. 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況		授業公開(4月と10月)と文化祭、中学生体験入学で本校生徒の姿を見せ、学校の魅力を発信している。
		本校ホームページ上で様々な情報を発信している。

青森北	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科、スポーツ科学科	
1. 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○文武両道をスローガンに掲げ、学習と部活動等の両立により、学校生活の充実と進路志望の達成を図っている。</p> <p>○ICT機器の活用等を含め、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努めている。</p> <p>○部活動が盛んである。特に運動部は、トレーニングルームや室内練習場などの施設を最大限活用し、県内の大会はもちろん、東北大会や全国大会でもめざましい活躍を見せる生徒を毎年多く輩出している。</p> <p>○文化祭における1年各クラスによるかかし及び金魚ねぶたの制作を通じて、地域への誇りや愛着の心の育成につなげている。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	8割近くの生徒は進学希望で、そのうち約半数の生徒が国公立大学を希望しているため、それに対応した教育課程を編成し、多様な入試制度を活用しながら、教職員全員体制で志望理由書、小論文、面接等の指導を行い、生徒の進路志望の達成を図っている。
		生徒の進路志望の実現に向け、1・2年では原則として全員、3年では進学希望者を対象に長期休業中に(3年は放課後も)講習を実施している。また、公務員志望者を対象に外部講師による公務員学内講座を実施している。
		大学体験講座の実施や弘前大学オープンキャンパスへの参加を通じて、生徒の進学に対する意識を高めている。
	スポーツ科学科	4年制大学や専門学校、民間企業、公務員と、生徒の進路志望が多岐にわたっているため、基礎基本を重視した教科の学習及びスポーツに関する科目を充実させた教育課程を編成している。
		専門科目では、ダンス、水泳、テーピング、キャンプ、カーリング、スケート、スキー・スノーボードの実習を取り入れ、生徒が多様なスポーツに関わる機会を設定している。
		特別支援学校スポーツ大会の運営に携わり、障害者スポーツへの理解を深めている。
		日々の授業や実習で学んだこと、身につけたことを実技発表会で披露している。また、3年時には卒業研究を行い、その成果を論文集にまとめている。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	野木和公園枝拾い、あおもり桜マラソン大会運営、油川ふるさと海岸清掃などのボランティア活動や、油川ねぶた、油川音楽祭などの地域の行事に多くの生徒が積極的に参加し、地域に貢献する態度を養うとともに、まちづくりに参画している。
	普通科	ほとんどの生徒が県総合社会教育センターのスキルアッププログラムに登録し、放課後、休日、または長期休業中に、学校外の講座、講演会、体験会などの学びの場に参加することで、将来、社会の変化に柔軟に対応して生きていくための様々なスキルの獲得・向上に努めている。
	スポーツ科 学科	青森第一高等養護学校とスポーツを通じた交流を行い、他者を思いやる心の育成につなげている。
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	大きな行事や部活動関連の主要な大会があるごとに、学校HPを更新し、生徒の活動の様子や戦績を写真も交えて紹介している。	

青森南	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科、外国語科	
1. 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	地域社会やグローバル社会における課題に主体的に取り組む学習を充実させている。 学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等の体験を重視した教育活動を展開している。	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	弘前大学による高大連携公開講座の受講
		姉妹校等とのオンラインによる交流
	外国語科	近隣の大学に在籍している留学生との交流
		弘前大学による高大連携公開講座の受講
		姉妹校等とのオンラインによる交流
2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	姉妹校等とのオンラインによる交流や近隣の大学に在籍している留学生との交流
		弘前大学による高大連携公開講座の受講
		生徒の探究活動を元にした ①地域の小学生、中学生、保護者を対象とした世界遺産検定に向けた講習会を企画・運営し、生徒が講師を務めた。 ②白神山地について、英語によるガイドを8月に実施する。 ③昨年度、生徒が2つの中学校で、平和やSDGsについて考える出前授業を行った。あわせて、今年度も特別支援学校との交流や地域の子どもたちへの読み聞かせボランティアに取り組んでいる。 なお、コロナ前には、英語を用いて、クルーズ船の乗客や郷土館への来館者等の外国人観光客の案内をするボランティアに取り組んでいた。
3. 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	本校ホームページやPTA新聞、マスコミを通じて、外部に発信している。	

浪岡	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○小規模校ならではの細やかな教育を行っている。多様な生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、生徒を近い距離で支え教育活動を行っている。</p> <p>○少人数授業を実施し、中学校の学び直しなど、きめ細かな指導を行っている。</p> <p>○ユニバーサルデザインを取り入れた授業方針「浪高スタンダード」を実施し、教育活動を行っている。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実践のため、ICT機器を効果的に活用するなど指導方法の工夫と改善を行っている。</p> <p>○小中学校でリーダーの経験が少なかった生徒もいるが、新しい環境と役割の中から自信を持ち、生徒全員が主役になることができるような教育活動を行っている。</p> <p>○コミュニケーションスキルの向上を目指す「コミュニケーションスキルアップトレーニング」や、生徒会が企画する「いじめ防止研修会」など全校生徒で行事に取り組んでいる。</p> <p>○3学年の進路指導には、全教員で手厚い指導を行っている。</p> <p>○伝統行事「空き缶壁画制作」では、多くの工程を全校生徒で作り上げる協働的活動をとおして、責任感を身につけ、地域住民の期待に応えるとともに、循環型社会を考える学びとなっている。</p> <p>○PTA・後援会のほか地元企業などと連携し、インターンシップの実施やボランティア活動の参加を通して、地域に見守られながら教育活動を行っている。</p>

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科 地元企業とは、毎年インターンシップで連携し、生徒の職業観の育成やコミュニケーションスキルの向上につなげている。
	3学年の模擬面接練習として、地元企業の方に指導をしていただき、より実践的な学びの機会としている。
	地域にある唯一の高校として期待を寄せられているため、地域行事やボランティア活動へ参加している。伝統行事「空き缶壁画作成」では、浪岡中学校・浪岡養護学校と連携して活動している。
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	「浪高だより」を発行し、HPにアップロードしている。また、地域の学校・施設等に配布し、本校の活動について地元住民へ情報発信している。
	HP内に生徒の活動を写真付きのブログ形式で掲載している。ツイッターやインスタグラム、Youtubeの学校のアカウントを開設しており、行事の際にはライブ配信も行っている。

五所川原	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科、理数科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○校訓として「敬愛、叡知、進取」を掲げ、「力行天下第一」の学校標語のもとに研鑽を積むことにより、自己実現を図り、社会の変化に主体的に対応しつつ、その発展に寄与できる心豊かな人間を育成することを目標としている。</p> <p>○育成を目指す資質・能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな知性と教養を兼ね備え、社会の発展を担うことができるグローバルな人財 2. 探究心をもち、広い視野と柔軟な発想で、これからの社会を創造していく人財 3. 自他の人間性を尊重して協働する、心豊かな人財 <p>○難関大学や医学部医学科の合格実績を出すばかりでなく、卒業生は行政・教育・金融・治安維持・企業経営などの分野でも活躍しており、地域を支える人材を輩出している。</p> <p>○長年の進学指導で蓄積してきたノウハウ、大学等の高等教育機関、模擬試験運営会社や予備校などの教育関連企業とのつながり、そして各界で活躍している卒業生は、本校の教育活動に重要な役割を果たしていることが強みである。</p> <p>○五高祭やスポーツフェスティバルなどの学校行事は、生徒会が中心となって生徒主体で企画・運営し、協働力を育んでいる。</p> <p>○部活動加入率は90%を超え、沢山の生徒が活発に活動しており、複数の部活動で全国大会出場を果たしている。高いレベルでの文武両道を目指している。</p> <p>○立佞武多については、卒業生や保護者と協力しながら、生徒が直接、制作・運行を行って祭りに参加し、地域の伝統文化を継承している。</p> <p>○「奥津軽虫と火まつり」親善大使など校外ボランティアに積極的に参加することで、地域活性化に貢献している。</p>

小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	1学年では普通科・理数科において全員が同一の教科を学び、2学年からそれぞれの進路志望や適性に応じて、普通科（文系・理系）と理数科に分かれて学ぶ。
		ほとんどの生徒が進学を目指していることから、教育課程・講習・小論文指導・校外模試など、生徒の学力向上のための指導を充実させている。また、1年生を対象とした大学教員による出前講義や学部説明、各学年で行われる進路講演会など、生徒の意識を高める進路行事も多数企画している。
		総合的な探究の時間「力行タイム・SD探究」において、国際社会や地域の諸課題と自己との関わりから課題を設定し、その解決に向けて自ら仮説を立て、情報を集め、検証・整理・分析し、論理的にまとめ発表する力を育成する。グループでの教科横断的探究活動と言語活動によりキャリア形成を図る。
	理数科	理数科は、自然科学や数学に強い関心を持ち、将来理数系の学問の研鑽を目指して進学しようとする生徒に対して、より多くの理数科目の学習や実験・実習を通し、広い視野に立って活躍できる研究者・技術者の育成を目的としている。
		理数探究は理数科独自のプログラムで、理科・数学の各分野から生徒自身が設定したテーマを、半年以上かけて少人数グループで継続研究する。研究計画の立て方、測定方法、データ整理、プレゼンテーションなど、様々なことを学ぶ。最後に研究成果を校外で発表する。
		Science Research Projectは1年理数科予定者が参加する2泊3日の研究機関訪問である。東大生とのワークショップや日本科学未来館での体験学習など、理数探究への意欲向上を図るとともに将来の進路決定の一助となる。
		Effective Learning Campは1年理数科予定者と2年理数科との2泊3日の合同学習合宿である。教科の講習に加え、進路講演会や予備校講師の講習、さらに1・2年合同の講義では2年生が1年生に教える活動もあり、互いに切磋琢磨することにより、進学意欲と学習意欲の高揚を目指す。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	<p>西北地区の県立高校5校が集結し、「あおり創造学」や課題研究等で行われている特色ある探究学習の研究成果を互いに共有する合同発表会を主催し、教科横断的な学びや探究学習の深化につなげ、西北地区の教育の質の向上を図る。</p>
		<p>台湾の高校（永春高級中学）と、産業・ビジネス・環境科学等の学習内容を基礎とした、主体的で実践的な協働学習を推進し、グローバルな視野と感覚を備え、将来の本県の産業やビジネス等を担う人材の育成を図る。</p>
		<p>大学教員と連携した生徒対象の模擬講義、キャッチ・ザ・大学を実施している。</p>
		<p>総合的な探究の時間SD探究校内発表会は、西北地区の高校や保護者、協力いただいた地域の関係者に公開している。</p>
		<p>立佞武多において、本校生徒が制作した立佞武多を披露するとともに、多数の生徒が独自の踊りを踊って練り歩くことにより、地域の活性化に貢献している。立佞武多をはじめとする地域の伝統の継承、地域を支える人材の輩出も重要な貢献と考えている。</p>
		<p>「奥津軽虫と火まつり」親善大使など校外ボランティアに積極的に参加することで、地域活性化に貢献している。</p>
	理数科	<p>理数探究での大学と連携した発表会やコンテストにおける、大学研究者からの助言や情報共有により、更なる研究意欲の向上を図る。</p>
		<p>東京大学や研究施設等と連携したScience Research Project（2泊3日の研究機関訪問）において、理数探究への意欲向上を図るとともに将来の進路決定の一助となる。</p>
		<p>理数科講演会を年3回実施し、東京大学や東北大学の最先端の研究内容について学び、科学的素養の育成を図っている。</p>
		<p>理数科対象の講演会は、西北地区の高校教員に公開している。</p>
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>理数科理数探究に関する情報提供は、学校HPに掲載するとともに、西北地区中学校・高校にも配布している。</p>	
	<p>生徒会が公式Instagramを開設し、様々な行事や活動の様子を生徒目線で捉え、重点校としての魅力広めている。</p>	

鱒ヶ沢	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○1学次は、習熟度別授業を展開し、一人ひとりに寄り添った手厚い指導を実施している。</p> <p>○2年次から、コース制の教育課程を編成し進路実現に向けた学習を展開している。</p> <p>○全学年朝学習を実施し、基礎学力の定着や学び直しに向けた取り組みを行っている。</p> <p>○長期休業中は、進学・公務員希望者に対する勉学意欲の高揚並びに、学力の向上を図ることを目的に進学講習会を実施している。</p> <p>○ドローン技術を用いて活躍できる人材を育成することを目的とし、専門の講師を招き、ドローン飛行の知識を習得する講習会を実施している。</p> <p>○鱒ヶ沢町の発展的な地域づくりのために、生徒自らが、地域資源の魅力や課題について体験活動を通じて発見し、魅力的な地域資源を継承するための課題を解決しようと挑戦する生徒を育成する目的で、あおもり創造学「総合的な探究の時間」で地元の企業や事業所等と連携し基幹産業の魅力や課題を発見する授業を実施している。</p> <p>○郷土の伝統芸能を体験する「流し踊り」を実施した。郷土の歴史に対する理解を高めるとともに近隣の小・中学校との合同開催により、各校の連携と地域との交流を深める活動となった。</p>

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	S B P 研究会では、今年度、新たな取組みとして、地域課題となっている未利用魚を活用した、鱒高 S B P オリジナル商品「未利用魚を使ったスープ」開発のために地元企業と協働してレシピの考案を行っている。
	町が主催するイベント（ひらめフェス、スイーツフェス、肉フェス）にボランティアとして参加し、人との対話等を通して喜びや充実感を体得する活動を行っている。
	地域のゴミ拾いを通じて、ボランティア意識の向上や鱒ヶ沢町に貢献する意識や態度を育む目的で、はまなす公園ボランティア清掃活動を実施した。今後は、地元の老人ホームで福祉・介護ボランティア活動を行う予定である。
	全学科 大学生との関わりを通じて、コミュニケーション能力を高めるとともに、生徒が自分自身を見つめ直し、将来像を自分の言葉で表現できるようになることを目的とした、キャリア形成サポート事業を行う予定である。
	今後、県内の大学と教育連携に関する協定を締結し、教育についての情報交換及び人材交流、高校生と大学生の交流等を行い、教育連携の推進を図る予定である。
	ゴルフ場やスキー場を運営する「青森リゾート」と協定を締結し、スポーツ選手の育成や職業体験を通じて、国際社会に適應できる人材の育成を目指す。昨年度は、海外のプロスノーボーダーとの交流会を実施することができた。
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>近隣の中学校に鱒ヶ沢高校の掲示板を設置し、進路だより、学年通信、広報鱒ヶ沢高校などを定期的に掲示し中学生に学校の魅力や学校の活動の様子を定期的に配信している。</p> <p>今年度より、ランディングページを新設し、学校HPと学校案内にURLを掲載した。先生方や卒業生、地域の皆さんの本校に対する思いを言葉で掲載したり、学校の魅力や生徒の様子をより分かりやすく伝わる内容とした。</p>

五所川原工科	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科、機械科、電子機械科、電気科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○資格取得への計画的で熱心な指導により、高い合格率や難易度の高い資格取得を実現している。</p> <p>○「校内生徒研究発表会」で、工業科の課題研究の成果と普通科の探究活動の成果を紹介し、生徒の主体性・創造性・問題解決能力の育成に努めている。</p> <p>○全校ボランティアとして地域の清掃活動を行っている。</p> <p>○学校公開日を設定し、中学生や保護者、地域の方々へ教育活動を紹介している。</p> <p>○近隣小学生を対象に施設見学や体験学習を実施し、工業の魅力を発信している。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	2年次以降は自分の進路に応じて文類型（進学・就職）、理類型（進学）に分かれて授業を行っている。また、就職希望者に対しては、工業・情報分野の科目選択が可能なカリキュラムを編成している。
		「総合的な探究の時間」では、1年次は地域の各分野（大学・行政・企業等）の外部講師による講義等を行っている。2年次には、これらをもとに自ら課題を設定し、フィールドワーク・グループワーク・発表等を通して、課題解決に向けた探究活動を行っている。
		国公立大学進学から就職まで幅広い進路に応じた指導体制のもと、個々の志望校や就職先に応じた受験サポートや実践的な指導を行っている。
	機械科	産業の基盤である機械技術の基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、様々な分野に対応できる人材を育成している。
		実習や製図・課題研究においてタブレット端末などデジタル機器を活用し、主体的な学習の深化・効率化を図っている。
		高度で最先端の加工（レーザー加工、多軸機械加工、CAD/CAM）の教材を開発し、最新の機械技術に対応でき、専門的な知識を有する人材を育成している。
	電子機械科	デジタル社会に対応した最新の知識・技術と、ものづくりの基礎的・基本的技能の習得を目指した実習により、機械・電気・情報と多方面で活躍できる人材を輩出している。
		ものづくりを科学的・工学的な視点から理解し、実験・実習を通して理数工学に関する実践的な知識・技術を身に付け、企業の技術開発者や理工系大学を目指す人材を育成している。
		若年者ものづくり競技大会で利用されている、移動式ロボット(ロボティーン)を用いた実習を行い、プログラミング技術、アルゴリズム技術などの組込システムを学習し、自動化に対応した人材育成を行っている。
	電気科	理論的な学習をしながら電気実習と関連付け、電気の専門知識や技術を身に付け、第二種電気工事士資格を中心に、各種資格取得にも取り組み各分野で適応できる電気技術者の育成に取り組んでいる。
		課題研究や放課後資格講習にタブレット端末を活用し、その中のデジタル誌面や動画を見ながら生徒が効率よく学べるよう取り組んでいる。
		実習項目に建築電気設備における代表的な工事「金属配管工事」「ケーブル工事」「PF管工事」を取り入れ一般住宅の屋内配線工事を体験させることで、生活に欠かせない電気を供給するために施工する電気技術者として魅力を伝え、社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況

他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科	1年次では、弘前大学のオープンキャンパスに普通科生徒が全員参加し、大学進学について具体的なイメージを持たせている。
		2年次では、大学や専門学校などの希望する上級学校に訪問する機会を設け、進路実現に向けた学習意欲の向上を図っている。
	電子機械科	弘前航空電子㈱による、技能検定3級機械加工(平面研削盤作業)の指導を受けている。(1名)
	電気科	①外部講師による出前授業(五所川原電気工事業協同組合青年部) 西北五地域の電気工事業社から電気工事士の仕事内容と必要性および魅力、地域の現状など現実的な内容を聴講することで地元就職への理解など進路選択の一助とする内容。
		②外部講師による出前授業(東京電力ホールディングス) エネルギー教育として、①電力先般②脱炭素社会に向けて③福島第一原子力発電所の現状④東通原子力発電所について⑤職業観・使命感・責任感についての内容で講話。知識だけでなく、身近な問題として捉え、社会への関心や判断力・応用能力の育成を目的として実施。
		③火力・水力・風力発電所等の施設見学(東北電力) 授業で学ぶ発電について、実際の発電所等を見学することにより、興味関心を深め、学習に対する意識高揚を図る。また、進路選択の一助となっている。
		④電気安全教室(東北電気保安協会) 電気に対する安全教育を充実させ、将来の職場における正しい電気の取扱い方、電気事故防止および省エネルギー等についての講話。
	全学科	東北職業能力開発大学校青森校との高大連携により、相互の課題研究発表会の見学や課題研究発表会での助言等、教育活動の交流協力を図っている。
		地元企業(五所川原ものづくり連絡会)による企業説明会を実施している。
		五所川原商工会議所青年会議所と連携して、就職試験を控えた3学年生徒を対象にした地元企業経営者らによる模擬面接指導を実施している。
		市長地域の業界団体大学等から招聘した講師による講義協議を実施している。

3 情報発信に係る状況

学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	HP内にツイッターへのリンクを作成し、生徒の了承を得た上で、写真付きで生徒の取り組む様子をUPし、タイムリーな情報発信に努めている。
	地元を離れる若者が多いという現状を考察し、若物が地元に残るには何が必要か市や地元企業協力のもと、企業取組状況、職場や仕事の現状を調査。地元定着を求める電気科生徒の意見を市や近隣企業に伝え、近隣企業に協力してもらい、ELMのまち2Fイベントホールにて、トレンドアイテムの展示販売、近隣企業の紹介、五所川原工科高校のPR(電気工事実演、テーブルタップ製作、課題研究製作物の展示など)イベント実施。今年度も実施に向けて取組中。

弘前	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○難関大学への進学を希望している生徒が多いことから、「授業第一主義」を掲げて、質の高い授業を行うとともに、平日は6:45～19:00まで、休日は8:45～15:45まで図書室を開放し、生徒が自学自習に取り組むことができる環境を整えている。</p> <p>○「持って生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」という目指す人間像の下で、多くの生徒が、文武両道の実現を目指し、勉強とともに部活動に熱心に励んでいる。中でも、バスケットボール部、硬式野球部、テニス部、ソフトテニス部、ボウリング部、囲碁部、将棋部、放送局などが、各種大会で上位入賞を果たしている。</p> <p>○「個別最適な学び」を充実させていくために、授業におけるICTの活用を積極的に行っている。特に、今年度からは、Google Workspaceに加えてロイロノートの活用も行っている。</p> <p>○今年度70年目を迎えた伝統的な行事であり、「協働的な学び」の実践でもある「ねぶた制作と運行」は、多大な労力と時間を必要とするものであるにもかかわらず、多くの生徒が毎年楽しみにしており、「弘高ねぶた」を制作したいので、本校に入学したという生徒も多い。この行事を通じて豊かな人間性や社会性とともに、愛校心や郷土愛を育んでいる。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>県教育委員会から重点校と位置づけられ、選抜性の高い大学（難関大学）への進学を取組として、学習会や講演会を他校と共同で実施している。</p> <p>弘前大学とは高大連携協定を締結しており、弘前大学の先生方との情報交換を行うとともに、弘前大学での本校生徒の学修は単位認定されている。また、地域の企業や地元の中学校との情報交換による進学力の活性化を図っている。</p> <p>今年度より、地域とともにある学校づくりを進めるために、コミュニティ・スクール制度を導入し、5月の第1回目の学校運営協議会においては、学校運営協議会委員から学校経営方針の承認を得て、学校課題を踏まえた熟議テーマを決定した。また、7月に実施した第2回目においては、熟議テーマである「弘高ねぶたの持続的な体制づくり」や学校運営協議会への生徒の積極的な参画について検討し、多数の御意見をいただいた。</p>
	普通科
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学校ホームページに、生徒及び保護者の了承を得た上で、生徒が学校活動に取り組む様子をアップしている。

弘前中央	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○ICT機器を活用することで、生徒の主体的・対話的な学びを推進しているとともに、情報モラルの向上に取り組んでいる。</p> <p>○生徒の進路希望の実現に向けて、長期休業中や放課後に講習を実施している。</p> <p>○職業人講話や大学模擬講義を通して、自己の在り方生き方を考えるとともに、キャリア教育を推進している。</p> <p>○総合的な探究の時間では、1年生から個人探究を行っており、興味関心と学問を結びつけながら、教科等横断的な視点を育てている。</p> <p>○探究活動発表会を各学年で実施することで、多様な考えを受け入れつつ、自己の考えを深めながら、発信する力を育てている。</p> <p>○運動会のマ스ゲームを実施することで、女子校時代の流れを汲んだ伝統行事が今でも引き継がれている。</p> <p>○学業と課外活動との両立により、本校が掲げる6つの力（思考力・判断力・探究力・創造力・協働力・発信力）の向上を目指している。その結果、全国大会出場のなぎなた部、自然科学部、卓球部、箏曲部、写真部をはじめ、さまざまな部活動で上位入賞を果たしている。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>普通科</p> <p>弘前大学教育学部と連携し、講師派遣や探究活動発表会における生徒と教員への助言等をいただくことで、多面的多角的な視点を持つことの大切さ、探究活動実施における教員の指導力向上に繋がっている。</p> <p>環境人財育成事業において、弘前大学や環境コンサルタントの方と連携し、環境や経済が好循環する地域課題解決型のまちづくりを学ぶ活動を行っている。</p> <p>探究活動の問いを深め、仮説を検証するために、長期休業中を中心に生徒一人ひとりが地域社会と繋がり、探究活動に必要な情報を収集している。</p> <p>職業人講話では、地域で活躍する職業人を招き、その職業がどのように地域社会に貢献しているのか、どのような課題をもって取り組んでいるかを学んでいる。</p> <p>大学模擬講義では、生徒の興味関心をもとに、さまざまな大学の学部学科から先生方を招き、生徒の探究したい意欲を引き出す講義を実施している。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	HP内の新着情報には、各学年・分掌から発行された通信等が随時UPされている。

弘前南	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○経過措置を含む7年間のSSH事業で培ってきた経験を生かし、自己の進路志望、生まれ育った地域や青森県に関連する地域課題を設定し、自治体や企業などと連携した探究活動に取り組み、その成果を発表するなど、探究活動の充実に学校全体で取り組んでいる。</p> <p>○校外の体験事業や各セミナーのほか、福祉施設等訪問の積極的な参加を促している。また、職業研究の一環として地域の職業人による講話を実施し、その職業や生き方について学ぶ体験を通して勤労観や職業観の育成につなげるなど、キャリア教育の充実に学校全体で取り組んでいる。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>英語による課題研究発表会 英語によるプレゼンテーションの仕方や質疑応答を相互評価した上で、課題研究の成果を留学生に英語で発表した。留学生からは聴講者が発表を理解する一助となるような助言をいただき、発表技術の向上に努めた。</p> <p>オンライン交流 青森県と交流のある台湾の高校生と交流し、学習成果を発表し合うことで、コミュニケーション力を磨き、国際的な視野を育むことを目的とした。コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomを使用した発表と質疑応答やお互いのビデオレター送信を行った。</p> <p>弘前市出前講座 弘前市の各課で主導しているさまざまな取組に関する講座から、興味・関心が深い2つを受講し、取り組み事例や制度について学んだ。</p> <p>青森県出前トーク 各自の進路希望に関わる、さまざまな分野の専門家の講話を聞いて理解を深め、地域課題について考えた。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	更新頻度の高い学校ホームページの運用により、行事や生徒の取組状況を伝える通信、広報をアップロードすることで、常に最新情報を提供している。保護者には教育支援ツールによる送信も行っている。SNSの活用については、今後の検討事項である。

黒石	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科、情報デザイン科、看護科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○学校設定科目として「ボランティア探究」を各学年に1単位設置</p> <p>○地域と協働した諸活動の実施（黒石よされへの参加、黒石りんごまつり、黒石こみせまつり他）</p> <p>○1、2年生の希望者はインターンシップ、3年生の就職希望者は企業見学会に参加し、地元企業の理解を深め、職業観を高める取組をしている。</p> <p>○統合後に新設したイラスト・漫画研究部が「まんが甲子園」全国大会へ連続出場、家庭部が焼そばコンテストで連続入賞、パソコン部の生徒がITパスポート取得するなど文化部の活動も活発である。</p> <p>○公務員希望者に22回、就職希望者対象に8回の学内講座を実施し、外部講師から専門的な指導を受けることで高い合格率を実現している。</p> <p>○各クラスに学級文庫を配布(40冊)し、随時本を巡回させて読書の機会を提供している。</p> <p>○学校運営協議会開始3年目となり、学校教育活動と地域とのつながりがさらに強くなっている</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	2年生から文類型、理類型、スキルアップ型に分かれ、多様な進路希望に対応した教育課程を設置している。
		スキルアップ型の家庭コースでは食物調理技術検定、被服製作技術検定取得に取り組んでいる。福祉コースでは「介護職員初任者研修」の研修事業者指定されており、2年生修了の段階で「初任者研修修了証」が得られる。
		英語と数学で習熟度による少人数指導を実施、個々に応じた手厚い指導を実践している。
	情報デザイン科	課題研究を通して、公共施設、地域企業と連携したデザイン制作に多数取り組んでいる（1億円プロジェクト、市図書館ロゴマーク制作、企業のキャラクターデザイン、イベント開催告知ポスター制作、市議会議員選挙投票啓発ポスター制作他）。
<p>専門性を高める色彩検定、レタリング検定、マルチメディア検定ベーシック等の資格取得に取り組んでいる。</p> <p>2年生からメディアデザイン(主にPC利用)と探究デザイン(主に手書き、デッサン)の選択科目を設置し、デザインについて深化した学習をしている。</p>		

	看護科	<p>5年一貫教育(高校3年+専攻科2年)の実施により、最短で正看護師国家試験の受験資格を取得する。</p> <p>1年生から市内外の医療施設、介護施設で臨地実習を実施し、専門スキルの向上に努めている。</p> <p>専攻科では年間約60名の非常勤講師(医師や大学教授等)に依頼し、専門性の高い授業を展開している。</p> <p>卒業後、助産師、保健師、養護教諭の資格取得のための進学指導を行っている。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	<p>ボランティア活動、地域のイベントへの協力(学校単位、部活動単位でも)貢献している。</p> <p>家庭部が市内の企業と商品を共同開発、NPO法人とともに「子ども食堂」実施へ協力、黒石こみせまつりで手作り商品を販売。</p> <p>中学生が本校の部活動に参加する「中学生との体験交流」を8月から実施する予定。</p>
	普通科	弘前大学の「高大連携公開講座」へ希望者が参加している。
	情報デザイン科	産学官連携(弘南鉄道、中南県民局、本校)の地域デザインに取り組んでいる。沿線の地場産品、サービス紹介、地域の魅力発信に資する高校制作、広告掲出列車の運行など。
		世界規模で事業展開する市内企業で「社会に求められるデザインのあり方について」の体験学習を実施中。
	看護科	1に書いたように、とにかく多くのポスター制作やデザイン制作の依頼があり、学年進行に応じた社会とつながる生きた教育活動を実践している。また、地域で活動しているデザインの専門家による講義を毎年複数回実施。さらに大学におけるデザインの学習について説明会を開いている。
看護科	臨地実習の実習調整などを含め、近隣大学各校と連携した活動を実施。臨地実習先は市内外の病院、市役所、訪問看護ステーション、企業保健師、市内の老人福祉センター、特別支援学校など幅広い。地域保健に寄与する活動として、県赤十字センターや腎バンクなどの見学を実施。	
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	中学生向けの「黒高通信」を作成し、近隣の28校に届けているほか、HPに掲載している。	
	学校の取組はHPで情報発信している。	

三本木	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○附属中学生の数学や英語の先取り学習を行うなど、併設型中高一貫校としての中高6年間を見通した教育活動を実施している。</p> <p>○理系、文系ともに難関大学への進学実績を残しているグローバルサイエンス（GS）コースの存在が特徴となっている。</p> <p>○SSHで培った流れを継承した探究活動や課題研究の校内成果発表会を実施している。</p> <p>○高校教員が附属中学生に授業を実施している。</p> <p>○教育協定校である台湾台北市大理高級中学校と英語を用いて継続的に交流活動を実施している。</p> <p>○外部専門機関と連携し、モデル化した本校独自の英語教授法での指導を行っている。</p>	
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科	東北大学、岩手大学、八戸工業大学との連携セミナーを実施し、地区の高校等に公開している。
	普通科	十和田市を中心とした地元企業から講師を招いて、企業連携セミナーを実施しているほか、社会福祉協議会と連携し福祉体験学習やボランティア活動を実施している。
	普通科	理数教育研究協議会主催理数研究発表会（弘前大学）や青森大学で実施している研究会へ参加し研究発表を行っている。
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学校ホームページを使い、様々な情報を発信するとともに、あおり創造学や進路指導に関する特設サイトを設けている。また、校門横や生徒玄関上に進学実績や部活動の結果等の横断幕や看板等を設置している。	

三沢	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	○全教員による指導体制を整え、進学指導（主に大学受験）、総合的な探究の時間（「モスプロジェクト」）における指導、読解力向上を目指す取組（「沢高タイム」）における指導を、学年・分掌の垣根を越えて、全教員が生徒を担当・指導している。	
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科	○大学と連携した取組として、毎年、1・2年生全員を対象に「大学模擬講義」（出前講義）を実施している。全部で16の学部・学科から関心のある講義を受講し、知見を深める。
		○地域と連携した取組として、「ジャパンデー」や「アメリカンデー」、国際交流センターでのボランティア活動等、本校が所在する三沢市らしい国際色豊かな活動に参加している。
		○市や県など行政と連携した取組として、三沢青年会議所主催の「未来ミーティング」や三沢市役所主催の「マーケットキャラバン」への参加、「県知事とのフレッシュトーク」を実施する予定である。
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況		○ホームページに行事等の様子や各種通信を掲載する。
		○マスコミ機関に報道依頼をし、行事等の取材に来てもらう。

野辺地	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○2学年進級時において、生徒の進路希望に対応した類型選択（資格取得をメインとしたⅠ型と進学に向けた学習をメインとしたⅡ型）を行っている。また、これに関わって必修科目以外の科目選択の幅を広く設定している。</p> <p>○「総合的な探究の時間」では、3年間をとおして郷土についての理解を深めていき、3学年時には地域の課題を見つけ、活性化に向けた取り組みの提言を行っている。また、地域の歴史や文化を学ぶためのツールとして「のへじ検定」を利用している。</p> <p>○野辺地高校の第1体育館が避難所に指定されていることから、「総合的な探究の時間」の1つの単元として「防災教室」を年に複数回実施し、地域の状況を学びながら防災や避難所設置の知識を習得できるようにしている。</p> <p>○ボランティア活動を推奨しており、野辺地町商工会や野辺地町役場が主催する多種多様なボランティアへの参加を促している。</p> <p>○学校行事として全校生徒による烏帽子岳（標高719, 6m）への耐久登山を実施しており、自然を大切にす心と励まし合いの精神を育て、相互の人間関係をより深め、困難に打ち勝つ強い意志と体力を培い、社会に貢献できるたくましい実行力をもつ人間の育成を促している。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>野辺地町主導の上級学校進学対策として夏季・冬季休業中の外部講師による進学講習事業に参加している。</p> <p>防災教室（令和4年の総探）の際に、野辺地町役場の防災管財課の方に講演をしてもらった。別日の避難所運営訓練の際には、段ボールベッドの組み立て方をレクチャーしていただいた。</p> <p>家庭科の授業において、ハーブ農家の方に協力をいただき、ハーブやカワラケツメイを植えた。</p> <p>ふるさと学習（校外学習）の際に、歴史ガイドは野辺地民族資料館の職員に、調理ガイドでは野辺地町商工会女性部の方々に協力をいただいた。</p> <p>東奥日報の出前授業を活用し、1学年では職業人講話、2学年ではNIEにつながる活動、3学年では現地調査におけるインタビューの方法を学ぶ活動を行った。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>学校行事における生徒の活動の様子（写真とキャプション）を、学校ホームページ上の「今日の野辺地高校」にアップロードしている。</p> <p>生徒会の広報担当の生徒が、野辺地高校新聞を制作し、近隣地域や中学校へ情報発信している。</p>

百石	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科、食物調理科
1. 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>「発見・挑戦・実現～君が輝く場所がある～」のスローガンのもと、生徒一人ひとりが輝く場所をつくるために、令和5年度に学校運営協議会を設立した。</p> <p>町や地域と積極的に連携を図りながら、町や地域の行事や関連事業に生徒を参加させている。ボランティア活動やアルバイト等の社会経験も含め、外部の大人と積極的に関わる活動に取り組んでいる。</p> <p>○長期休業中のアルバイトの奨励 許可制から届け出制に変更し、アルバイト活動を奨励している。活動報告書において、振り返り、働くことの意義や社会とのかかわりについて考えさせている。</p> <p>○ボランティア活動の積極的参加の推進 活動届と活動報告書の提出により、社会との関わりについて考えさせている。</p> <p>○授業において 観点別評価の趣旨を踏まえて、生徒自身のPDCAサイクルの気づき（発見）となるような授業を実践している。また教員の研修を実施し、興味関心を高める授業の改善に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○2・3年生の学校設定科目「新聞を読もうⅠ・Ⅱ」の設定 自分の夢・目標に挑戦するため、世の中の動きを広く知り、深く考えさせている。</p> <p>○おいらせ町の有識者、後援会の理事による面接指導 実践に近い形の面接を経験させることで、進路希望の実現を図っていく。</p> <p>○各種検定資格取得・模擬試験・通塾のすすめ おいらせ町の支援・助成制度を利用した、進路指導の実施。</p> <p>○Mゼミの実施（百石高校で、目標に向かって、学びを究めるゼミ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後の時間に多目的教室を利用して、学びを究めるゼミを実施している。大学生や、企業の協力を得て、出張ユースセンター（自習教室）を開設。 ・セルフコーチング等講習会の実施。

小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	<p>■総合的な探究の時間を柱にしたキャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通したカリキュラム作成。1年時→興味関心を広げる。2年時→テーマを探究する。3年時→進路につなげる。を掲げて、地域や社会の人・もの・ことについて探究する。生徒の主体的な探究態度を育てるために、教員の関与以外にも、可能な限り外部講師によるファシリテーション等を入れながら、自分・地域・社会の中の自分を認知するカリキュラムにしている。 ・探究と地域の課題が結びつくように、地域活動・ボランティアへの積極的な参加の呼びかけをしている。 <p>■生活と福祉での授業における、施設等の訪問（年10回程度）</p>
	食物調理科	各分野（和食・洋食・中華）の専門家による、実習や講義 課題研究における、コンテストへの参加や、食文化の研究
2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全科共通 (主として普通科)	<p>町内での各イベントへの、ボランティア活動への参加</p> <p>おいらせ町広報誌への参加</p> <p>出版委員会を主体として、広報誌への記事の提供、モニター（紙面への意見）活動。</p> <p>おいらせ魅力発見事業への参加</p> <p>おいらせ町の魅力を動画作成し、発信することを目標にした活動。</p>
	食物調理科	<p>町内の各イベントへの出店、二十歳の記念式典でのお祝い膳の提供、販売実習、おやこ食堂等への料理提供</p> <p>イオン下田において「まなびの」への調理レシピの公開や展示</p>
3. 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	Classiを導入し、全校生徒や登録した保護者へ積極的に情報を発信。	
	モモチューブ（保護者作成動画）の配信。学校行事の動画等を保護者等へ限定公開。	
	各マスコミへ取材を依頼。	

六ヶ所	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○1学年から少人数授業を展開し、生徒にきめ細かな指導を行っている。</p> <p>○エネルギーに関する学習などを核燃料サイクル関連企業と連携し、地歴公民科や理科の科目を活用して出前授業を行っている。</p> <p>○地元企業や大学と連携したエネルギーに関する学習、危険物取扱者や第二種電気工事士をはじめ各種検定、資格取得に力を入れた取組を行っている。</p> <p>○地域活性化のため、村役場と連携したふるさと自慢わがまちCM大賞作品の制作を行っている。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>普通科</p> <p>国内有数のエネルギー関連産業の集積地域に立地しており、エネルギーに関連した大学や研究機関、企業と連携したエネルギー学習に取り組んでいる。</p> <p>村内就職の充実に加え、国公立4年制大学への進学実績を高めることに対する期待が大きく、六ヶ所村から支援を受け、ICT学習支援ツールを導入してもらうなど、その実現に取り組んでいる。</p> <p>核燃料サイクル関連企業の協力によるキャリア教育や、資格取得に取り組める体制の構築、村内企業見学会・環境研見学会・インターンシップの実施、また、東北大学や室蘭工業大学の出前授業など多方面との連携体制が整っている。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>本校紹介動画を作成し、ホームページなどから閲覧できるようにしている。</p> <p>本校の教育活動の状況をホームページに掲載したり、六高だよりを村内各家庭に配布したりしている。</p>

三本木農業恵拓	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科、植物科学科、動物科学科、環境工学科、食品科学科
1. 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○農業の各学科においては、本県農業教育の拠点校として幅広く学習できる環境を整え、各分野のプロフェッショナルを目指す教育を進めるとともに、普通科においては、普通教科の学びのほか農業の各学科の学びを生かした学習を取り入れ、特色ある教育活動を展開している。</p> <p>○総合的な探究の時間や課題研究等において、各学科がそれぞれの専門分野や特徴を踏まえながら、教育研究機関、企業、地方公共団体等と連携しながら、課題解決学習に取り組んでいるほか、農業クラブにおいても、地域と連携したプロジェクト等に取り組んでいる。</p> <p>○農業経営者育成高等学校として、寄宿舍生活や農業実習を通して、調和のとれた豊かな人間性を身に付けた人材の育成に取り組んでいる。</p> <p>○農場見学や体験学習の受入れ（生徒によるファームナビゲーターの活動）や、十和田市秋祭りへの参加、アンテナショップサンファームでの農産物の販売など、地域に開かれた教育活動を行っている。</p> <p>○全校田植えなどの生徒が主体的に運営参加する学校行事や多彩な部活動により、仲間と協働しながら物事を達成させる経験を通して、人間力の向上を図っている。</p>
小学科ごとの特長を生かした教育活動	<p>農業の各学科と併置されているメリットを生かし、企業・地元自治体・大学等と連携した探究学習に取り組んでいる。また、これまで三本木農業高校の校内行事として開催している探究学習の全校発表会に普通科も参加している。探究活動の外部コンテストにも積極的に参加しているほか、令和5年度から、三菱みらい育成財団の助成も受けている。</p> <p>普通科 地域・観光コースを設置し、奥入瀬溪流の観光ボランティアガイド活動による学習、地域の魅力を発見し発信する学習、地域の食文化を研究する学習等に取り組んでいる。</p> <p>農業や地域に関する学校設定科目「栽培と資源活用」を開設し、栽培活動を通して本物に触れ深い知識を得る学習に取り組んでいる。</p>

植物科学科	<p>3年間の学びの集大成として、学校設定科目「農業経営シミュレーション」「施設園芸ビジネス」において、全て生徒の力で仮想農業経営を実践し、大規模農業や中小規模農業に対応できる経営者の育成を目指している。</p>
	<p>地域農業の理解と地域を担う人材育成のため、きみがら生産組合や十和田市役所、奥入瀬自然観光資源研究会など諸団体との連携を密にし、当地域における農業や自然・伝統文化の背景を学ぶ機会を設けている。</p>
	<p>JGAP（農業生産工程管理）の学びを積極的に取り入れ、持続可能な農業とSDGsの関連性、環境との結びつきを理解し、地域内外で将来を担う人材育成に取り組んでいる。</p>
動物科学科	<p>畜産や動物について学ぶ県内唯一の学科として、産業動物（牛、鶏）と社会動物（馬、犬、鳥類など）の生理生態、飼養と活用に関する学習を通して、地域における畜産経営者や動物関連産業の技術者の育成を目指している。</p>
	<p>学校設定科目「馬学」「愛玩動物」の学びを通して、スポーツとしての馬術の特性や動物の福祉的・健康的効果に着目させ、愛玩動物と正しいかわり方を持つようとする態度を養っている。</p>
	<p>地元企業と協力しながら課題研究に取り組むとともに、研究の成果を外部のコンテストに参加して発表し、積極的に地域の課題解決に取り組もうとする人材育成に取り組んでいる。</p>
環境工学科	<p>2年生の夏季休業中に、土木・測量・機械関係の関連産業において5日間のインターンシップを行うことにより、社会人になるにあたっての心構えを養い、将来の進路決定に役立てている。</p>
	<p>3年間をとおして、建設現場見学会、測量体験実習、林業しごと体験実習、建設業界の出前授業、スマート農業体験等を段階的に行い、環境土木・農業機械分野の知識・技術を総合的に理解させている。</p>
	<p>体験・実践だけではなく、資格取得にも重点を置き、測量士補・2級土木施工管理技術検定・小型車両系建設機械等において外部講師による出前授業を行っている。</p>

食品科学科	学習内容の深化と職業観の形成を目的とした、インターンシップを1年次に1日、2年次に5日実施している。
	地域資源を発掘し、1・2年次に学んだ食品製造に関する知識や技術を活用した農産加工や畜産加工に挑戦するために学校設定科目「地域資源活用」を3年次に取り組んでいる。
	食品製造に関する原材料を生産する技術や知識の習得も、本校農場施設を活用して実施し、生産から、加工、販売まで学ぶことによって、食に関する仕事につながる学習を行う。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況

他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	ヴァンラーレ八戸の「地域共創パートナー」としての取組について学び、地域の課題解決や自身のキャリアを考える上での参考としている。
	植物科学科	JA十和田おいらせと連携し、より実践的な農業経営や戦略的なフードシステムのあり方について考える姿勢や態度を高めることを目的に、2年次に特別講義や施設見学を行っている。
	動物科学科	県農林水産部や上北地域県民局等と連携し、地域における特徴的な畜産経営の施設見学や科学的な視点を取り入れた飼養管理技術向上研修を行っている。
		県動物愛護センターの協力のもと、犬猫の殺処分ゼロを目指す「命の花プロジェクト」に取り組んでいる。
	環境工学科	青森県測量設計業協会十三支部と連携し、測量の意義や役割について理解するとともに最新測量技術を協働的に学習することを目的として、2年次に測量体験実習を行っている。
	食品科学科	2年次・3年次に八戸工業大学と連携した食品微生物に関する講習と実習を実施している。八戸工業大学の実習施設において実施し、チーズ製造実習をとおして発酵と衛生技術に関する技術習得を目指す。
十和田市立北園小学校3学年と連携し、大豆栽培から収穫、豆腐製造の一連の流れを食品科学科2年生が教師役となり、小学生に指導する。この活動により、本校生徒は技術の深化とコミュニケーション能力の向上を目指す。		
県農林水産部の農業教育高度化事業の一環として、太子食品、プライフーズ、NAMIKIなど地域の食品製造企業の施設見学や、商品開発に関する講演と実習を計画し、商品開発の流れを体験的に学ぶ学習を実践している。		

3 情報発信に係る状況

学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学科行事を、学校ホームページ上に掲載し、取組状況を配信している。
-----------------------	----------------------------------

田名部	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科	
1. 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○多くの生徒が4年制大学への進学を希望し、ICTを積極的に活用することで、わかる授業を展開している。</p> <p>○課題探究型の学習に積極的に取り組み、生徒の主体的な学びを促している。</p> <p>○英語学習法として「TANABU MODEL」を開発し、先進的な授業を展開、発信している。</p>	
2. 高校間、地域、企業、関係機関などの連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科	重点校として、進路指導に係る事業（例：外部講師を招いたキャリア学習「The プロフェッショナル」）を企画し、下北管内の連携校への働きかけを行っている。
		青森大学、明の星短期大学との高大連携協定を締結しており、大学教員による出張講義、教育についての情報交換及び交流を図ることを目指している。
		むつ市が大手予備校とタイアップして実施している「まさかり高校プロジェクト」に難関大学を志望する生徒を中心に参加し、学力向上に結びついている。
		ボート部が地元ボート競技会「まさかりレガッタ」の運営に協力するなど、各部とも地域の活動に積極的に協力している。
3. 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学校HPを活用し、学校行事や課外活動等で生徒が生き生きと活動している様子を発信している。	

大間	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○めんちょ活動部(全生徒加入)が地域の祭事やイベントに参加することで、地域協働活動に貢献している。</p> <p>○北通り3町村(大間町、風間浦村、佐井村)から経済的支援を受け、動画配信サービス(スタディサプリ)の登録料や資格検定(漢検、数検、英検)受験料及び外部模試受験料補助に活用している。今年度は船舶免許受験補助も計画している。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>総合社会教育センター主催の高校生スキルアッププログラムに参加し、令和3年度9回、令和4年度8回の講演会を開催した。令和5年度も3回実施しており、昨年度は、認定証獲得生徒を1名出している。</p>
	<p>ボランティア活動部が青森大学から講師を招聘して、保育園や幼稚園において、読み聞かせ活動に取り組んでいる。</p>
	<p>異年齢の幼稚園児や小学生と一緒に、フラワーデーやクリーンデーと呼ばれる学校行事を開催することで、美化意識とコミュニケーション能力の向上を図っている。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学校ホームページによる掲載と新聞社投げ込み。

八戸	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○授業第一主義を徹底し、全ての教科において質の高い授業と手厚い指導を展開している。特に現在は、生徒自らが学力を高めていく仕組みづくり、授業におけるICTの活用及び資質・能力ベースの教科横断的な学びの推進に取り組んでいる。</p> <p>○グローバル教育を推進し、語学力向上のための取組を積極的に実施している。現在中断している海外語学研修については、代替のオンライン留学等を実施して活動を途切れないう工夫している。感染症の状況に応じて語学研修は再開する方向である。</p> <p>○3年間を見通した進路指導計画に従い、難関大学、医学科志望者のためのプログラムなどを作成し、体系的、組織的、継続的な指導を行うことで県内有数の実績を挙げている。</p> <p>○「須く自重スヘシ 唯本分ニ向ツテ猛進セヨ 師ヲ敬シ友ヲ愛セヨ」の綱領のもと、逆境に耐え抜く力＝八高魂の育成を目指して、生徒の部活動も積極的に支援し、文武両道の校風が確立している。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>普通科</p> <p>県南地域の重点校として、近隣の高校と合同で生徒の学力向上を目的とした学習会、教員の指導力向上を目的とした研修会を定期的で開催し、難関大学進学、医学科進学における地域の中心的役割を果たしている。</p> <p>総合的な探究の時間で実施しているグループ研究において、課題設定の方法や調査分析の進め方等について、八戸工業大学、八戸学院大学、岩手大学の教員から専門的なアドバイスを受けながら研究活動を進めている。</p> <p>「あおり創造学」において、地元の強みとなるものの現状を認識するため、八戸市商工労働観光部職員や地元企業の方から地域経済等について講演していただくとともに、地元で活躍している企業や地域の文化財の見学を行い、地域の発展について考える活動を実施している。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	HP内に学校行事のページを準備し、各行事における生徒の活動の様子等を写真付きで紹介している。

八戸東	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科、表現科	
1. 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○朝読書を実施し、書物に親しむ態度と読解力を育成している。</p> <p>○1・2年次でビブリオバトルを実施し、プレゼンテーション能力を養っている。</p> <p>○面談週間を設け、生徒の学習や内面の悩みを教員がサポートしている。</p> <p>○県内外の大学見学会や大学出前講義などを通して学問研究を行い、自分の進路目標を明確化している。</p> <p>○総合的な探究の時間で課題研究を行い、自ら設定した課題に対する解決策をチームで考察し、発表することで、協働性とプレゼンテーション能力を養っている。</p> <p>○ボランティア活動への積極的な参加を通して、幅広く地域の方々と交流している。</p> <p>○表現科公演や文化部の自主公演などのイベントに多くの地域の方々を招き、本校の教育活動への理解を深めている。</p> <p>○学習と部活動の両立に取り組んでいる。書道部、音楽部、演劇部、放送部など文化部の活動も盛んで、東北大会や全国大会に出場している。</p> <p>○生徒会が中心となって学校行事の充実に取り組んでいる。</p> <p>○ICT機器の積極的な活用に取り組んでいる。</p> <p>○キャリア教育の全体計画を作成し、全教科・科目、特別活動、課題活動を通してキャリア教育に取り組み、学ぶことを通して自らの将来を設計できる生徒の育成を目指している。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	進路希望に応じた文理選択と科目選択を行い、進路目標の達成に努めている。
		探究活動を通して、課題を分析し、他と協働して解決策を立案する能力を養っている。
		学問研究や進路研究を通して、自己の適性を活かした社会貢献を志向する態度を養っている。
	表現科	多種多様なワークショップを実施することで、思考力、判断力、表現力を育成している。
		校外施設見学や校外実習など、地域と連携して学ぶことにより、地域貢献しようとする意欲を高めている。
		表現科公演の企画、運営を通して、主体性や協働性を養っている。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況

他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	県内外の大学から講師を迎えて出前講義を実施し、学問研究に活かしている。
		近隣小学校での学習支援、地域の祭、花火大会、ホコテン、児童科学館、成人式など、数多くのボランティア活動に積極的に参加し、地域貢献する態度を育成している。
		看護体験、薬剤師体験、福祉施設体験等への参加を通して、職業意識を高めている。
	2年次に「はちのへ創造学」（地域探究）を実施するにあたり、市役所、商工会議所、市民病院等と連携し、助言を得ながら研究を進めている。	
	表現科	劇作家、舞踊家、大学教員、新聞社員、劇団員等を講師に迎え、数多くのワークショップを実施することで、思考力や表現力、協働性を養っている。

3 情報発信に係る状況

学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学校HPの充実と迅速な更新を心がけている。
	県南地域と岩手県北地域の中学校に表現科公演の案内をし、観覧してもらうことで、表現科への理解を深めている。

八戸北	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○「授業第一主義」の学習指導 単位制であることを活かし、生徒の興味・関心に応じた多様な選択科目（学校設定科目）の開設や少人数・習熟度別授業による個に応じた学習指導の充実に取り組んでいる。</p> <p>○進路指導の充実 難関大志望者には「難関大プロジェクト」、看護師等の医療系志望者には「メディカルプロジェクト」を、1年次より3年計画で実施している。</p> <p>○生徒のメンタルサポートの充実 スクールカウンセラー（年間30回）や本校独自のメンタルコーチ（事前申し込み不要、放課後の廊下ベンチで年間20回）によるメンタルサポート、チーム八北高・生徒懇談会（管理職を含む全職員による個別面談）、教育支援委員会の効果的な運用、生徒情報をこまめに共有するなど、組織的かつ迅速な対応により、安心して学習に専念できる環境づくりに努めている。</p> <p>○生徒が自ら学び、教え合う最適な学習環境 学習センターやテラス、廊下随所に設置されたホワイトボードや机・椅子など、生徒が主体的に学び、互いに教え合うことができる学習環境が整っており、休日も含め生徒がいつでも自由に利用可能となっている。</p> <p>○オンライン授業体制が整備され、急な出席停止等にも即対応できる。</p>	
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科	ボランティアによる地域のイベント補助や清掃活動、吹奏楽部による慰問演奏など。
	普通科	三高合同（八戸高校・八戸東高校・本校）の卒業論文発表会の実施
	普通科	校外学習の一環として、地域の企業や施設等を見学し、地域課題について考え相互に発表する機会としている。
	普通科	八戸工業大学、八戸学院大学との連携による探究活動の助言指導、講演会の実施、校外での発表会の実施等。
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	○HPに写真付きで生徒の取り組む様子をUPしたり、年次通信などの各種通信を通じて発信している。	

八戸西	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科、スポーツ科学科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○普通科とスポーツ科学科の併設により、上級学校に進学するための確かな学力を身に付け、より高いレベルの部活動を行うことができる。その結果、9割以上の生徒が進学するとともに、部活動面ではスピードスケート部、文芸部、華道部が全国大会で入賞、柔道部、テニス部、陸上競技部などが全国大会出場を果たしている。</p> <p>○三大型事の球技大会、文化祭、運動会では生徒が主体となって活動し、自ら考え行動できるリーダー性、クラスが団結するために必要な協調性などを育成している。</p> <p>○ICTを活用した学習に積極的に取り組み、生徒が個に応じた学習を行える環境を整えている。</p> <p>○生徒の進路希望実現に向けて、放課後の講習、面接・小論文指導、プレゼンテーション講座等を実施するなど、個別に対応した進路指導を全教員で行っている。</p> <p>○総合的な探究の時間において、NIE活動を通して地域の活動のことについて考えたり、各生徒の興味・関心に応じて課題を設定し、グループまたは個人で探求ながら課題研究を行っている。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	ほとんどの生徒が上級学校への進学を考えているので、授業内容は基礎基本から応用まで幅広く扱い、学力の向上に努めている。
		長期休業中の講習や3年生での放課後講習では演習を多く取り入れ応用力の養成に力を入れている。
	スポーツ科学科	数学の授業において習熟度別クラス編成を行い、個々に応じた手厚い教科指導を行っている。
		<p>スポーツ科学科が目指す将来像3本柱（3T：ティーチャー、トレーナー、セラピスト）の達成に向け、毎日の授業を大切にして「基礎体力・基礎学力を定着させる」とともに、体験的学習である各種特別授業を充実させることで、スポーツに関わる人材としての実践力を育成している。</p> <p>スポーツに関わる人材を育成するため、スポーツに関する専門科目の学習を基本とし、学校生活のすべての場面で自己の役割を見つけるとともに、部活動（スポーツ活動）に意欲的に取り組むことで、「リーダー性を身につける」ことに取り組んでいる。</p> <p>スポーツに関する特別授業、公開講座、実習をとおり、専門的な知識・技能を学ぶとともに、地域や幅広い世代の人々との交流を図ることで、「福祉の心を学び、コミュニケーション能力を身につける」ことに取り組んでいる。</p>

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>全学科</p> <p>地域ボランティア活動して、三社大祭、八戸花火大会、科学の祭典などに積極的に参加し、地域に貢献する態度を育成し、ふるさとを思う心を育てている。</p> <p>「あおり創造学」では八戸学院大学、八戸工業大学、市役所に講師を派遣してもらい、生徒の探究活動の助言をいただいている。</p> <p>学習支援ボランティア「寺子屋」では、本校生徒が長期休業中に小学校に出向いて小学生に勉強を教えており、本校生徒の自立心養成に役立っている。</p>
	<p>スポーツ科学科</p> <p>弘前大学教育力向上プロジェクト「ラボ・バス」に参加し、実験・測定・分析を活用した授業を体験している。大学教授による専門的な授業により、生徒にとって進路選択の視野を広げるための学習であるとともに、スポーツサイエンスをより専門的に学ぶことができる取組となっている。</p> <p>八戸高等特別支援学校との交流を通じて、障がいのある生徒と本校スポーツ科学科の生徒が相互に理解を深め、スポーツを通じたノーマライゼーションの実現を目指す。また、障がい者スポーツへの理解を深める取組となっている。</p> <p>スポーツ科学科公開講座を実施している。中学校3年生を対象に、本校スポーツ科学科の授業を実際に体験してもらい、本校スポーツ科学科に興味・関心を持ってもらうとともに、本校スポーツ科学科2学年生徒が指導者の役割も体験することで、スポーツ指導者としての資質を育成する取組となっている。</p> <p>スポーツ科学科3学年の特別授業として「車椅子バスケットボール」を実施。青森県内にある車椅子バスケットボールチームのメンバーの方々に来ていただき指導を受けている。障がいのある方とのスポーツ交流をとおして福祉について学び、障がい者スポーツについての理解を深める取組にもなっている。</p> <p>八戸圏域高等学校地域活動促進事業にスポーツ科学科第1学年が参加している。昨年度は、高齢者向けに「おうちでできる簡単エクササイズ」を考え、動画を作成してYouTubeで配信している。この内容について、学生&高校生まちづくりコンペティションに参加して発表をした。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	ホームページに学校行事の様子や各部活動の実績などを掲載している。また昨年度、見直しをした校則や生徒用のいじめ防止基本方針なども掲載し情報発信をしている。

三戸	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○ 少人数指導の利点を活かし、個別指導、個別相談により生徒一人一人にきめ細やかな教育活動を行っている。</p> <p>○ 第2学年からコース選択制を導入し、生徒の多様な進路希望に応じた授業を展開している。</p> <p>○ ICTを利活用し、地域連携・協働による体験的な活動を通して、地域社会に貢献できる資質を養っている。</p> <p>○ 三戸町三戸高等学校魅力化推進事業費補助金（資格取得支援・進路達成支援・部活動振興支援）を活用した教育活動を行っている。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>普通科</p> <p>県内の大学から先生方をお招きし、大学出張講座「三戸大学」を行っており、今年も就職希望者向けにも講座を設け、「ジョブカフェあおもり」からも講師を依頼した。生徒たちは自分の将来の進路を見据え、進路希望ごとに各分野で学習した。</p> <p>外部講師によるキャリア形成・研修講座、キャリア形成講座をとおり、地域観光資源・三戸ブランドに関する情報発信やプレゼンテーションの技法を学習している。</p> <p>三戸高校商品開発プロジェクトでは、地元産品を活用した特産品開発から販売まで行うことで、地域の特色を活かしたビジネスの振興策を考案して実験的・体験的な学習を通じ必要な資質能力の育成を目指している。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>ローカルメディア活用した三戸郡の「町の魅力」を情報発信をしている。</p> <p>三高かわら版「白坂台」を適宜発行し、ホームページに掲載するとともに近隣中学校へも郵送している。</p>

五所川原	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科、理数科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○校訓として「敬愛、叡知、進取」を掲げ、「力行天下第一」の学校標語のもとに研鑽を積むことにより、自己実現を図り、社会の変化に主体的に対応しつつ、その発展に寄与できる心豊かな人間を育成することを目標としている。</p> <p>○育成を目指す資質・能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな知性と教養を兼ね備え、社会の発展を担うことができるグローバルな人財 2. 探究心をもち、広い視野と柔軟な発想で、これからの社会を創造していく人財 3. 自他の人間性を尊重して協働する、心豊かな人財 <p>○難関大学や医学部医学科の合格実績を出すばかりでなく、卒業生は行政・教育・金融・治安維持・企業経営などの分野でも活躍しており、地域を支える人材を輩出している。</p> <p>○長年の進学指導で蓄積してきたノウハウ、大学等の高等教育機関、模擬試験運営会社や予備校などの教育関連企業とのつながり、そして各界で活躍している卒業生は、本校の教育活動に重要な役割を果たしていることが強みである。</p> <p>○五高祭やスポーツフェスティバルなどの学校行事は、生徒会が中心となって生徒主体で企画・運営し、協働力を育んでいる。</p> <p>○部活動加入率は90%を超え、沢山の生徒が活発に活動しており、複数の部活動で全国大会出場を果たしている。高いレベルでの文武両道を目指している。</p> <p>○立佞武多については、卒業生や保護者と協力しながら、生徒が直接、制作・運行を行って祭りに参加し、地域の伝統文化を継承している。</p> <p>○「奥津軽虫と火まつり」親善大使など校外ボランティアに積極的に参加することで、地域活性化に貢献している。</p>

小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	1学年では普通科・理数科において全員が同一の教科を学び、2学年からそれぞれの進路志望や適性に応じて、普通科（文系・理系）と理数科に分かれて学ぶ。
		ほとんどの生徒が進学を目指していることから、教育課程・講習・小論文指導・校外模試など、生徒の学力向上のための指導を充実させている。また、1年生を対象とした大学教員による出前講義や学部説明、各学年で行われる進路講演会など、生徒の意識を高める進路行事も多数企画している。
		総合的な探究の時間「力行タイム・SD探究」において、国際社会や地域の諸課題と自己との関わりから課題を設定し、その解決に向けて自ら仮説を立て、情報を集め、検証・整理・分析し、論理的にまとめ発表する力を育成する。グループでの教科横断的探究活動と言語活動によりキャリア形成を図る。
	理数科	理数科は、自然科学や数学に強い関心を持ち、将来理数系の学問の研鑽を目指して進学しようとする生徒に対して、より多くの理数科目の学習や実験・実習を通し、広い視野に立って活躍できる研究者・技術者の育成を目的としている。
		理数探究は理数科独自のプログラムで、理科・数学の各分野から生徒自身が設定したテーマを、半年以上かけて少人数グループで継続研究する。研究計画の立て方、測定方法、データ整理、プレゼンテーションなど、様々なことを学ぶ。最後に研究成果を校内外で発表する。
		Science Research Projectは1年理数科予定者が参加する2泊3日の研究機関訪問である。東大生とのワークショップや日本科学未来館での体験学習など、理数探究への意欲向上を図るとともに将来の進路決定の一助となる。
Effective Learning Campは1年理数科予定者と2年理数科との2泊3日の合同学習合宿である。教科の講習に加え、進路講演会や予備校講師の講習、さらに1・2年合同の講義では2年生が1年生に教える活動もあり、互いに切磋琢磨することにより、進学意欲と学習意欲の高揚を目指す。		

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>全学科</p> <p>西北地区の県立高校5校が集結し、「あおり創造学」や課題研究等で行われている特色ある探究学習の研究成果を互いに共有する合同発表会を主催し、教科横断的な学びや探究学習の深化につなげ、西北地区の教育の質の向上を図る。</p> <p>台湾の高校（永春高級中学）と、産業・ビジネス・環境科学等の学習内容を基礎とした、主体的で実践的な協働学習を推進し、グローバルな視野と感覚を備え、将来の本県の産業やビジネス等を担う人材の育成を図る。</p> <p>大学教員と連携した生徒対象の模擬講義、キャッチ・ザ・大学を実施している。</p> <p>総合的な探究の時間SD探究校内発表会は、西北地区の高校や保護者、協力いただいた地域の関係者に公開している。</p> <p>立佞武多において、本校生徒が制作した立佞武多を披露するとともに、多数の生徒が独自の踊りを踊って練り歩くことにより、地域の活性化に貢献している。立佞武多をはじめとする地域の伝統の継承、地域を支える人財の輩出も重要な貢献と考えている。</p> <p>「奥津軽虫と火まつり」親善大使など校外ボランティアに積極的に参加することで、地域活性化に貢献している。</p>	
	<p>理数科</p> <p>理数探究での大学と連携した発表会やコンテストにおける、大学研究者からの助言や情報共有により、更なる研究意欲の向上を図る。</p> <p>東京大学や研究施設等と連携したScience Research Project（2泊3日の研究機関訪問）において、理数探究への意欲向上を図るとともに将来の進路決定の一助となる。</p> <p>理数科講演会を年3回実施し、東京大学や東北大学の最先端の研究内容について学び、科学的素養の育成を図っている。</p> <p>理数科対象の講演会は、西北地区の高校教員に公開している。</p>	
	3 情報発信に係る状況	
	学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>理数科理数探究に関する情報提供は、学校HPに掲載するとともに、西北地区中学校・高校にも配布している。</p> <p>生徒会が公式Instagramを開設し、様々な行事や活動の様子を生徒目線で捉え、重点校としての魅力広めている。</p>

青森北	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科、スポーツ科学科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○文武両道をスローガンに掲げ、学習と部活動等の両立により、学校生活の充実と進路志望の達成を図っている。</p> <p>○ICT機器の活用等を含め、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努めている。</p> <p>○部活動が盛んである。特に運動部は、トレーニングルームや室内練習場などの施設を最大限活用し、県内の大会はもちろん、東北大会や全国大会でもめざましい活躍を見せる生徒を毎年多く輩出している。</p> <p>○文化祭における1年各クラスによるかかし及び金魚ねぶたの制作を通じて、地域への誇りや愛着の心の育成につなげている。</p>
小学科ごとの特長を生かした教育活動	<p>8割近くの生徒は進学希望で、そのうち約半数の生徒が国公立大学を希望しているため、それに対応した教育課程を編成し、多様な入試制度を活用しながら、教職員全員体制で志望理由書、小論文、面接等の指導を行い、生徒の進路志望の達成を図っている。</p>
	<p>普通科 生徒の進路志望の実現に向け、1・2年では原則として全員、3年では進学希望者を対象に長期休業中に(3年は放課後も)講習を実施している。また、公務員志望者を対象に外部講師による公務員学内講座を実施している。</p> <p>大学体験講座の実施や弘前大学オープンキャンパスへの参加を通じて、生徒の進学に対する意識を高めている。</p>
	<p>スポーツ科学科 4年制大学や専門学校、民間企業、公務員と、生徒の進路志望が多岐にわたっているため、基礎基本を重視した教科の学習及びスポーツに関する科目を充実させた教育課程を編成している。</p> <p>専門科目では、ダンス、水泳、テーピング、キャンプ、カーリング、スケート、スキー・スノーボードの実習を取り入れ、生徒が多様なスポーツに関わる機会を設定している。</p> <p>特別支援学校スポーツ大会の運営に携わり、障害者スポーツへの理解を深めている。</p> <p>日々の授業や実習で学んだこと、身につけたことを実技発表会で披露している。また、3年時には卒業研究を行い、その成果を論文集にまとめている。</p>

2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	野木和公園枝拾い、あおり桜マラソン大会運営、油川ふるさと海岸清掃などのボランティア活動や、油川ねぶた、油川音楽祭などの地域の行事に多くの生徒が積極的に参加し、地域に貢献する態度を養うとともに、まちづくりに参画している。
	普通科	ほとんどの生徒が県総合社会教育センターのスキルアッププログラムに登録し、放課後、休日、または長期休業中に、学校外の講座、講演会、体験会などの学びの場に参加することで、将来、社会の変化に柔軟に対応して生きていくための様々なスキルの獲得・向上に努めている。
	スポーツ科 学科	青森第一高等養護学校とスポーツを通じた交流を行い、他者を思いやる心の育成につなげている。
3. 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	大きな行事や部活動関連の主要な大会があるごとに、学校HPを更新し、生徒の活動の様子や戦績を写真も交えて紹介している。	

弘前実業	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	商業科、情報処理科、家庭科学科、服飾デザイン科、スポーツ科学科	
1. 学校の特徴等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○商業科、情報処理科、家庭科学科、服飾デザイン科、スポーツ科学科の3部5科を設置する「総合専門高等学校」である。</p> <p>○専門学科における外部講師や高大連携を活用した授業の実施。</p> <p>○生徒の興味・関心・適性等に合わせた多様な科目を選択を可能とする総合選択制の実施。</p> <p>○部活動の加入率は86%（運動部56%、文化部30%）と高く、人間性の向上を目指して活発に取り組んでおり、多数の部活動が全国大会等へ出場している。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	商業科	職業人としての基礎的・基本的な知識や技術に重点を置いた授業を展開し、ビジネスの仕組みや必要とされるスキルを身に付けさせ、生徒自身が学習の成果を確認し、主体的に学習に取り組むことを目的に全商協会の検定を活用している。
		より専門的な学習充実のため、専門学校に講師を依頼し、特別授業を実施している。上級日商簿記検定にチャレンジしている。
		郷土に愛着をもち、地域を支え、地域の振興・発展に貢献できる人材を育成するため、地域資源、地域人材を積極的に取り入れ、講義や演習、体験を行っている。
	情報処理科	高度情報社会の一員としての基礎的・基本的な知識や技術に重点を置いた授業を展開し、情報スキルの実践的・体験的な学習活動を通して、生徒自身が学習の成果を確認し、主体的に学習に取り組むことを目的に全商協会の検定を活用している。
		より専門的な学習充実のため、専門学校に講師を依頼し、特別授業を実施している。ITパスポートや情報セキュリティマネジメントにチャレンジしている。
		郷土に愛着をもち、地域を支え、地域の振興・発展に貢献できる人材を育成するため、地域資源、地域人材を積極的に取り入れ、講義や演習、体験を行っている。

家庭科学科	<p>栄養や調理、地域の食文化に対する知識や技術を身に付ける講義や実習をとおして、食物調理技術検定やおもり食育検定などに積極的に挑戦している。</p>	
	<p>専門的な知識を深め、技術を向上させるため、調理や福祉、商品開発にともなう知的財産についてなど、外部講師を招いての講義を積極的に取り入れている。</p>	
	<p>地域の生活産業について理解を深めるため、校外での学習や施設での実習、インターンシップを行っている。</p>	
服飾デザイン科	<p>豊かな創造力と専門的な知識や技術向上のため、プロの方を外部講師に招いた授業を展開している。</p>	
	<p>地域の発展に貢献できる人材育成を目指し、関連企業と協力しデザイン角巻きを製作している。</p>	
	<p>ファッションショー衣装製作の縫製技術向上のため、被服製作技術検定（洋服・和服）1級まで挑戦させている。</p>	
スポーツ科学科	<p>競技力の向上のみならず、体育・スポーツ分野の振興に寄与する知識と能力を備えた人材の育成に取り組んでいる。</p>	
	<p>スポーツ活動を通じて、多様性を尊重する豊かな人間性を育て、社会・地域に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。</p>	
	<p>専門的な学習充実のため、実習では外部講師を活用し、地域と連携した学習を行っている。</p>	
2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	商業科 情報処理科	<p>県内の商業を学ぶ4校と連携、協力し、庁内ベンチャー事業に取り組んでいる（台湾祭や台湾研修）。</p>
	商業科 情報処理科	<p>2年課題研究では、地域人材を活用し、地域の現状や課題、生徒の視野を広げるための講話を、8コマ程度計画している。既に4コマを実施済みである。</p>
	商業科 情報処理科	<p>3年課題研究では、商業の学びを生かした「地域貢献」をメインテーマとし、地域の現状や課題等について理解を深め、行政や民間企業、大学等からの情報収集やアドバイスを受けながら、解決に向けて主体的に取り組んでいる。</p>

商業科 情報処理科	2年生を対象に、高校生就職総合支援プロジェクト事業を活用し、商業科では日商簿記検定2級対策講習会を2日間、情報処理科ではITパスポート試験対策講習会及びプログラミング言語pythonの演習を2日間、実施予定である。
情報処理科	2年生を対象に、県内高校と連携したIT人財の定着推進事業を活用し、プログラミング、メタバース体験等の講義・演習を15回程度実施予定である。
家庭科学科	3年課題研究では、「地域課題の掘り起こしと解決策の提案」をテーマに、JA、弘果、洋菓子店舗などの企業や地域のNPO、その他研究会等と連携し、りんごや米、津軽の食文化などに関する助言等をいただきながら、調査・研究活動を行っている。
服飾デザイン科	3年課題研究において、青森県の冬の観光を盛り上げようと活動している「あおもり冬活会議」と協力し、昭和で姿を消した伝統角巻きに着目して、新しい魅力を加えたコンセプトやデザインについて話し合い、世界に一点しかないオリジナルデザイン角巻きを製作している。
スポーツ科学科	特別支援学校高等部の生徒と、スポーツ活動での交流事業を行っている。また、校外実習では各競技団体などに講師を依頼し、専門性を高める学習を行っている。
3. 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	HPに生徒の学習内容や「あおもり創造学」についてUPしている。

八戸西	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科、スポーツ科学科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○普通科とスポーツ科学科の併設により、上級学校に進学するための確かな学力を身に付け、より高いレベルの部活動を行うことができる。その結果、9割以上の生徒が進学するとともに、部活動面ではスピードスケート部、文芸部、華道部が全国大会で入賞、柔道部、テニス部、陸上競技部などが全国大会出場を果たしている。</p> <p>○三大大行事の球技大会、文化祭、運動会では生徒が主体となって活動し、自ら考え行動できるリーダー性、クラスが団結するために必要な協調性などを育成している。</p> <p>○ICTを活用した学習に積極的に取り組み、生徒が個に応じた学習を行える環境を整えている。</p> <p>○生徒の進路希望実現に向けて、放課後の講習、面接・小論文指導、プレゼンテーション講座等を実施するなど、個別に対応した進路指導を全教員で行っている。</p> <p>○総合的な探究の時間において、NIE活動を通して地域の活動のことについて考えたり、各生徒の興味・関心に応じて課題を設定し、グループまたは個人で探求ながら課題研究を行っている。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	ほとんどの生徒が上級学校への進学を考えているので、授業内容は基礎基本から応用まで幅広く扱い、学力の向上に努めている。
		長期休業中の講習や3年生での放課後講習では演習を多く取り入れ応用力の養成に力を入れている。
		数学の授業において習熟度別クラス編成を行い、個々に応じた手厚い教科指導を行っている。
	スポーツ科学科	スポーツ科学科が目指す将来像3本柱（3T：ティーチャー、トレーナー、セラピスト）の達成に向け、毎日の授業を大切にして「基礎体力・基礎学力を定着させる」とともに、体験的学習である各種特別授業を充実させることで、スポーツに関わる人材としての実践力を育成している。
		スポーツに関わる人材を育成するため、スポーツに関する専門科目の学習を基本とし、学校生活のすべての場面で自己の役割を見つけるとともに、部活動（スポーツ活動）に意欲的に取り組むことで、「リーダー性を身につける」ことに取り組んでいる。
		スポーツに関する特別授業、公開講座、実習をとおり、専門的な知識・技能を学ぶとともに、地域や幅広い世代の人々との交流を図ることで、「福祉の心を学び、コミュニケーション能力を身につける」ことに取り組んでいる。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>地域ボランティア活動して、三社大祭、八戸花火大会、科学の祭典などに積極的に参加し、地域に貢献する態度を育成し、ふるさとを思う心を育てている。</p> <p>「あおり創造学」では八戸学院大学、八戸工業大学、市役所に講師を派遣してもらい、生徒の探究活動の助言をいただいている。</p> <p>学習支援ボランティア「寺子屋」では、本校生徒が長期休業中に小学校に出向いて小学生に勉強を教えており、本校生徒の自立心養成に役立っている。</p>
	<p>全学科</p> <p>弘前大学教育力向上プロジェクト「ラボ・パス」に参加し、実験・測定・分析を活用した授業を体験している。大学教授による専門的な授業により、生徒にとって進路選択の視野を広げるための学習であるとともに、スポーツサイエンスをより専門的に学ぶことができる取組となっている。</p> <p>八戸高等特別支援学校との交流を通じて、障がいのある生徒と本校スポーツ科学科の生徒が相互に理解を深め、スポーツを通じたノーマライゼーションの実現を目指す。また、障がい者スポーツへの理解を深める取組となっている。</p> <p>スポーツ科学科公開講座を実施している。中学校3年生を対象に、本校スポーツ科学科の授業を実際に体験してもらい、本校スポーツ科学科に興味・関心を持ってもらうとともに、本校スポーツ科学科2学年生徒が指導者の役割も体験することで、スポーツ指導者としての資質を育成する取組となっている。</p> <p>スポーツ科学科3学年の特別授業として「車椅子バスケットボール」を実施。青森県内にある車椅子バスケットボールチームのメンバーの方々に来ていただき指導を受けている。障がいのある方とのスポーツ交流をとおして福祉について学び、障がい者スポーツについての理解を深める取組にもなっている。</p> <p>八戸圏域高等学校地域活動促進事業にスポーツ科学科第1学年が参加している。昨年度は、高齢者向けに「おうちでできる簡単エクササイズ」を考え、動画を作成してYouTubeで配信している。この内容について、学生&高校生まちづくりコンペティションに参加して発表をした。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	ホームページに学校行事の様子や各部活動の実績などを掲載している。また昨年度、見直しをした校則や生徒用のいじめ防止基本方針なども掲載し情報発信をしている。

青森南	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科、外国語科	
1. 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	地域社会やグローバル社会における課題に主体的に取り組む学習を充実させている。 学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等の体験を重視した教育活動を展開している。	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	弘前大学による高大連携公開講座の受講
		姉妹校等とのオンラインによる交流
	外国語科	近隣の大学に在籍している留学生との交流
		弘前大学による高大連携公開講座の受講
		姉妹校等とのオンラインによる交流
2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	姉妹校等とのオンラインによる交流や近隣の大学に在籍している留学生との交流
		弘前大学による高大連携公開講座の受講
		生徒の探究活動を元にした ①地域の小学生、中学生、保護者を対象とした世界遺産検定に向けた講習会を企画・運営し、生徒が講師を務めた。 ②白神山地について、英語によるガイドを8月に実施する。 ③昨年度、生徒が2つの中学校で、平和やSDGsについて考える出前授業を行った。あわせて、今年度も特別支援学校との交流や地域の子どもたちへの読み聞かせボランティアに取り組んでいる。 なお、コロナ前には、英語を用いて、クルーズ船の乗客や郷土館への来館者等の外国人観光客の案内をするボランティアに取り組んでいた。
3. 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	本校ホームページやPTA新聞、マスコミを通じて、外部に発信している。	

八戸東	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科、表現科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○朝読書を実施し、書物に親しむ態度と読解力を育成している。</p> <p>○1・2年次でビブリオバトルを実施し、プレゼンテーション能力を養っている。</p> <p>○面談週間を設け、生徒の学習や内面の悩みを教員がサポートしている。</p> <p>○県内外の大学見学会や大学出前講義などを通して学問研究を行い、自分の進路目標を明確化している。</p> <p>○総合的な探究の時間で課題研究を行い、自ら設定した課題に対する解決策をチームで考察し、発表することで、協働性とプレゼンテーション能力を養っている。</p> <p>○ボランティア活動への積極的な参加を通して、幅広く地域の方々と交流している。</p> <p>○表現科公演や文化部の自主公演などのイベントに多くの地域の方々を招き、本校の教育活動への理解を深めている。</p> <p>○学習と部活動の両立に取り組んでいる。書道部、音楽部、演劇部、放送部など文化部の活動も盛んで、東北大会や全国大会に出場している。</p> <p>○生徒会が中心となって学校行事の充実に取り組んでいる。</p> <p>○ICT機器の積極的な活用に取り組んでいる。</p> <p>○キャリア教育の全体計画を作成し、全教科・科目、特別活動、課題活動を通しキャリア教育に取り組み、学ぶことを通して自らの将来を設計できる生徒の育成を目指している。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	進路希望に応じた文理選択と科目選択を行い、進路目標の達成に努めている。
		探究活動を通して、課題を分析し、他と協働して解決策を立案する能力を養っている。
		学問研究や進路研究を通して、自己の適性を活かした社会貢献を志向する態度を養っている。
	表現科	多種多様なワークショップを実施することで、思考力、判断力、表現力を育成している。
		校外施設見学や校外実習など、地域と連携して学ぶことにより、地域貢献しようとする意欲を高めている。
		表現科公演の企画、運営を通して、主体性や協働性を養っている。

2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	県内外の大学から講師を迎えて出前講義を実施し、学問研究に活かしている。
	全学科 近隣小学校での学習支援、地域の祭、花火大会、ホコテン、児童科学館、成人式など、数多くのボランティア活動に積極的に参加し、地域貢献する態度を育成している。
	看護体験、薬剤師体験、福祉施設体験等への参加を通して、職業意識を高めている。
	2年次に「はちのへ創造学」（地域探究）を実施するにあたり、市役所、商工会議所、市民病院等と連携し、助言を得ながら研究を進めている。
表現科	劇作家、舞踊家、大学教員、新聞社員、劇団員等を講師に迎え、数多くのワークショップを実施することで、思考力や表現力、協働性を養っている。
3. 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学校HPの充実と迅速な更新を心がけている。
	県南地域と岩手県北地域の中学校に表現科公演の案内をし、観覧してもらうことで、表現科への理解を深めている。

五所川原農林	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	生物生産科、森林科学科、環境土木科、食品科学科	
1. 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○国際認証教育（GLOBALG.A.P.認証取得(9年目)、FSC認証取得(7年目)）</p> <p>○プロジェクト学習の成果を各種発表会やコンテストで発表</p> <p>○農業クラブ主催の全校田植え・稲刈りの実施</p> <p>○アグリマイスター顕彰制度での学校表彰（7年連続）</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	生物生産科	地域企業（(株)みちのくクボタ、(株)ヤンマーアグリジャパン等）と連携し、スマート農業機械を利用した水稻栽培実習に取り組んでいる。
		県外製菓メーカー（岩塚製菓）と協働で、五所川原農林高校産の米を加工した米菓（煎餅）を製造・販売している。
		りんご研究会（板柳町りんごわい化栽培技術研究会）と連携し、りんご栽培最新技術である高密度栽培の実証試験と普及活動に取り組んでいる。
		フードバンク活動を運営し、地域団体と連携して、地域の親子に農産物提供と異年齢交流に取り組んでいる。
	森林科学科	青い森林業アカデミーによる出前講座を実施。1年生は学校で丸太の玉切りを、2年生は本校演習林で伐倒実習を実施し、専門的な技術の習得を図っている。
		専門的な学びを生かし、農林水産部（林業）へ就職を希望する生徒も多い。昨年度は国家公務員1名、青森県庁1名、他道県庁3名が採用されている。
		苗木の生産、樹木の伐倒、木材加工など森林に関する学習を行っている。花車やしゃもじ、門松などの木材等の利用や加工技術について取り組んでいる。
	環境土木科	土木に関する専門的な技術を習得するため、つがる自動車道、トンネル、ダム、港湾等の見学を行い、専門家による技術指導を受けている。
		ドローン操作ができる職員を配置し、ドローンの操縦、測量に利用する方法を指導している。
		外部講師による授業を取り入れ、土木に関する学習を深め、測量士補や2級土木施工管理技術の資格取得に励んでいる。その結果昨年度は、国家公務員4名、青森県庁4名、県内市町役所3名、他道県2名が採用されている。

食品科学科	加工品（ジャム、ジュース、味噌等）の大量生産実習と小麦粉を使った製品の製造実習により加工業務に必要となる技術習得に取り組んでいる。
	地元の食肉加工業者による豚肉の解体を通じて、豚肉の説明や解体方法を学び、とんかつや豚汁などの調理法を学んでいる。
	科目「食品製造」「課題研究」の授業で、地域の特産品を生かした学校オリジナル商品の開発に取り組んでおり、これまで、米粉めん、まっかなりんごパン、みそどーナッツなどを開発している。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況

他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	生物生産科	拠点校事業の一環で、(株)みちのくクボタや(株)ヤンマーアグリジャパンと連携したスマート農業に関する講習会を実施している。連携校である柏木農業高校、あおもり創造学で農業に関する探究活動を実施している木造高校の生徒が、スマート農業について共同で学ぶ機会を設けている。また、地域の小学生が本校の水田を利用して稲作学習をしており、生徒が植え付けや刈り取り、学習指導を行っている。
	生物生産科	フードバンク活動の運営について、青森県農林水産部、五所川原市福祉部、弘前大学大学院教育学研究科、青森県社会福祉協議会、子ども食堂運営団体、地域飲食店、地域農家、地域農産加工会社、都立高校などと連携しながら農業体験交流や農業や食への関心を深め、異年齢の人たちと活動している。
	生物生産科	農業の6次産業化の取組として、岩塚製菓株式会社と連携した五農米で作った味しらべを製造・販売している。作物の授業でオンライン会議を行い、商品開発や商品パッケージの検討を行っている。
	生物生産科	平成18年度から後継者育成事業として、青森オリジナルメロン生産連絡協議会、弘果弘前中央青果の協力により、協議会が作付け指導している「ハニーゴールド」の生産を行っている。定植・管理・収穫・競売見学までを学習し、より実践的の農業について学習している。
森林科学科	森林科学科	青森県中南地域県民局農林水産部林業振興課主催によるりんご農園跡地の有効活用としてTSUGARUウルシの植林事業を実施。国産ウルシの生産に一役買っている。
	森林科学科	青森県西北地域県民局による水辺のサポーター制度を利用して、学校近隣の天神川の環境整備や水質・生物調査を実施している。
	森林科学科	青森県農林水産部（青森県林業会議）と五所川原市役所（森林環境交付税）より事業助成を受けて、FCC認証を取得している。

環境土木科	特別非常勤講師活用により、専門的な土木技術を持った職人の方々から指導を受けて、建設機械やコンクリート打設などの技術を学んでいる。
	青森県測量設計業協会の方々を講師に招き、3Dレーザースキャナー、GPS、電子レベル、電子平板などの最新機器を活用した測量実習を行っている。
	近隣測量会社の協力のもと、測量器機やUAV(ドローン)を活用した実習を行い、測量した結果を計算し、図面を書く学習に取り組んでいる。
	国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所の協力のもと、青ぶな山トンネル避難坑工事(十和田市子ノ口)、また、西津軽土地改良区の協力のもと岩木川統合頭首工等の見学を行い、科目「農業土木施工」・「農業土木設計」に関する学習を深めている。
食品科学科	県農林水産部食の安全・安心推進課の事業である「農業高校生を講師とする園児対象の食農体験会」を開催し、毛豆栽培や豆腐作り、りんご栽培と収穫など年2回実施している。
	地域農産物を利用した商品開発を行っている企業と連携し、地域の特産品を生かした学校オリジナル商品の開発に取り組んでおり、これまで、米粉めん、まっかなりんごパン、みそどーナッツなどを販売している。
	平川市のいちご生産会社と連携し、完全無添加のイチゴジャムの製造に取り組んでいる。
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学校行事を実施するときには、マスコミに報道依頼をかけて取り扱っていただけるようにしている。
	学校ホームページに学校行事欄を設けて、行事の様子や学校紹介を行っている。 http://www.goshogawara-ah.asn.ed.jp/index.html

柏木農業	高校			
全日制	課程			
設置小学科名	生物生産科、環境工学科、食品科学科、生活科学科			
1. 学校の特色等				
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○2年生から全員が科目「課題研究」でプロジェクト学習を実施している。農業クラブの大会のみならず、各種コンテストに挑戦し、外部からの評価を得ながら、学習意識の高揚に繋げている。</p> <p>○新入生に農業への興味関心を意識づけるため、1年生全員が市内リンゴ農家で農作業を体験する「柏農起農塾」を実施（春と秋）している。</p> <p>○基礎知識の定着や学び直し、進路対策に向けた朝学習「柏農タイム」を設置、生徒の意欲喚起に繋げている。</p> <p>○農業のグローバル化に対応するため、農業の世界基準であるGLOBALG.A.P認証取得やHACCAP取得を目指し、リンゴ、コメ、ジャムやリンゴジュースなどの加工品の輸出にも取り組んでいる。</p> <p>○農業関連行事として、全校田植え・稲刈り大会、本校で生産される農産物や加工品の販売（柏農市・柏農祭など）、プロジェクト発表会、意見発表会、ポスター発表会、農業鑑定競技会などを実施し、自主性、協調性、コミュニケーションやプレゼンテーション力の向上に繋げている。また、2年生の修学旅行では、本校産のりんご販売を行っている。（京都・福岡で実施）</p> <p>○各学年で段階的に進路ガイダンスを実施し、各学科では地元企業に企業見学を行いながら地元産業の理解を深め、2年生でインターンシップを実施して職業観・倫理観を高めるなど学校全体でキャリア教育を推進している。</p> <p>○農村文化のひとつである「ねぶた」を絵の製作から、囃子、運行までを生徒主体で取り組み、地元平川ねぶた祭り合同運行へ学校として参加している。</p>			
小学科ごとの特長を生かした教育活動	<table border="1"> <tr> <td>リンゴの新技术である高密植栽培及び台木育成に産官学連携で取り組んでいる。</td> </tr> <tr> <td>ブランドカボチャの津軽産地化を目指し地元企業と連携し取り組んでいる。</td> </tr> <tr> <td>農業のグローバル化を目指し、令和元年度からリンゴ、2年度から新たにコメも加え、GLOBALG.A.P.認証取得に向け、部門経営の改善に取り組んでおり、リンゴやコメの輸出も行っている。</td> </tr> </table>	リンゴの新技术である高密植栽培及び台木育成に産官学連携で取り組んでいる。	ブランドカボチャの津軽産地化を目指し地元企業と連携し取り組んでいる。	農業のグローバル化を目指し、令和元年度からリンゴ、2年度から新たにコメも加え、GLOBALG.A.P.認証取得に向け、部門経営の改善に取り組んでおり、リンゴやコメの輸出も行っている。
リンゴの新技术である高密植栽培及び台木育成に産官学連携で取り組んでいる。				
ブランドカボチャの津軽産地化を目指し地元企業と連携し取り組んでいる。				
農業のグローバル化を目指し、令和元年度からリンゴ、2年度から新たにコメも加え、GLOBALG.A.P.認証取得に向け、部門経営の改善に取り組んでおり、リンゴやコメの輸出も行っている。				

環境工学科	土木構造物に対する理解を深めるために、水力学実験装置を用いた水理学実験や万能試験機を用いた圧縮・引張試験を行っている。	
	機械や自動車整備・工作機械の使用法について学び、トラクタの運転操作について学習している。	
	校地内樹木の剪定や造園のもたらす環境的機能、津軽地方の代表的造園技法である大石武学流を学んでいる。	
	ガス溶接や危険物取扱者資格のほか、車両系等の各種資格免許の取得を目指している。	
食品科学科	「食」に関する基礎的な知識と技術、及び食品衛生管理（HACCAP）に基づいた安全安心な食品の製造に係る内容を学習している。	
	地域企業や研究団体と連携し、地域農産物を活用した新商品の開発に取り組んでいる。	
	地元農産物を活用した食品製造について学習し、商品の国内流通や海外輸出などの流通について学習している。	
生活科学科	全国高等学校家庭科技術検定被服製作・食物調理技術検定合格を目指し学習している。	
	幼稚園児への食育体験活動（リンゴ収穫・アップルパイづくり）を実施している。	
	草花の学習内容を活かした地域花壇への植栽活動（花壇の設計から植栽まで）を実施している。	
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	生物生産科	<ol style="list-style-type: none"> 1) 外部講師招聘事業（りんご農家より講師を招聘し、りんご産業について多角的視点から学習する。）の実施。 2) 企業見学（JA、りんご先進農家、各種センサー開発企業、市場など）の実施。 3) 市役所・企業・密植栽培研究会との連携によるりんごの高密植栽培及び台木の育成の取り組み。 4) 地元企業と連携した津軽地方のカボチャの産地化を目指す取り組み。 5) 在来種清水森ナンバ保存・普及に向けた取り組み。 6) 特別支援学校との交流（農福連携 黒石養護学校、弘前第一養護学校）の実施。 7) 拠点校（五所川原農林高校）と連携したスマート農業に係る学習会の実施。

環境工学科	<p>1) 外部講師招聘事業（造園業者を招聘し、樹木の剪定・刈り込み技術と管理法について学習）の実施。</p> <p>2) 企業見学（リサイクル事業者・ダム管理支所）の実施。</p> <p>3) 国蝶オオムラサキの保護活動に係る取り組み。</p> <p>4) 県農林水産部林政課の協力のもと、校外の山林で林業体験実習を実施。</p>
食品科学科	<p>1) 外部講師招聘事業（そば打ち、パン製造）を実施。</p> <p>2) 企業見学（食品加工業社、飲料製造業社、加工品開発事業所）を実施。</p> <p>3) 食文化（そば等）を通じたフランスの高校生との交流活動を実施</p> <p>4) 県外企業を通じた台湾への加工品の輸出の取り組み。</p> <p>5) 台湾での本校加工品販売業者との交流活動（寶吉祥国際株式会社販売スタッフとのオンライン交流・加工品販売状況等について）の実施。</p> <p>6) 地元研究団体との連携によるサガリのタレの開発活動の取り組み。</p> <p>7) 地元企業との連携による在来種清水森ナンバを使った新製品開発活動の取り組み</p>
生活科学科	<p>1) 外部講師招聘事業（伝統和菓子・料理制作）を実施している。</p> <p>2) 企業見学（介護事業所、ホテル業社、縫製業社）を実施している。</p> <p>3) 地域の緑化活動（平賀駅前、平賀駅前元気すくすく花壇植栽活動、NEXCO津軽SAなど）および草花プランター設置などの地域緑化活動の実施している。</p> <p>4) フラワー集会（平川市立大坊小学校）の実施。</p> <p>5) 幼稚園児・児童との食育体験活動（りんご収穫・アップルパイづくり）の実施。</p> <p>6) 介護施設利用者との交流活動の実施。</p>

3 情報発信に係る状況

学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況

- 1) 本校HP並びに令和4年6月に本校公式SNS（LINE、Instagram、Twitter、TikTok、Facebook、Youtube）を立ち上げ、教育内容などを随時アップし情報発信している。
- 2) 各種行事や校外での教育活動はメディアに取材依頼をし、メディアによる情報発信を行っている。
- 3) 1学期教員で中学校訪問を行い、本校の魅力等を情報発信している。
- 4) 地域みらい留学において、「全国募集」に係る情報発信を行っている。

三本木農業恵拓	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科、植物科学科、動物科学科、環境工学科、食品科学科
1. 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○農業の各学科においては、本県農業教育の拠点校として幅広く学習できる環境を整え、各分野のプロフェッショナルを目指す教育を進めるとともに、普通科においては、普通教科の学びのほか農業の各学科の学びを生かした学習を取り入れ、特色ある教育活動を展開している。</p> <p>○総合的な探究の時間や課題研究等において、各学科がそれぞれの専門分野や特徴を踏まえながら、教育研究機関、企業、地方公共団体等と連携しながら、課題解決学習に取り組んでいるほか、農業クラブにおいても、地域と連携したプロジェクト等に取り組んでいる。</p> <p>○農業経営者育成高等学校として、寄宿舎生活や農業実習を通して、調和のとれた豊かな人間性を身に付けた人材の育成に取り組んでいる。</p> <p>○農場見学や体験学習の受入れ（生徒によるファームナビゲーターの活動）や、十和田市秋祭りへの参加、アンテナショップサンファームでの農産物の販売など、地域に開かれた教育活動を行っている。</p> <p>○全校田植えなどの生徒が主体的に運営参加する学校行事や多彩な部活動により、仲間と協働しながら物事を達成させる経験を通して、人間力の向上を図っている。</p>
小学科ごとの特長を生かした教育活動	<p>普通科</p> <p>農業の各学科と併置されているメリットを生かし、企業・地元自治体・大学等と連携した探究学習に取り組んでいる。また、これまで三本木農業高校の校内行事として開催している探究学習の全校発表会に普通科も参加している。探究活動の外部コンテストにも積極的に参加しているほか、令和5年度から、三菱みらい育成財団の助成も受けている。</p> <p>地域・観光コースを設置し、奥入瀬溪流の観光ボランティアガイド活動による学習、地域の魅力を発見し発信する学習、地域の食文化を研究する学習等に取り組んでいる。</p> <p>農業や地域に関する学校設定科目「栽培と資源活用」を開設し、栽培活動を通して本物に触れ深い知識を得る学習に取り組んでいる。</p>

植物科学科	<p>3年間の学びの集大成として、学校設定科目「農業経営シミュレーション」「施設園芸ビジネス」において、全て生徒の力で仮想農業経営を実践し、大規模農業や中小規模農業に対応できる経営者の育成を目指している。</p>
	<p>地域農業の理解と地域を担う人材育成のため、きみがら生産組合や十和田市役所、奥入瀬自然観光資源研究会など諸団体との連携を密にし、当地域における農業や自然・伝統文化の背景を学ぶ機会を設けている。</p>
	<p>JGAP（農業生産工程管理）の学びを積極的に取り入れ、持続可能な農業とSDGsの関連性、環境との結びつきを理解し、地域内外で将来を担う人材育成に取り組んでいる。</p>
動物科学科	<p>畜産や動物について学ぶ県内唯一の学科として、産業動物（牛、鶏）と社会動物（馬、犬、鳥類など）の生理生態、飼養と活用に関する学習を通して、地域における畜産経営者や動物関連産業の技術者の育成を目指している。</p>
	<p>学校設定科目「馬学」「愛玩動物」の学びを通して、スポーツとしての馬術の特性や動物の福祉的・健康的効果に着目させ、愛玩動物と正しいかかわり方を持つようとする態度を養っている。</p>
	<p>地元企業と協力しながら課題研究に取り組むとともに、研究の成果を外部のコンテストに参加して発表し、積極的に地域の課題解決に取り組もうとする人材育成に取り組んでいる。</p>
環境工学科	<p>2年生の夏季休業中に、土木・測量・機械関係の関連産業において5日間のインターンシップを行うことにより、社会人になるにあたっての心構えを養い、将来の進路決定に役立てている。</p>
	<p>3年間をとおして、建設現場見学会、測量体験実習、林業しごと体験実習、建設業界の出前授業、スマート農業体験等を段階的に行い、環境土木・農業機械分野の知識・技術を総合的に理解させている。</p>
	<p>体験・実践だけではなく、資格取得にも重点を置き、測量士補・2級土木施工管理技術検定・小型車両系建設機械等において外部講師による出前授業を行っている。</p>

	食品科学科	<p>学習内容の深化と職業観の形成を目的とした、インターンシップを1年次に1日、2年次に5日実施している。</p> <p>地域資源を発掘し、1・2年次に学んだ食品製造に関する知識や技術を活用した農産加工や畜産加工に挑戦するために学校設定科目「地域資源活用」を3年次に取り組んでいる。</p> <p>食品製造に関する原材料を生産する技術や知識の習得も、本校農場施設を活用して実施し、生産から、加工、販売まで学ぶことによって、食に関する仕事につながる学習を行う。</p>
2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	ヴァンラーレ八戸の「地域共創パートナー」としての取組について学び、地域の課題解決や自身のキャリアを考える上での参考としている。
	植物科学科	JA十和田おいらせと連携し、より実践的な農業経営や戦略的なフードシステムのあり方について考える姿勢や態度を高めることを目的に、2年次に特別講義や施設見学を行っている。
	動物科学科	県農林水産部や上北地域県民局等と連携し、地域における特徴的な畜産経営の施設見学や科学的な視点を取り入れた飼養管理技術向上研修を行っている。
		県動物愛護センターの協力のもと、犬猫の殺処分ゼロを目指す「命の花プロジェクト」に取り組んでいる。
	環境工学科	青森県測量設計業協会上十三支部と連携し、測定の意義や役割について理解するとともに最新測量技術を協働的に学習することを目的として、2年次に測量体験実習を行っている。
	食品科学科	2年次・3年次に八戸工業大学と連携した食品微生物に関する講習と実習を実施している。八戸工業大学の実習施設において実施し、チーズ製造実習をとおして発酵と衛生技術に関する技術習得を目指す。
		十和田市立北園小学校3学年と連携し、大豆栽培から収穫、豆腐製造の一連の流れを食品科学科2年生が教師役となり、小学生に指導する。この活動により、本校生徒は技術の深化とコミュニケーション能力の向上を目指す。
県農林水産部の農業教育高度化事業の一環として、太子食品、プライフーズ、NAMIKIなど地域の食品製造企業の施設見学や、商品開発に関する講演と実習を計画し、商品開発の流れを体験的に学ぶ学習を実践している。		
3. 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学科行事を、学校ホームページ上に掲載し、取組状況を配信している。	

名久井農業	高校									
全日制	課程									
設置小学科名	生物生産科、環境システム科									
1. 学校の特色等										
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○プロジェクト学習の充実を図り、課題研究を8時間（2学年4時間、3学年4時間）実施している。大学や地域と連携した研究活動を行い、各種大会やコンテストに積極的に参加し全国最優秀賞を受賞するなど、研究成果をあげている。</p> <p>○第2の校訓と言われる「緑育心」（緑は心を育てる。心は緑を育てる。）の精神のもと、出身地区の駅や商店街等で花植や清掃活動を行う地区分会活動を年2回実施している。また、校内の環境整備を全校を上げて取り組む環境緑化の日を年2回実施している。</p> <p>○地元の基幹産業である農業の作業を現場で体験し実際の農業に触れることでこれからの学習に対する意識の高揚を図るため、1学年において地域の農家で実地演習をする農作業支援活動を、春と秋の2回実施している。</p> <p>○1学年において学校設定科目「緑育心タイム」を週1時間設定し、国語・数学・英語の学び直しを行い基礎基本の定着を図るとともに、外部講師による講演やグループワーク等の取組を行い国際理解やSDGsへの興味関心を高めている。</p> <p>○国際交流活動として、台湾やアメリカなどの高校生と交流を行っている。</p> <p>○地域貢献の一環として、地元の祭りである名川秋まつりに全校で参加している。</p> <p>○硬式野球部やバスケットボール部、茶華道部において外部講師を招聘するなど部活動にも力を入れている。アーチェリー部や陸上競技部では県大会で上位に入賞し東北大会に出場するなど、活躍している。</p>									
小学科ごとの特長を生かした教育活動	<table border="1"> <tr> <td rowspan="3">生物生産科</td> <td>小学生や幼稚園児の農業体験学習（果樹・野菜）を受け入れ、授業の一環として交流及び指導にあたり、指導性の向上に努めている。</td> </tr> <tr> <td>野菜苗販売を授業の一環として実施し、誘導や運搬・苗の説明・会計などを実際に担当して、社会性の向上に努めている。</td> </tr> <tr> <td>毎年安定した収量を得るための果樹（リンゴ・サクランボ）のせん定の知識と技術を習得するため、特別非常勤によるせん定講習会を実施している。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">環境システム科</td> <td>農業設備の配線増設や電気機器の交換、修理等ができるよう、第2種電気工事士免状取得につながる電気実習を行っている。</td> </tr> <tr> <td>農業設備の配管増設や工事ができるよう、配管技能検定3級程度の水道管加工実習を行っている。</td> </tr> <tr> <td>農場等でガソリンや軽油等を自ら取り扱いできるように、丙種危険物取扱者免状取得を目標に化学の指導を行っている。</td> </tr> <tr> <td>施設園芸分野で養液栽培や草花の生産等を行っている。</td> </tr> </table>	生物生産科	小学生や幼稚園児の農業体験学習（果樹・野菜）を受け入れ、授業の一環として交流及び指導にあたり、指導性の向上に努めている。	野菜苗販売を授業の一環として実施し、誘導や運搬・苗の説明・会計などを実際に担当して、社会性の向上に努めている。	毎年安定した収量を得るための果樹（リンゴ・サクランボ）のせん定の知識と技術を習得するため、特別非常勤によるせん定講習会を実施している。	環境システム科	農業設備の配線増設や電気機器の交換、修理等ができるよう、第2種電気工事士免状取得につながる電気実習を行っている。	農業設備の配管増設や工事ができるよう、配管技能検定3級程度の水道管加工実習を行っている。	農場等でガソリンや軽油等を自ら取り扱いできるように、丙種危険物取扱者免状取得を目標に化学の指導を行っている。	施設園芸分野で養液栽培や草花の生産等を行っている。
生物生産科	小学生や幼稚園児の農業体験学習（果樹・野菜）を受け入れ、授業の一環として交流及び指導にあたり、指導性の向上に努めている。									
	野菜苗販売を授業の一環として実施し、誘導や運搬・苗の説明・会計などを実際に担当して、社会性の向上に努めている。									
	毎年安定した収量を得るための果樹（リンゴ・サクランボ）のせん定の知識と技術を習得するため、特別非常勤によるせん定講習会を実施している。									
環境システム科	農業設備の配線増設や電気機器の交換、修理等ができるよう、第2種電気工事士免状取得につながる電気実習を行っている。									
	農業設備の配管増設や工事ができるよう、配管技能検定3級程度の水道管加工実習を行っている。									
	農場等でガソリンや軽油等を自ら取り扱いできるように、丙種危険物取扱者免状取得を目標に化学の指導を行っている。									
	施設園芸分野で養液栽培や草花の生産等を行っている。									

2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	青い森鉄道や近隣商店街等と連携し、駅周辺や公共施設の駐車場等の美化活動や植栽活動を実施している。
		名川町主催の名川秋まつりに、全校で参加し、地域貢献の意識を向上させている。
		達者村農業観光振興会・南部町と連携し、地域の農家において実地演習を行う農作業支援活動を実施している。
		ジョブカフェあおもり、ハローワーク、進路支援関連会社によるガイダンスを定期的に活用し、進路決定の基盤を固めるきっかけづくりを行っている。
	生物生産科	農業生産において、食品安全だけでなく、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理を学ぶため、モモでJ-GAP認証の取得に取り組んでいる。審査機関は、インターテック・サーティフィケーション株式会社である。
		実践的な農業経営および戦略的なフードシステムのあり方について考えていくために、農業協同組合（JA青森中央会・JA八戸）と連携した特別講義や施設見学を実施する。※令和5年9月に実施予定
		課題研究において、地域の団体や組織・個人と連携して、研究活動に取り組んでいる。
		農福連携推進農場の視察や、特別支援学校の農作業体験活動の受け入れを始めるなど、農福連携事業の推進と勉強に取り組んでいる。
	環境システム科	地域のイベントにおいて、研究成果の発表や体験学習の実施、農産物や加工品の販売を行うなど、地域連携に力を入れている。
		キャリア教育の一環として、1年生から3年生まで、各学年で1回、地元産業の見学を実施している。
		キャリア教育の一環として、公益社団法人青森県林業会議と協力し、1学年対象に林業体験を実施している。
3. 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	行事や生徒の活動について、ホームページにおいて発信するとともに、地域の本校を会場にして野菜苗販売や農産物即売会を行ったり、校外のアンテナショップ等で地域交流を図っている。また、関東での農産物販売会も実施している。	

青森工業	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	機械科、電気科、電子科、情報技術科、建築科、都市環境科	
1. 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○地域企業等による出前授業及び実技指導を通じた実践力の養成</p> <p>○県内及び県外企業と連携した進路指導の充実（見学会・説明会等）</p> <p>○校種間連携による「モノづくり教育」の推進（特別支援学校及び小学校等）</p> <p>○積極的な地域活動参加を通じた人材育成（青森ねぶた祭参加・地域行事等）</p> <p>○多様な進路を実現する校内支援体制</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	機械科	社会人講師による自動車のガソリンエンジン分解・組立・運転の学びを行い、座学と実習を関連付けた体験的学習と進路指導の充実を図っている。
		原子力・風力発電所の見学を通してエネルギー問題に関心を持たせ、持続可能な社会の実現に向けて各自の考えをまとめさせ、各種コンクールへのレポートの提出を推奨している。
		地域の特別支援学校や老人介護施設と連携し、教材やリハビリに使用する道具の製作などを課題研究で行っている。
	電気科	第一種・第二種電気工事士をはじめ、2級電工施工管理技士補や第三種電気主任技術者の難関国家資格取得への挑戦、ものづくりコンテスト電工部門上位入賞に向けて取り組んでいる。
		水力・風力・火力発電所の見学や地元電気工業組合の出前授業により、座学と実習を関連付けた体験的学習と進路指導を兼ね備えた行事設定をしている。
		1・2年生に対して民間企業から講師を招聘し、電気の安全な取り扱い方、原子力発電関連の知識や技術を実践的に学んでいる。
	電子科	外部講師による特別授業、ものづくりマイスター派遣事業を実施し、専門的な知識や技術の習得を図る。
		各種検定や国家資格を取得することをおして、キャリアプランニング能力の育成に努めている。
		ものづくりコンテスト「電子回路組立部門」に参加することで、ものづくりの楽しさ、大切さの認識を深めさせている。
	情報技術科	1年生に対して、外部講師による特別授業を実施し、情報モラルやセキュリティに関する知識や技術の習得を図る。
		2年生に対して、ITパスポート試験対策講座を実施し、国家資格の取得に繋げている。
		行政から依頼を受けた、国スポ青森大会のカウントダウンボードの設計・製作を生徒が行っている。
風力発電施設の体験研修に参加し、風力発電に関する知識を深めさせる。		

	建築科	実習科目の中に、継手や仕口の加工以外に、家具等の木材加工分野も取り入れ、生徒への興味・関心をはかる。
		総合学校教育センターなどの外部機関との連携を行い、中学生のみならず、小学生に対してものづくりの面白さを発信している。
		地元企業との連携を図り、説明会や体験会を企画し、建設業に対する理解を深め興味関心を引き出している。
	都市環境科	測量士補及び2級土木施工管理技士等の国家資格取得に向けて取り組んでいる。
		測量技術や施工技術等を外部講師による特別授業を実施することで最先端の専門的な知識・技能の習得を図っている。
		海や河川における環境に関する課題を企業と連携を図り、環境問題について取り組んでいる。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況

他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科 ※工業推進委員会	陸奥湾に沈めた人工漁礁に付着している水産動物の生息状況やアマモの芽付の定着状況および稚魚や稚貝の成育状況について、民間企業・NPO法人・地元漁協・農林水産部等と共同で調査・研究を進めている。
		特別支援学校と「ものづくり」を介した交流と共同学習を実施し、双方の生徒同士の関わりを深めながらインクルーシブ教育の視点で活動している。
		拠点校(本校)と連携校(下北地区工業高校)の連携事業として、国家資格講習会、学校公開時の授業参観、文化祭および課題研究発表会の見学等で交流を図っている。

3 情報発信に係る状況

学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	○学校公開実施による学校施設及び教育活動の発信
	○東青地区を中心とした中学校訪問による学校説明会

五所川原工科	高校								
全日制	課程								
設置小学科名	普通科、機械科、電子機械科、電気科								
1. 学校の特色等									
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○資格取得への計画的で熱心な指導により、高い合格率や難易度の高い資格取得を実現している。</p> <p>○「校内生徒研究発表会」で、工業科の課題研究の成果と普通科の探究活動の成果を紹介し、生徒の主体性・創造性・問題解決能力の育成に努めている。</p> <p>○全校ボランティアとして地域の清掃活動を行っている。</p> <p>○学校公開日を設定し、中学生や保護者、地域の方々へ教育活動を紹介している。</p> <p>○近隣小学生を対象に施設見学や体験学習を実施し、工業の魅力を発信している。</p>								
小学科ごとの特長を生かした教育活動	<table border="1"> <tr> <td>普通科</td> <td> <p>2年次以降は自分の進路に応じて文類型（進学・就職）、理類型（進学）に分かれて授業を行っている。また、就職希望者に対しては、工業・情報分野の科目選択が可能なカリキュラムを編成している。</p> <p>「総合的な探究の時間」では、1年次は地域の各分野（大学・行政・企業等）の外部講師による講義等を行っている。2年次には、これらをもとに自ら課題を設定し、フィールドワーク・グループワーク・発表等を通して、課題解決に向けた探究活動を行っている。</p> <p>国公立大学進学から就職まで幅広い進路に応じた指導体制のもと、個々の志望校や就職先に応じた受験サポートや実践的な指導を行っている。</p> </td> </tr> <tr> <td>機械科</td> <td> <p>産業の基盤である機械技術の基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、様々な分野に対応できる人材を育成している。</p> <p>実習や製図・課題研究においてタブレット端末などデジタル機器を活用し、主体的な学習の深化・効率化を図っている。</p> <p>高度で最先端の加工（レーザー加工、多軸機械加工、CAD/CAM）の教材を開発し、最新の機械技術に対応でき、専門的な知識を有する人材を育成している。</p> </td> </tr> <tr> <td>電子機械科</td> <td> <p>デジタル社会に対応した最新の知識・技術と、ものづくりの基礎的・基本的な技能の習得を目指した実習により、機械・電気・情報と多方面で活躍できる人材を輩出している。</p> <p>ものづくりを科学的・工学的な視点から理解し、実験・実習を通して理数工学に関する実践的な知識・技術を身に付け、企業の技術開発者や理工系大学を目指す人材を育成している。</p> <p>若年者ものづくり競技大会で利用されている、移動式ロボット(ロボティクス)を用いた実習を行い、プログラミング技術、アルゴリズム技術などの組込システムを学習し、自動化に対応した人材育成を行っている。</p> </td> </tr> <tr> <td>電気科</td> <td> <p>理論的な学習をしながら電気実習と関連付け、電気の専門知識や技術を身に付け、第二種電気工事士資格を中心に、各種資格取得にも取り組み各分野で対応できる電気技術者の育成に取り組んでいる。</p> <p>課題研究や放課後資格講習にタブレット端末を活用し、その中のデジタル誌面や動画を見ながら生徒が効率よく学べるよう取り組んでいる。</p> <p>実習項目に建築電気設備における代表的な工事「金属配管工事」「ケーブル工事」「PF管工事」を取り入れ一般住宅の屋内配線工事を体験させることで、生活に欠かせない電気を供給するために施工する電気技術者として魅力を伝え、社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。</p> </td> </tr> </table>	普通科	<p>2年次以降は自分の進路に応じて文類型（進学・就職）、理類型（進学）に分かれて授業を行っている。また、就職希望者に対しては、工業・情報分野の科目選択が可能なカリキュラムを編成している。</p> <p>「総合的な探究の時間」では、1年次は地域の各分野（大学・行政・企業等）の外部講師による講義等を行っている。2年次には、これらをもとに自ら課題を設定し、フィールドワーク・グループワーク・発表等を通して、課題解決に向けた探究活動を行っている。</p> <p>国公立大学進学から就職まで幅広い進路に応じた指導体制のもと、個々の志望校や就職先に応じた受験サポートや実践的な指導を行っている。</p>	機械科	<p>産業の基盤である機械技術の基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、様々な分野に対応できる人材を育成している。</p> <p>実習や製図・課題研究においてタブレット端末などデジタル機器を活用し、主体的な学習の深化・効率化を図っている。</p> <p>高度で最先端の加工（レーザー加工、多軸機械加工、CAD/CAM）の教材を開発し、最新の機械技術に対応でき、専門的な知識を有する人材を育成している。</p>	電子機械科	<p>デジタル社会に対応した最新の知識・技術と、ものづくりの基礎的・基本的な技能の習得を目指した実習により、機械・電気・情報と多方面で活躍できる人材を輩出している。</p> <p>ものづくりを科学的・工学的な視点から理解し、実験・実習を通して理数工学に関する実践的な知識・技術を身に付け、企業の技術開発者や理工系大学を目指す人材を育成している。</p> <p>若年者ものづくり競技大会で利用されている、移動式ロボット(ロボティクス)を用いた実習を行い、プログラミング技術、アルゴリズム技術などの組込システムを学習し、自動化に対応した人材育成を行っている。</p>	電気科	<p>理論的な学習をしながら電気実習と関連付け、電気の専門知識や技術を身に付け、第二種電気工事士資格を中心に、各種資格取得にも取り組み各分野で対応できる電気技術者の育成に取り組んでいる。</p> <p>課題研究や放課後資格講習にタブレット端末を活用し、その中のデジタル誌面や動画を見ながら生徒が効率よく学べるよう取り組んでいる。</p> <p>実習項目に建築電気設備における代表的な工事「金属配管工事」「ケーブル工事」「PF管工事」を取り入れ一般住宅の屋内配線工事を体験させることで、生活に欠かせない電気を供給するために施工する電気技術者として魅力を伝え、社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。</p>
普通科	<p>2年次以降は自分の進路に応じて文類型（進学・就職）、理類型（進学）に分かれて授業を行っている。また、就職希望者に対しては、工業・情報分野の科目選択が可能なカリキュラムを編成している。</p> <p>「総合的な探究の時間」では、1年次は地域の各分野（大学・行政・企業等）の外部講師による講義等を行っている。2年次には、これらをもとに自ら課題を設定し、フィールドワーク・グループワーク・発表等を通して、課題解決に向けた探究活動を行っている。</p> <p>国公立大学進学から就職まで幅広い進路に応じた指導体制のもと、個々の志望校や就職先に応じた受験サポートや実践的な指導を行っている。</p>								
機械科	<p>産業の基盤である機械技術の基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、様々な分野に対応できる人材を育成している。</p> <p>実習や製図・課題研究においてタブレット端末などデジタル機器を活用し、主体的な学習の深化・効率化を図っている。</p> <p>高度で最先端の加工（レーザー加工、多軸機械加工、CAD/CAM）の教材を開発し、最新の機械技術に対応でき、専門的な知識を有する人材を育成している。</p>								
電子機械科	<p>デジタル社会に対応した最新の知識・技術と、ものづくりの基礎的・基本的な技能の習得を目指した実習により、機械・電気・情報と多方面で活躍できる人材を輩出している。</p> <p>ものづくりを科学的・工学的な視点から理解し、実験・実習を通して理数工学に関する実践的な知識・技術を身に付け、企業の技術開発者や理工系大学を目指す人材を育成している。</p> <p>若年者ものづくり競技大会で利用されている、移動式ロボット(ロボティクス)を用いた実習を行い、プログラミング技術、アルゴリズム技術などの組込システムを学習し、自動化に対応した人材育成を行っている。</p>								
電気科	<p>理論的な学習をしながら電気実習と関連付け、電気の専門知識や技術を身に付け、第二種電気工事士資格を中心に、各種資格取得にも取り組み各分野で対応できる電気技術者の育成に取り組んでいる。</p> <p>課題研究や放課後資格講習にタブレット端末を活用し、その中のデジタル誌面や動画を見ながら生徒が効率よく学べるよう取り組んでいる。</p> <p>実習項目に建築電気設備における代表的な工事「金属配管工事」「ケーブル工事」「PF管工事」を取り入れ一般住宅の屋内配線工事を体験させることで、生活に欠かせない電気を供給するために施工する電気技術者として魅力を伝え、社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。</p>								

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況

他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科	1年次では、弘前大学のオープンキャンパスに普通科生徒が全員参加し、大学進学について具体的なイメージを持たせている。 2年次では、大学や専門学校などの希望する上級学校に訪問する機会を設け、進路実現に向けた学習意欲の向上を図っている。
	電子機械科	弘前航空電子(株)による、技能検定3級機械加工(平面研削盤作業)の指導を受けている。(1名)
	電気科	①外部講師による出前授業(五所川原電気工事業協同組合青年部) 西北五地域の電気工事業社から電気工事士の仕事内容と必要性および魅力、地域の現状など現実的な内容を聴講することで地元就職への理解など進路選択の一助とする内容。
		②外部講師による出前授業(東京電力ホールディングス) エネルギー教育として、①電力先般②脱炭素社会に向けて③福島第一原子力発電所の現状④東通原子力発電所について⑤職業観・使命感・責任感についての内容で講話。知識だけでなく、身近な問題として捉え、社会への関心や判断力・応用能力の育成を目的として実施。
		③火力・水力・風力発電所等の施設見学(東北電力) 授業で学ぶ発電について、実際の発電所等を見学することにより、興味関心を深め、学習に対する意識高揚を図る。また、進路選択の一助となっている。
		④電気安全教室(東北電気保安協会) 電気に対する安全教育を充実させ、将来の職場における正しい電気の取扱い方、電気事故防止および省エネルギー等についての講話。
	全学科	東北職業能力開発大学校青森校との高大連携により、相互の課題研究発表会の見学や課題研究発表会での助言等、教育活動の交流協力を図っている。
		地元企業(五所川原ものづくり連絡会)による企業説明会を実施している。
		五所川原商工会議所青年会議所と連携して、就職試験を控えた3学年生徒を対象にした地元企業経営者らによる模擬面接指導を実施している。 市長地域の業界団体大学等から招聘した講師による講義協議を実施している。

3 情報発信に係る状況

学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	HP内にツイッターへのリンクを作成し、生徒の了承を得た上で、写真付きで生徒の取り組む様子をUPし、タイムリーな情報発信に努めている。
	地元を離れる若者が多いという現状を考察し、若物が地元に残るには何が必要か市や地元企業協力のもと、企業取組状況、職場や仕事の現状を調査。地元定着を求める電気科生徒の意見を市や近隣企業に伝え、近隣企業に協力してもらい、ELMのまち2Fイベントホールにて、トレンドアイテムの展示販売、近隣企業の紹介、五所川原工科高校のPR(電気工事実演、テーブルタップ製作、課題研究製作物の展示など)イベント実施。今年度も実施に向けて取組中。

弘前工業	高校
全日制	課程
設置小学科名	機械科、電気科、電子科、情報技術科、土木科、建築科
1. 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>本校は、明治43年に県内初の「青森県立工業学校」として創立され113年目を迎える工業高校であり、その歴史と伝統、誇りをもとに教育活動を行っている。弘前公園に隣接する近代的な校舎に、機械科・電気科・電子科・情報技術科・建築科・土木科の6学科を有し、充実した施設・設備・環境の中で、ものづくり教育や資格取得などを通して学力の向上を目指している。</p> <p>数々の学校行事の他に、運動部18・文化部11・愛好会1の部活動があり、学業や特別活動、部活動等を通じて実践的な力を養える環境が整えられ、将来のスペシャリストの育成や地域産業を担う人材の育成、人間性豊かな職業人の育成を目指して教育活動を行っている。</p> <p>○地域の事業所でのインターンシップや企業見学会等によって地域や産業への理解を深めるとともに、職業観・倫理観を高めるためのキャリア教育を推進している。</p> <p>○生徒が自ら考え、工夫し、造り上げたものを発表する課題研究を基本に、高校生ものづくりコンテストや若年者ものづくり競技大会をはじめとする各種技術競技会やコンテストに積極的に参加している。</p> <p>○各学科の専門性を踏まえた実践的な資格取得に向けて講習会を実施することで、高い合格率や難易度の高い資格取得を実現している。</p> <p>○大部分の生徒が部活動に加入して学習と部活動等の両立を目指すことにより、人間性の向上を目指している。中でも、バレーボール部、ボクシング部、ものづくり愛好会は各種大会で上位入賞を果たし、東北大会や全国大会に参加している。</p>

小学科ごとの特長を生かした教育活動		<p>工場で稼働する産業機械、自動車等の移動機械、洗濯機や掃除機などの家電機械、医療機器をはじめとして、産業社会と生活を支えるためになくてはならないのが機械技術である。3年間で、機械に関する専門知識や技術・技能を学び、「ものづくり」ができる創意あふれる技術者の育成を目指している。</p>
	機械科	<p>[資格・検定指導] 技能士3級 機械製図検定 各種技能講習 各種特別教育 等</p>
		<p>[キャリア教育・おもな進路] (株)日本マイクロニクス青森工場 青森オリンパス(株) 弘前航空電子(株) 三光化成(株) Orbray(株) いすゞ自動車(株) (株)豊田自動織機 トヨタ自動車 東日本(株) 陸上自衛隊(一般曹候補生) 金沢工業大学 東北学院大学 関東学院大学 弘前高等技術専門学校 等</p>
		<p>世の中に必要不可欠な電気について、発生から送電、利用にいたるまでの電気全般について、基礎から応用まで学べる環境を整備している。電気の各分野で活躍できる工業人を育成するために、楽しく学びながら電気工事士や電気主任技術者の資格取得を実現できる教育を進めている。</p>
	電気科	<p>[資格・検定指導] 第一・二種電気工事士 第三種電気主任技術者 2級電気工事施工管理 技術検定(学科) 等</p>
		<p>[キャリア教育・おもな進路] 弘前地区電気工事業協同組合 日本原燃(株) 城東電気(株) (株)日本マイクロニクス青森工場 (株)日善電気 住友電気工業(株) 東京電力パワーグリッド(株) 東北電力ネットワーク(株) JR秋田鉄道サービス(株) (一財)東北電気保安協会 (株)ユアテック 東北学院大学工学部 等</p>

	<p>社会のIT化に伴い、産業界や私たちの日常においては衛星通信・マイクロコンピュータ・情報端末などがネットワークを介して利用されている。これらのエレクトロニクスの基礎と応用技術を学び、社会に対応できる技術者の育成を目指す。</p> <p>[資格・検定指導] 工事担任者(2級デジタル通信) 工事担任者(総合通信) 第2級陸上特殊無線技士 第2級海上特殊無線技士 技能検定3級(電子機器組立て) 第二種電気工事士 等</p> <p>[キャリア教育・おもな進路] (株)リコー(株)日本マイクロニクス青森工場 キヤノンプレジジョン(株) 青森オリンパス(株) 弘前航空電子(株) (株)ネクスコ東日本エンジニアリング(株)NTT東日本-南関東 東芝エレベータ(株) 東京電機大学 日本工業大学 東北工業大学 東北能開大青森校 等</p>
<p>情報技術科</p>	<p>コンピュータ技術やネットワークを通じたデータ通信の基礎的な知識や技術について、情報システム利用者と開発者として技術提供する観点から学び、高度情報社会に対応できる技術者の育成を目指している。</p> <p>[資格・検定指導] 応用情報技術者 基本情報技術者 情報セキュリティマネジメント ITパスポート 等</p> <p>[キャリア教育・おもな進路] 弘前航空電子(株) OKIクロステック(株) (株)日立ソリューションズ 富士通エフサス東日本カスタマーサービス(株) 秋田県警 弘前大学理工学部 岩手県立大学ソフトウェア学部 公立はこだて未来大学システム情報科学部 日本大学生産工学部 東北能開大青森校 等</p>

<p style="text-align: center;">建築科</p>	<p>住宅をはじめ、アパート、学校、図書館、病院、デパート、事業所やホテル等、いろいろな建築物の設計や工事にかかわる基礎的な専門知識・技術を学び、将来、建築士や建築施工管理技士として活躍できる技術者を目指している。</p> <p>[資格・検定指導] 2級建築士(卒業後) 2級建築施工管理技術検定(学科) 建築CAD検定(2級、3級) 建築大工技能検定(2級、3級) 福祉住環境コーディネーター(2級、3級)等</p> <p>[キャリア教育・おもな進路] (株)工藤工務所 (株)エーアイサイン (株)三浦組 東北電力(株) 住友林業ホームエンジニアリング(株) 多田建設(株) (株)ナカノフドー建設 大成建設(株)東北支店 鉄建建設(株) (株)松下産業 防衛省陸上自衛隊(防衛技官) 千葉工業大学 日本大学 金沢工業大学 東北工業大学 日本工業大学 八戸工業大学 東北芸術工科大学 弘前学院大学 等</p>
<p style="text-align: center;">土木科</p>	<p>インフラ、つまり生きるための生命線を造り守るのが土木。道路・鉄道・ダム・上下水道・港湾・空港、災害対策などは、豊かな生活や産業・経済活動に欠かせないものである。社会基盤とも呼ばれるこの事業をプロデュースする土木技術者の育成を目指している。</p> <p>[資格・検定指導] 測量士 測量士補 2級土木施工管理技術検定(学科) 等</p> <p>[キャリア教育・おもな進路] (株)大成コンサル (株)タナックス(株)弘新建設 富士建設(株) (株)鹿内組 青森県庁(初級土木) 弘前市(初級土木) 田舎館村(初級土木) 東日本旅客鉄道(株) 大成建設(株) (株)佐藤渡辺 エクシオインフラ(株) 世紀東急工業(株) (株)東建工営 大成ロテック(株) 東京地下鉄(株) (株)不動テトラ (株)ユアテック ユニオン建設(株) 日本道路(株) 東北電力(株) 国土交通省東北地方整備局 千葉工業大学 日本大学工学部 等</p>

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	「あおり創造学プロジェクト事業」の一環として地域の事業所でのインターンシップや企業見学会等を行い、地域や産業への理解を深めるとともに、職業観・倫理観を高めるためのキャリア教育を推進している。
	機械科	地域の事業所「二唐刃物鍛造所」の山崎雄亮氏を講師に迎え、3年生を対象に高校生溶接塾を6回実施している。
	電気科	弘前地区電気工事業協同組合と連携し、地域における電気事業に関わる人材育成に向けた各種取り組みを行っている。
	電子科	N T T 東日本・東北から講師を迎え、2年生を対象に技術指導（出前講座）を行っている。
	情報技術科	青森県職業能力開発短期大学校と連携協定を結び、ものづくり技術・技能の相互提携、研究の相互支援、研究成果の互見、施設・設備の相互活用を行っている。
		国際イノベーションコンテスト（電気機械システムによるコンテスト）への取り組みにおいて、地元の老人介護施設を訪問し、高齢者の健康維持のためのシステムを開発した。
	建築科	弘前市役所が所有する伝統的建造物の模型修復作業やものづくりをもとにした特別支援学校との交流などを行っている。
(株)きりんの里（就労継続支援B型事業所）とタイアップし「乾燥漆」を利用した工芸品の製作を通して、障害者との共生社会を目指して活動している。		
土木科	東北測量設計協会から講師を招き、2年生を対象に測量作業出前講座を行っている。	
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>学校ホームページ内のトピックスにより、新しい学校情報をスライドや動画でアップロードし紹介している。また、主な学校行事を動画にて公開し、生徒の学校生活の様子を伝えている。</p> <p>その他、生徒の活動や活躍に関する情報を、地元のテレビ局やラジオ局、新聞社等に提供している。</p>	

十和田工業	高校								
全日制	課程								
設置小学科名	機械・エネルギー科、電気科、電子科、建築科								
1 学校の特色等									
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○高校生ものづくりコンテストに全科で取り組み、多数の入賞者を出すなど活躍が顕著である。県大会のみならず東北大会でも上位入賞を果たしている。</p> <p>○「資格取得」については、学校全体で力を入れており、将来に役立つ資格取得を推奨、指導している。個人差はあるが、平均すると生徒一人あたり卒業までの3年間で5～6つの資格を取得している。「ジュニアマイスター制度」ゴールド獲得への意欲も高く、多くの生徒が好成績を収めている。</p> <p>○生徒個々の進路実現に向け、各科工業科目や普通科目の多種多様な教職員により、基礎学力の定着及び専門的な基礎技術・技能の定着・向上を目指し、補講や個別指導等、組織的な指導体制の強化に努めている。</p> <p>○上北地方唯一の工業高校ということもあり、生徒の通学範囲が広く、部活動で活躍する生徒や、進学校でも上位に位置する生徒等、多様な生徒が集まり切磋琢磨できる。そして、従来の学習や部活動に加えてものづくりでも頑張る場面があり、生徒の“やりたい”気持ちを叶えられる環境が整備されている。</p> <p>○勤労観・職業観を育成するため、1年次全員が学科毎に分かれて企業見学会を実施し、2年次には地域企業と連携してインターンシップを実施する等、早期から対策を行っている。</p> <p>○3年次では、課題研究において全員が5～10人の班を編成し、各班ごとに自主的に研究テーマを定め、それに沿って1年間研究を行う。年度末には校内だけでなく企業や地域の方々、大学関係者を招いて研究発表会を実施している。</p> <p>○外部機関との連携活動教育が充実しておりキャリア教育の機会に恵まれている。「工業」教育を通じて、社会人として、また企業人として必要な人間性やマナー、行動、といったものが育成できる。</p>								
小学科ごとの特長を生かした教育活動	<table border="1"> <tr> <td>機械・エネルギー科</td> <td> <p>技能検定機械検査や機械系保全作業等の資格取得を通じて専門性を高めている。</p> <p>CNC旋盤、室内型風力発電実験装置、3Dプリンタ（金属造形）を活用した課題研究に取り組んでいる。</p> </td> </tr> <tr> <td>電気科</td> <td> <p>第二種電気工事士及び2級電気工事施工管理技術検定の全員受験をはじめ、第一種電気工事士、第3種電気主任技術者試験など多くの国家試験に積極的に取り組んでいる。また、第3種電気主任技術者の認定校にもなっている。</p> </td> </tr> <tr> <td>電子科</td> <td> <p>工事担任者第二級デジタル通信等に加え、ドローン検定等新しい分野にも挑戦している。</p> </td> </tr> <tr> <td>建築科</td> <td> <p>2級建築施工管理技士補、3級技能検定（建築大工）などの資格取得を通じて、専門性を高めるための知識・技術の習得に努めている。</p> </td> </tr> </table>	機械・エネルギー科	<p>技能検定機械検査や機械系保全作業等の資格取得を通じて専門性を高めている。</p> <p>CNC旋盤、室内型風力発電実験装置、3Dプリンタ（金属造形）を活用した課題研究に取り組んでいる。</p>	電気科	<p>第二種電気工事士及び2級電気工事施工管理技術検定の全員受験をはじめ、第一種電気工事士、第3種電気主任技術者試験など多くの国家試験に積極的に取り組んでいる。また、第3種電気主任技術者の認定校にもなっている。</p>	電子科	<p>工事担任者第二級デジタル通信等に加え、ドローン検定等新しい分野にも挑戦している。</p>	建築科	<p>2級建築施工管理技士補、3級技能検定（建築大工）などの資格取得を通じて、専門性を高めるための知識・技術の習得に努めている。</p>
機械・エネルギー科	<p>技能検定機械検査や機械系保全作業等の資格取得を通じて専門性を高めている。</p> <p>CNC旋盤、室内型風力発電実験装置、3Dプリンタ（金属造形）を活用した課題研究に取り組んでいる。</p>								
電気科	<p>第二種電気工事士及び2級電気工事施工管理技術検定の全員受験をはじめ、第一種電気工事士、第3種電気主任技術者試験など多くの国家試験に積極的に取り組んでいる。また、第3種電気主任技術者の認定校にもなっている。</p>								
電子科	<p>工事担任者第二級デジタル通信等に加え、ドローン検定等新しい分野にも挑戦している。</p>								
建築科	<p>2級建築施工管理技士補、3級技能検定（建築大工）などの資格取得を通じて、専門性を高めるための知識・技術の習得に努めている。</p>								

2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全科	青森県ものづくり企業PRイベント、地元企業で活躍する卒業生を講師に迎えた講話等、地域団体や関係団体と連携協力し、地域に根ざした技術者の育成に努めている。長年培ってきた企業との信頼関係により、就職率の高さや県内企業就職率の高さは共に県内上位に当たる。
	全科	近隣の拠点校である八戸工業高校の生徒との合同実技技術講習会を全科で実施している。
	全科	近隣の小学生を招いたものづくり体験交流により、他者に伝わる説明力を磨いた。
	全科	県内工業高校との研究成果発表会に各科ローテーションで参加し、校内においても全科それぞれでの実施と全校実施の両方を行っている。
	全科	地域ボランティア活動（地元町内会と合同で町内の清掃活動）
	全科	日本大学高大連携事業での進学希望者に対する進路ガイダンス
	全科	十和田市秋祭りパレードへの参加や、美術部展覧会や吹奏楽部コンサート等、地域文化活動にも積極的に取り組んでいる。
	機械・エネルギー科	青森県エネルギー総合対策局との連携による風力発電施設見学
	機械・エネルギー科	東京電力ホールディングス(株)青森事業本部東通原子力建設所による社会人講師出前授業
	電気科	県エネルギー総合対策局との連携による風力発電施設見学
		上十三・三沢電気工事事業協同組合との交流事業
		東京電力ホールディングス(株)青森事業本部東通原子力建設所による社会人講師出前授業
	電子科	県エネルギー総合対策局との連携による風力発電施設見学
		ITH合同会社との連携によりドローンシミュレータ講習および無人航空技術者試験3級認定講座の開講
		(株)NTT東日本-東北青森支店、(株)TTKエンジ青森による技術指導。また、(株)NTT東日本-東北青森支店協力のもと校内3Dマップ作成。
		地域連携事業である十和田東小学校プログラミング教室
		山形大学スーパーエンジニアプログラミングスクール（SEPS）（6ヶ月間）
	建築科	建築企業の方を講師に迎えての実技指導の実施。
		地元建築現場見学会の実施。
		課題研究において、青森県水産試験場相坂養魚場旧庁舎やカトリック十和田教会等、地元の伝統的建造物の調査・研究に取り組んでいる。
3. 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	本校HPIにおいて学校活動を随時発信。	
	近隣中学校への説明会、体験入学等により、ものづくり動画視聴、体験、実習棟見学を実施。	
	本校のPRとして「十和工だより」を発行し、近隣中学校へ送付している。	

むつ工業	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	機械科、電気科、設備・エネルギー科	
1 学校の特徴等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○工業に関する専門性を高め、高校生活を経て社会の一員となるべく「自立」を目指した教育活動を行っている。</p> <p>○地元企業でのインターンシップや企業見学会等を通して、地域産業の理解を深め、職業観・倫理観を高めるなど学校全体でキャリア教育を推進している。</p> <p>○電気工事士や放射線取扱主任者等の資格取得に向け、希望者を対象に放課後に講習会を実施し、高い合格率や難易度の高い資格取得を実現している。</p> <p>○基礎知識の定着や学び直しのためマナトレ実施し、国語・英語・数学の基礎的な内容を学び直し、学習の習慣や学ぶ喜びを再確認できるよう実施している。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	機械科	学科の特長を生かしながら、地域との連携を推進している。詳細は2の連携に記載。
	電気科	学科の特長を生かしながら、地域との連携を推進している。詳細は2の連携に記載。
	設備・エネルギー科	2年次より生徒の興味・関心、進路志望に応じて「設備類型」と「エネルギー類型」の類型別に分かれて学習を行う。 学校設定科目として、「エネルギー基礎」（旧教育課程）、「エネルギー技術」（新・旧教育課程）、「エネルギー概論」（新教育課程）、設備デザイン（新教育課程）を設定して学科の特長に応じた教育課程編成としている。
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	青森大学との高大連携（大学への聴講生の受け入れ、高校への出張講義、情報交換等）
		青森明の星短期大学との高大連携（大学への聴講生の受け入れ、高校への出張講義、情報交換等）
		むつ市役所 経済部産業雇用政策課主と連携し地域企業見学を実施し地元企業の魅力を伝えている。
	設備・エネルギー科	放射線講座（日本原燃株式会社）
		建設現場見学会（下北建設業協会）
		エネルギー講座（資源エネルギー庁）
	機械科	企業との共同研究（株式会社永木精機）
	機械・電気科	国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）との研究協力 「簡易風向風速センサの開発」
電気科	大湊中学校3年生対象に本校教員による出前授業を実施	
	今年度から能開大青森校と連携し、課題研究の発表会を実施	
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学校HPであおもり創造学での取組等についても公開している。	

八戸工業	高校
全日制	課程
設置小学科名	機械科、電気科、電子科、土木科、建築科、材料技術科
1. 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○工業の基幹となる6学科を有し、各専門分野の基礎・基本の習得と、ものづくりの実技実習に重点を置いた学習を行っている。</p> <p>○課題研究及び工業部を軸とした体験学習や問題解決的な学習を重視し、協働して活動する場面を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習を行っている。</p> <p>○専門高校の特色である職業資格の取得を奨励し、全国工業高等学校長協会が主催するジュニアマイスター顕彰においては、常に全国トップ30に入る実績をあげている。</p> <p>○北東北最大級の工業地帯である利点を生かし、インターンシップ、企業見学等を活用し、職業観・勤労観の育成を図り、将来工業分野の中核となる人材育成を行っている。</p> <p>○拠点校として、平成30年度より十和田工業高等学校と連携し、先進技術や地域産業を学ぶ事業を展開している。</p> <p>○生徒会活動・部活動等に積極的に取り組み、本校の特色ある伝統行事である大運動会をはじめ生徒が主体的に活動しながら協調性やコミュニケーション力を育む活動を行っている。</p>
小学科ごとの特長を生かした教育活動	<p>機械加工技術及び原動機を中心に専門教育を展開している。さらに実習や地元企業の見学など体験的な学習を通して理解を深めている。</p>
	<p>機械科 機械検査技能士、機械保全技能士の資格取得に力を入れており、毎年、ほとんどの生徒が合格している。</p>
	<p>県ものづくりコンテスト旋盤部門において、常に上位に入賞する成績を残している。</p>
	<p>電気工事技術及び発電・送電技術を中心に専門教育を展開している。さらに実習や地元企業の見学など体験的な学習を通して理解を深めている。</p>
<p>電気科 第1種及び第2種電気工事士の資格取得に力を入れており、第2種については、ほぼ全員が取得している。</p>	
<p>八戸電気工事業協同組合青年部と連携し、高校生に電気工事の魅力伝える事業を実施している。</p>	

電子科	電子技術と情報技術の内容を取り入れた専門教育を展開している。さらに実習や地元企業の見学など体験的な学習を通して理解を深めている。
	工事担任者第二級デジタル通信の資格取得に力を入れており、全国でも高い合格率を誇り、さらに上級の資格取得でも成果をあげている。
	地元のNTTと連携し、高校生に光通信技術や光通信工事の魅力伝える事業を実施している。
土木科	土木工事の基礎技術及び測量技術を中心に専門教育を展開している。さらに実習や工事現場の見学など体験的な学習を通して理解を深めている。
	2級土木施工管理技術検定、測量士補の資格取得に力を入れており、2級土木施工管理技術検定についてはほとんどの生徒が取得している。
	県ものづくりコンテスト測量部門や橋梁模型コンテストにおいて、常に上位に入賞する成績を残している。
	青森県測量設計業協会三八支部と連携し、高校生に測量技術の魅力伝える事業を実施している。
建築科	建築製図・施工技術及び木材加工技術を中心に専門教育を展開している。さらに実習や工事現場の見学など体験的な学習を通して理解を深めている。
	2級建築施工管理技術検定、建築CAD検定の資格取得に力を入れており、2級建築施工管理技術検定についてはほとんどの生徒が取得している。
	県ものづくりコンテスト木材加工部門や建築甲子園において、常に上位に入賞する成績を残している。
	地元の建築設計事務所と連携し、高校生に建築設計の魅力伝える事業を実施している。

材料技術科	<p>材料工学の基礎及び機械加工技術を中心に専門教育を展開している。さらに実習や地元企業の見学など体験的な学習を通して理解を深めている。</p>
	<p>材料関連産業が盛んな三八地域の特色を生かし、「地域素形材工学」という学校設定科目を導入し、地域に根差した専門教育を実践している。</p>
	<p>金属熱処理技能士や機械検査技能士の資格取得に力を入れており、金属熱処理技能士においては、毎年ほぼ全員が取得している。</p>
	<p>課題研究や工業部を中心に環境調和型材料の研究活動に積極的に取り組んでおり、科学技術コンテストで多数入賞するなど外部からも評価されている。</p>
	<p>地域のものづくりイベントや柏崎小学校へのものづくり教室を毎年実施し、ものづくりを通じた地域貢献をしている。</p>

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	青森県商工労働部との連携による、ものづくり企業PRイベント及び若手社員等との座談会を実施している。
		地元企業と連携し、産業見学や講演会を実施している。
		八戸市商工労働観光部と連携し、地元紹介動画を制作した。
		八戸工業大学との高大連携協定事業「ミニオープンキャンパス」を実施している。
	土木科	青森県建設業協会と連携し測量講座を実施している。
	電気科	八戸電気工事業協同組合青年部と連携し、高校生に電気工事の魅力を伝える事業を実施している。
	材料技術科	地域企業と連携し、「レアメタルフリー温度素子」の研究を行い、全国産業教育フェアで発表した。
生徒の研究チームが八戸地域ゼロエミッション協議会のオブザーバーとして参加しており、「蓄熱材料の研究」を行っている。また全国産業教育フェアにおいて青森県代表として研究発表を行った。		
八戸学院大学との協力事業「八戸SDGsフォーラム」に参加し、SDGsに関する研究成果の発表を行っている。		
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	ホームページの更新に積極的に取り組み、行事の様子や学科紹介などをアップしている。	
	大運動会の様子をYoutubeを活用し配信している。	

青森商業	高校
全日制	課程
設置小学科名	商業科、情報処理科
1. 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○模擬株式会社の設立を行い、商業を体系的に学習できる「起業体験プログラム」を実施している。</p> <p>○地元事業所でのインターンシップを通して、就業やボランティアにかかわる体験的な学習を行い、勤労の尊さや創造することの喜びを体得することによって、商業人としての積極性・協調性・責任感を学び、職場マナーや勤労観を知ることを目的に実施している。</p> <p>○青森や台湾での販売実践活動を通じて、県内商業高校との連携及び台湾の高校との連携強化を図るとともに、国内外でビジネスを展開するノウハウを高校段階から学び、世界に向かってチャレンジする人財の育成に取り組んでいる。</p> <p>○青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人材育成事業を活用し、士林高級商業職業学校との産業・ビジネスの学習内容を基礎とした、主体的で実践的な協働学習を推進し、グローバルな視野と感覚を備え、将来の本県の産業やビジネス等を担う人材の育成に取り組んでいる。</p> <p>○日商簿記検定や基本情報技術者試験等の資格取得に向け、希望者を対象に放課後に講習会や外部人材を活用した講義を実施することで、難易度の高い資格取得を実現している。</p> <p>○体育祭において、地元保育園児を招いて、地域との関わりや地域への愛着を育む活動を実施している。</p> <p>○課題研究において、地元企業と連携し商品開発に取り組み、将来の地域産業の発展に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。</p> <p>○文武両道を目標に掲げ、中でも卓球部・弓道部・レスリング部・自転車競技部・商業研究部が各種大会で上位入賞となり、インターハイや全国大会出場を決めている。</p>

小学科ごとの特長を生かした教育活動	商業科	商業科会計コースでは、税理士を招聘し、税理士業務について理解を深めるとともに、望ましい職業観の育成のために講話を実施している。
		日商簿記検定2級受験に必要な高度な知識・技能を習得することにより、会計分野に関する専門性を身につけるための一助とすることを目的に、会計コース集中講義を実施している。
		商業コースにおいて、ビジネスの場面を想定したコミュニケーションに関する実践的・体験的な学習活動を充実させるとともに、ビジネスにおいて円滑にコミュニケーションを図ることができるよう、外部講師を招いて講話を実施している。
	情報処理科	ITパスポート試験受験に必要な情報に関する基礎的知識・技能を習得することにより、情報に関する専門性を身につけるための一助とすることを目的に、情報処理科集中講義を実施している。
		情報系学部における学習内容を理解することにより、現在学習している情報処理分野に対する学習意欲の向上を図るために、岩手県立大学出張講義を活用して実施している。
		県内IT企業が情報処理科の生徒を対象に、ビジネス情報分野におけるこれまでの学習をさらに深めるとともに、県内IT関連産業への興味・関心を高めるために出前授業を実施している。

2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況

他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	商業高校で何を学ぶのか、学んだことが社会にどのようなつながっていくかを知ることにより、商業の学びの大切さを知り、起業家教育への足がかりとするために、地元起業家を招聘して講話を実施。また、授業で学ぶ「情報処理」・「簿記」がどのような職業と関連しているのかを知ることによって、普段の学習の大切さについて理解を深めるとともに、職業について考える機会とするために、地元企業の方を講師に情報処理講話及び公認会計士講話を実施している。
	商業科	高大連携協定を締結している青森中央学院大学の教育資源を活用し、青森県にいながら世界とつながるグローバルな視点を持ち、将来の地域産業の発展に貢献できる人財を育成することを目的に、タイと日本の食文化を中心として交流を深め、開発商品の考案について取り組んでいる。
	情報処理科	青森大学との講義を通じて、台湾の市場調査とWebマーケティングを通じて、本校商業科が商品開発している商品の販路拡大に繋げることにについて取り組んでいる。

3. 情報発信に係る状況

学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	ホームページに写真等を活用し学校の情報を発信している。
-----------------------	-----------------------------

弘前実業	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	商業科、情報処理科、家庭科学科、服飾デザイン科、スポーツ科学科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○商業科、情報処理科、家庭科学科、服飾デザイン科、スポーツ科学科の3部5科を設置する「総合専門高等学校」である。</p> <p>○専門学科における外部講師や高大連携を活用した授業の実施。</p> <p>○生徒の興味・関心・適性等に合わせた多様な科目を選択を可能とする総合選択制の実施。</p> <p>○部活動の加入率は86%（運動部56%、文化部30%）と高く、人間性の向上を目指して活発に取り組んでおり、多数の部活動が全国大会等へ出場している。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	商業科	<p>職業人としての基礎的・基本的な知識や技術に重点を置いた授業を展開し、ビジネスの仕組みや必要とされるスキルを身に付けさせ、生徒自身が学習の成果を確認し、主体的に学習に取り組むことを目的に全商協会の検定を活用している。</p>
		<p>より専門的な学習充実のため、専門学校に講師を依頼し、特別授業を実施している。上級日商簿記検定にチャレンジしている。</p>
		<p>郷土に愛着をもち、地域を支え、地域の振興・発展に貢献できる人材を育成するため、地域資源、地域人材を積極的に取り入れ、講義や演習、体験を行っている。</p>
	情報処理科	<p>高度情報社会の一員としての基礎的・基本的な知識や技術に重点を置いた授業を展開し、情報スキルの実践的・体験的な学習活動を通して、生徒自身が学習の成果を確認し、主体的に学習に取り組むことを目的に全商協会の検定を活用している。</p>
		<p>より専門的な学習充実のため、専門学校に講師を依頼し、特別授業を実施している。ITパスポートや情報セキュリティマネジメントにチャレンジしている。</p>
		<p>郷土に愛着をもち、地域を支え、地域の振興・発展に貢献できる人材を育成するため、地域資源、地域人材を積極的に取り入れ、講義や演習、体験を行っている。</p>

家庭科学科	<p>栄養や調理、地域の食文化に対する知識や技術を身に付ける講義や実習をとおして、食物調理技術検定やおもり食育検定などに積極的に挑戦している。</p>
	<p>専門的な知識を深め、技術を向上させるため、調理や福祉、商品開発にともなう知的財産についてなど、外部講師を招いての講義を積極的に取り入れている。</p>
	<p>地域の生活産業について理解を深めるため、校外での学習や施設での実習、インターンシップを行っている。</p>
服飾デザイン科	<p>豊かな創造力と専門的な知識や技術向上のため、プロの方を外部講師に招いた授業を展開している。</p>
	<p>地域の発展に貢献できる人材育成を目指し、関連企業と協力しデザイン角巻きを製作している。</p>
	<p>ファッションショー衣装製作の縫製技術向上のため、被服製作技術検定（洋服・和服）1級まで挑戦させている。</p>
スポーツ科学科	<p>競技力の向上のみならず、体育・スポーツ分野の振興に寄与する知識と能力を備えた人材の育成に取り組んでいる。</p>
	<p>スポーツ活動を通じて、多様性を尊重する豊かな人間性を育て、社会・地域に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。</p>
	<p>専門的な学習充実のため、実習では外部講師を活用し、地域と連携した学習を行っている。</p>

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況

他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	商業科 情報処理科	<p>県内の商業を学ぶ4校と連携、協力し、庁内ベンチャー事業に取り組んでいる（台湾祭や台湾研修）。</p>
	商業科 情報処理科	<p>2年課題研究では、地域人材を活用し、地域の現状や課題、生徒の視野を広げるための講話を、8コマ程度計画している。既に4コマを実施済みである。</p>
	商業科 情報処理科	<p>3年課題研究では、商業の学びを生かした「地域貢献」をメインテーマとし、地域の現状や課題等について理解を深め、行政や民間企業、大学等からの情報収集やアドバイスを受けながら、解決に向けて主体的に取り組んでいる。</p>

商業科 情報処理科	2年生を対象に、高校生就職総合支援プロジェクト事業を活用し、商業科では日商簿記検定2級対策講習会を2日間、情報処理科ではITパスポート試験対策講習会及びプログラミング言語pythonの演習を2日間、実施予定である。
情報処理科	2年生を対象に、県内高校と連携したIT人財の定着推進事業を活用し、プログラミング、メタバース体験等の講義・演習を15回程度実施予定である。
家庭科学科	3年課題研究では、「地域課題の掘り起こしと解決策の提案」をテーマに、JA、弘果、洋菓子店舗などの企業や地域のNPO、その他研究会等と連携し、りんごや米、津軽の食文化などに関する助言等をいただきながら、調査・研究活動を行っている。
服飾デザイン科	3年課題研究において、青森県の冬の観光を盛り上げようと活動している「あおり冬活会議」と協力し、昭和で姿を消した伝統角巻きに着目して、新しい魅力を加えたコンセプトやデザインについて話し合い、世界に一点しかないオリジナルデザイン角巻きを製作している。
スポーツ科学科	特別支援学校高等部の生徒と、スポーツ活動での交流事業を行っている。また、校外実習では各競技団体などに講師を依頼し、専門性を高める学習を行っている。
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	HPに生徒の学習内容や「あおり創造学」についてUPしている。

黒石	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科、情報デザイン科、看護科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○学校設定科目として「ボランティア探究」を各学年に1単位設置</p> <p>○地域と協働した諸活動の実施（黒石よされへの参加、黒石りんごまつり、黒石こみせまつり他）</p> <p>○1、2年生の希望者はインターンシップ、3年生の就職希望者は企業見学会に参加し、地元企業の理解を深め、職業観を高める取組をしている。</p> <p>○統合後に新設したイラスト・漫画研究部が「まんが甲子園」全国大会へ連続出場、家庭部が焼そばコンテストで連続入賞、パソコン部の生徒がITパスポート取得するなど文化部の活動も活発である。</p> <p>○公務員希望者に22回、就職希望者対象に8回の学内講座を実施し、外部講師から専門的な指導を受けることで高い合格率を実現している。</p> <p>○各クラスに学級文庫を配布(40冊)し、随時本を巡回させて読書の機会を提供している。</p> <p>○学校運営協議会開始3年目となり、学校教育活動と地域とのつながりがさらに強くなっている</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	2年生から文類型、理類型、スキルアップ型に分かれ、多様な進路希望に対応した教育課程を設置している。
		スキルアップ型の家庭コースでは食物調理技術検定、被服製作技術検定取得に取り組んでいる。福祉コースでは「介護職員初任者研修」の研修事業者指定されており、2年生修了の段階で「初任者研修修了証」が得られる。
		英語と数学で習熟度による少人数指導を実施、個々に応じた手厚い指導を実践している。
	情報デザイン科	課題研究を通して、公共施設、地域企業と連携したデザイン制作に多数取り組んでいる（1億円プロジェクト、市図書館ロゴマーク制作、企業のキャラクターデザイン、イベント開催告知ポスター制作、市議会議員選挙投票啓発ポスター制作他）。
		専門性を高める色彩検定、レタリング検定、マルチメディア検定ベーシック等の資格取得に取り組んでいる。
		2年生からメディアデザイン(主にPC利用)と探究デザイン(主に手書き、デッサン)の選択科目を設置し、デザインについて深化した学習をしている。

	看護科	5年一貫教育(高校3年+専攻科2年)の実施により、最短で正看護師国家試験の受験資格を取得する。
		1年生から市内外の医療施設、介護施設で臨地実習を実施し、専門スキルの向上に努めている。
		専攻科では年間約60名の非常勤講師(医師や大学教授等)に依頼し、専門性の高い授業を展開している。
		卒業後、助産師、保健師、養護教諭の資格取得のための進学指導を行っている。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況

他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	ボランティア活動、地域のイベントへの協力(学校単位、部活動単位でも)貢献している。
		家庭部が市内の企業と商品を共同開発、NPO法人とともに「子ども食堂」実施へ協力、黒石こみせまつりで手作り商品を販売。
		中学生が本校の部活動に参加する「中学生との体験交流」を8月から実施する予定。
	普通科	弘前大学の「高大連携公開講座」へ希望者が参加している。
	情報デザイン科	産学官連携(弘南鉄道、中南県民局、本校)の地域デザインに取り組んでいる。沿線の地場産品、サービス紹介、地域の魅力発信に資する高校制作、広告掲出列車の運行など。
		世界規模で事業展開する市内企業で「社会に求められるデザインのあり方について」の体験学習を実施中。
看護科	1に書いたように、とにかく多くのポスター制作やデザイン制作の依頼があり、学年進行に応じた社会とつながる生きた教育活動を実践している。また、地域で活動しているデザインの専門家による講義を毎年複数回実施。さらに大学におけるデザインの学習について説明会を開いている。	
看護科	臨地実習の実習調整などを含め、近隣大学各校と連携した活動を実施。臨地実習先は市内外の病院、市役所、訪問看護ステーション、企業保健師、市内の老人福祉センター、特別支援学校など幅広い。地域保健に寄与する活動として、県赤十字センターや腎バンクなどの見学を実施。	

3 情報発信に係る状況

学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	中学生向けの「黒高通信」を作成し、近隣の28校に届けているほか、HPに掲載している。
	学校の取組はHPで情報発信している。

三沢商業	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	商業科、情報処理科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○SAH事業（日本商業教育振興会と高崎商科大学経理研究所が指定・支援する、簿記の最先端教育）を実施し、全校生徒で日商簿記2級取得に向けて取り組んでいる。（平成27年度より）</p> <p>○実体験推進委員会（市役所、商工会、農協、漁協と連携）を通じて、アントレプレナーシップ（起業家精神）を育成するとともに、地域理解・郷土愛を持たせ地域産業と融合した地域総合学習を展開している。</p> <p>○高崎商科大学との高大連携により、Haul-Aプロジェクト（日商簿記1級取得）に取り組んでいる（平成27年度より）。</p> <p>○朝日大学との高大連携により、簿記会計の能力を生かして社会貢献に資する人材の育成をしている。（令和5年度より）</p> <p>○青森中央学院大学との高大連携により、地域の課題を解決することを目的とした学習を展開している。（令和4年度より）</p> <p>○商業科目「課題研究」を通して、地域産業と融合した実践的な取組を行う体験型教育を取り入れており、校外での活動を推奨している。商品開発（物販含む）・アプリ開発・PR動画の制作・各種コンテストへの参加などを行っている。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	商業科	（小学科ごとではなく、学校全体（大学科：商業科）として取り組んでいる教育活動が多い）
		進路希望に応じた履修体系（簿記会計系・マーケティング系・経営情報系）を展開している。
	情報処理科	（小学科ごとではなく、学校全体（大学科：商業科）として取り組んでいる教育活動が多い）
		地元IT企業および八戸工業大学と連携し、IT人材の育成を図っている。
		会計分野の科目も履修できる教育課程を編成している。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	令和4年度より「青商ビジネスチャレンジwith台湾事業『商業高校ビジネスプロジェクト』」に参加し、県内の商業高校と協働し、国内外でビジネスを展開する能力を身に付ける活動を展開している。
	全学科 現行の学習指導要領（中学校公民）で、「会計情報の活用」が取り入れられたことを踏まえ、日本商業教育振興会及び三沢市教育委員会と連携し、三沢市及び周辺地区の中学校に、簿記会計教育の紹介（出前授業）を行っている。
	本校の所在地である春日台2丁目地域へ貢献するため、「春日台2丁目サミット」と題して、町内会役員の方々との情報交換・交流の場を設け、地域への貢献活動に励んでいる。
	三沢青年会議所と連携し、「三沢未来ミーティング」での活動を通して、お金の正しい知識等を学ぶとともに、自己のライフプラン設計する能力を身に付けている。
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学校ホームページで、校内外の活動を紹介し、随時更新している。
	商業高校の魅力発信として、三沢市及び周辺地区の中学校に、簿記会計教育の出前授業を行っている。（前述あり）

八戸商業	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	商業科、情報処理科	
1. 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○選択科目が幅広く設定されており、生徒の興味・関心、進路志望に応じた少人数指導を行っている。</p> <p>○商業科目指導や外国語指導・国際教育[閉科した国際経済科で培った指導方法等]を通して、職業人(ビジネスパーソン)として必要な知識定着に向けた授業実践に取り組んでいる。</p> <p>○課題研究や八商バザー、職場体験実習(2学年)等を通して、地域の産官学との連携による地域課題の解決に向けた授業に取り組んでいる。</p> <p>○資格取得に向け、希望者を対象に放課後や課外に講習会を実施することで、高い合格率や難易度の高い資格取得の実現を目指している。</p> <p>○生徒の進路希望の実現に向け、冬季休業中、冬季休業明けに講習を実施するなど、進学希望者にも手厚いキャリア教育全体計画が組まれている。</p> <p>○知・徳・体の調和のとれた人間性を備えた人財の育成を目指している。学習と部活動等の両立により、コンピュータ部、珠算部、ワープロ部など、各種大会で上位入賞を果たしている部もある。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	商業科	高大連携事業による「財務会計論」、「広告と販売促進」の集中講義等を通して高度な専門知識を学ぶとともに、地域産業に貢献できる人財育成を図っている。
		専門知識や高度な技術を身に付ける実習を通して、簿記やビジネス計算実務検定など、多くの資格取得に積極的に取り組んでいる。
		地域課題を解決する総合的な探究(課題研究)を行い、問題発見・解決力、コミュニケーション力、情報活用力の育成を図っている。
	情報処理科	市内企業と連携した協働学習(S E 講座)を行い、技術の習得と向上を図っている。
		専門知識や高度な技術を身に付ける実習を通して、ITパスポートや基本情報技術者試験など、多くの資格取得に積極的に取り組んでいる。
		地域課題を解決する総合的な探究(課題研究)を行い、問題発見・解決力、コミュニケーション力、情報活用力の育成を図っている。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	県内の大学との高大連携授業(県内商業高校締結)を通して、授業で学んだ内容が地域産業においてどのように生かされるのか生徒にイメージを持たせながら教育活動を行っている。
	全学科	ボランティア活動(八戸公園春まつり、あおぞらペイントなど)による地域貢献活動を積極的に行っている。
	商業科	青森商業高校、三沢商業高校、弘前実業高校、黒石高校と連携した台湾祭を通じて、イベントの企画立案・商談・運営等、実践的な学びを得る活動を行っている。
	商業科	企業と連携し、商品企画や開発商品の販売を通して実践的・体験的な学習活動を行っている。
	情報処理科	企業と連携し、アプリの開発を通して技術の習得と向上を図っている。
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	ホームページでは、タイムリーな情報発信に向けて、こまめに更新している。また、保護者・生徒の了承を得た上で、写真付きで生徒の取り組む様子をUPしている。	

八戸水産	高校
全日制	課程
設置小学科名	海洋生産科、水産食品科、水産工学科
1 学校の特徴等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○「総合的な探究の時間」及び科目「水産海洋基礎」の「座学」と「実習」における教科横断的な学びを通して、生徒の学習意欲を喚起している。</p> <p>○1学年の全学科で実習船「青森丸」を活用し、日本沿岸での2泊3日の体験航海を実施している。また、2学年の海洋生産科・水産工学科は、約2ヶ月の長期乗船実習を行い、ハワイ沖でマグロ延縄や海洋調査等を実施している。</p> <p>○1級小型船舶操縦士、2級ボイラー技士、各種危険物取扱者等の資格取得に向け、希望者を対象に放課後等に講習会を実施することで、高い資格取得を実現している。</p> <p>○地域の水産関連企業等と連携したインターンシップを実施し、地域水産業や海洋関連産業の理解を深めるとともに、職業観・倫理観を高めるなど学校全体でキャリア教育を推進している。</p> <p>○八戸港内・海岸線及び学校周辺地域の清掃活動、八水クリーン作戦を実施し、社会奉仕の精神を養うとともに、環境問題に対する関心を高めている。</p>
小学科ごとの特長を生かした教育活動	船舶運航、漁業、海洋生物、海洋環境などの「海・魚・船」に関する知識・技術を総合的に学習している。五級海技士（航海）第一種養成施設、一級小型船舶操縦士第一種教習所に登録されている。2学年より、選択で航海システムコースと漁業システムコースに分かれる。
	海洋生産科 航海システムコースは、主に船舶運航や漁業生産について学んでいる。実習船やレーダーシュミレータなど実践的な設備により知識・技術を学んでいる。
	漁業システムコースは、沿岸漁業やヒラメ・ウニ・昆布等の種苗生産を中心とした資源増殖の知識・技術やその基礎となる海洋生物や海洋環境等について学んでいる。
	水産食品科 食品の加工・製造から流通・販売・消費に至るまで全ての過程に関する知識・技術を総合的に学習している。
	「さば水煮缶詰」や「むしうに缶詰」などの生産実習に取り組むとともに、数多くの水産食品について調理・加工実習を行っている。

		食品技能検定では、魚の三枚おろしや有機酸の定量分析について、HACCP基本技能検定では、プラン作成のための危害分析について学習している。
	水産工学科	船舶機関を主体に機械装置について総合的に学習している。また、内燃機関五級海技士（機関）第一種養成施設に認定されている。
		船舶の機関、ボイラ、冷凍装置などの動力機関等について学び、船舶の安全運航に必要な機関の運転や保安に関する知識・技術を習得している。
		実習船「青森丸」での航海実習等を通して、機械装置を安全かつ効率的に運航、管理する能力や態度を育成している。
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	階上町と連携して「アブラメ」ブランド化推進事業を実施し、養殖実証調査、放流、調理方法の研究など地域産業の一層の活性化と発展及び地域のブランドの確立に努めている。
		八戸市の水産振興事業「八戸水産アカデミー」において、国際航海の体験発表等を行っている。また、八戸学院大学、八戸工業大学、八戸工業高等専門学校、八戸水産事務所と連携し、水産業界の課題や将来的ビジョンについて協議等を行っている。
		令和5年度より学校運営協議会を設置し、地域企業・研究機関・小学校・中学校・PTA等から9名の委員を委嘱し、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めている。
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況		<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページを随時更新し、最新の活動状況を発信している。 ○学校紹介動画の作成、ユーチューブ掲載を行っている。 ○各種イベントで、本校生産の缶詰販売及び学科紹介等を行っている。 ○中学生体験入学時に、実習船「青森丸」でクルージング体験を行っている。

弘前実業	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	商業科、情報処理科、家庭科学科、服飾デザイン科、スポーツ科学科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○商業科、情報処理科、家庭科学科、服飾デザイン科、スポーツ科学科の3部5科を設置する「総合専門高等学校」である。</p> <p>○専門学科における外部講師や高大連携を活用した授業の実施。</p> <p>○生徒の興味・関心・適性等に合わせた多様な科目を選択を可能とする総合選択制の実施。</p> <p>○部活動の加入率は86%（運動部56%、文化部30%）と高く、人間性の向上を目指して活発に取り組んでおり、多数の部活動が全国大会等へ出場している。</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	商業科	<p>職業人としての基礎的・基本的な知識や技術に重点を置いた授業を展開し、ビジネスの仕組みや必要とされるスキルを身に付けさせ、生徒自身が学習の成果を確認し、主体的に学習に取り組むことを目的に全商協会の検定を活用している。</p>
		<p>より専門的な学習充実のため、専門学校に講師を依頼し、特別授業を実施している。上級日商簿記検定にチャレンジしている。</p>
		<p>郷土に愛着をもち、地域を支え、地域の振興・発展に貢献できる人材を育成するため、地域資源、地域人材を積極的に取り入れ、講義や演習、体験を行っている。</p>
	情報処理科	<p>高度情報社会の一員としての基礎的・基本的な知識や技術に重点を置いた授業を展開し、情報スキルの実践的・体験的な学習活動を通して、生徒自身が学習の成果を確認し、主体的に学習に取り組むことを目的に全商協会の検定を活用している。</p>
		<p>より専門的な学習充実のため、専門学校に講師を依頼し、特別授業を実施している。ITパスポートや情報セキュリティマネジメントにチャレンジしている。</p>
		<p>郷土に愛着をもち、地域を支え、地域の振興・発展に貢献できる人材を育成するため、地域資源、地域人材を積極的に取り入れ、講義や演習、体験を行っている。</p>

家庭科学科	<p>栄養や調理、地域の食文化に対する知識や技術を身に付ける講義や実習をとおして、食物調理技術検定やおもり食育検定などに積極的に挑戦している。</p>
	<p>専門的な知識を深め、技術を向上させるため、調理や福祉、商品開発にともなう知的財産についてなど、外部講師を招いての講義を積極的に取り入れている。</p>
	<p>地域の生活産業について理解を深めるため、校外での学習や施設での実習、インターンシップを行っている。</p>
服飾デザイン科	<p>豊かな創造力と専門的な知識や技術向上のため、プロの方を外部講師に招いた授業を展開している。</p>
	<p>地域の発展に貢献できる人材育成を目指し、関連企業と協力しデザイン角巻きを製作している。</p>
	<p>ファッションショー衣装製作の縫製技術向上のため、被服製作技術検定（洋服・和服）1級まで挑戦させている。</p>
スポーツ科学科	<p>競技力の向上のみならず、体育・スポーツ分野の振興に寄与する知識と能力を備えた人材の育成に取り組んでいる。</p>
	<p>スポーツ活動を通じて、多様性を尊重する豊かな人間性を育て、社会・地域に貢献できる人材の育成に取り組んでいる。</p>
	<p>専門的な学習充実のため、実習では外部講師を活用し、地域と連携した学習を行っている。</p>

2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況

他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	商業科 情報処理科	<p>県内の商業を学ぶ4校と連携、協力し、庁内ベンチャー事業に取り組んでいる（台湾祭や台湾研修）。</p>
	商業科 情報処理科	<p>2年課題研究では、地域人材を活用し、地域の現状や課題、生徒の視野を広げるための講話を、8コマ程度計画している。既に4コマを実施済みである。</p>
	商業科 情報処理科	<p>3年課題研究では、商業の学びを生かした「地域貢献」をメインテーマとし、地域の現状や課題等について理解を深め、行政や民間企業、大学等からの情報収集やアドバイスを受けながら、解決に向けて主体的に取り組んでいる。</p>

商業科 情報処理科	2年生を対象に、高校生就職総合支援プロジェクト事業を活用し、商業科では日商簿記検定2級対策講習会を2日間、情報処理科ではITパスポート試験対策講習会及びプログラミング言語pythonの演習を2日間、実施予定である。
情報処理科	2年生を対象に、県内高校と連携したIT人財の定着推進事業を活用し、プログラミング、メタバース体験等の講義・演習を15回程度実施予定である。
家庭科学科	3年課題研究では、「地域課題の掘り起こしと解決策の提案」をテーマに、JA、弘果、洋菓子店舗などの企業や地域のNPO、その他研究会等と連携し、りんごや米、津軽の食文化などに関する助言等をいただきながら、調査・研究活動を行っている。
服飾デザイン科	3年課題研究において、青森県の冬の観光を盛り上げようと活動している「あおり冬活会議」と協力し、昭和で姿を消した伝統角巻きに着目して、新しい魅力を加えたコンセプトやデザインについて話し合い、世界に一点しかないオリジナルデザイン角巻きを製作している。
スポーツ科学科	特別支援学校高等部の生徒と、スポーツ活動での交流事業を行っている。また、校外実習では各競技団体などに講師を依頼し、専門性を高める学習を行っている。
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	HPに生徒の学習内容や「あおり創造学」についてUPしている。

百石	高校
全日制	課程
設置小学科名	普通科、食物調理科
1. 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>「発見・挑戦・実現～君が輝く場所がある～」のスローガンのもと、生徒一人ひとりが輝く場所をつくるために、令和5年度に学校運営協議会を設立した。</p> <p>町や地域と積極的に連携を図りながら、町や地域の行事や関連事業に生徒を参加させている。ボランティア活動やアルバイト等の社会経験も含め、外部の大人と積極的に関わる活動に取り組んでいる。</p> <p>○長期休業中のアルバイトの奨励 許可制から届け出制に変更し、アルバイト活動を奨励している。活動報告書において、振り返り、働くことの意義や社会とのかかわりについて考えさせている。</p> <p>○ボランティア活動の積極的参加の推進 活動届と活動報告書の提出により、社会との関わりについて考えさせている。</p> <p>○授業において 観点別評価の趣旨を踏まえて、生徒自身のPDCAサイクルの気づき（発見）となるような授業を実践している。また教員の研修を実施し、興味関心を高める授業の改善に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○2・3年生の学校設定科目「新聞を読もうⅠ・Ⅱ」の設定 自分の夢・目標に挑戦するため、世の中の動きを広く知り、深く考えさせている。</p> <p>○おいらせ町の有識者、後援会の理事による面接指導 実践に近い形の面接を経験させることで、進路希望の実現を図っていく。</p> <p>○各種検定資格取得・模擬試験・通塾のすすめ おいらせ町の支援・助成制度を利用した、進路指導の実施。</p> <p>○Mゼミの実施（百石高校で、目標に向かって、学びを究めるゼミ） ・放課後の時間に多目的教室を利用して、学びを究めるゼミを実施している。 大学生や、企業の協力を得て、出張ユースセンター（自習教室）を開設。 ・セルフコーチング等講習会の実施。</p>

小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	<p>■総合的な探究の時間を柱にしたキャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通したカリキュラム作成。1年時→興味関心を広げる。2年時→テーマを探究する。3年時→進路につなげる。を掲げて、地域や社会の人・もの・ことについて探究する。生徒の主体的な探究態度を育てるために、教員の関与以外にも、可能な限り外部講師によるファシリテーション等を入れながら、自分・地域・社会の中の自分を認知するカリキュラムにしている。 ・探究と地域の課題が結びつくように、地域活動・ボランティアへの積極的な参加の呼びかけをしている。 <p>■生活と福祉での授業における、施設等の訪問（年10回程度）</p>
	食物調理科	各分野（和食・洋食・中華）の専門家による、実習や講義 課題研究における、コンテストへの参加や、食文化の研究
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全科共通 (主として普通科)	<p>町内での各イベントへの、ボランティア活動への参加</p> <p>おいらせ町広報誌への参加</p> <p>出版委員会を主体として、広報誌への記事の提供、モニター（紙面への意見）活動。</p> <p>おいらせ魅力発見事業への参加</p> <p>おいらせ町の魅力を動画作成し、発信することを目標にした活動。</p>
	食物調理科	<p>町内の各イベントへの出店、二十歳の記念式典でのお祝い膳の提供、販売実習、おやこ食堂等への料理提供</p> <p>イオン下田において「まなびの」への調理レシピの公開や展示</p>
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	Classiを導入し、全校生徒や登録した保護者へ積極的に情報を発信。	
	モモチューブ（保護者作成動画）の配信。学校行事の動画等を保護者等へ限定公開。	
	各マスコミへ取材を依頼。	

黒石	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	普通科、情報デザイン科、看護科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○学校設定科目として「ボランティア探究」を各学年に1単位設置</p> <p>○地域と協働した諸活動の実施（黒石よされへの参加、黒石りんごまつり、黒石こみせまつり他）</p> <p>○1、2年生の希望者はインターンシップ、3年生の就職希望者は企業見学会に参加し、地元企業の理解を深め、職業観を高める取組をしている。</p> <p>○統合後に新設したイラスト・漫画研究部が「まんが甲子園」全国大会へ連続出場、家庭部が焼そばコンテストで連続入賞、パソコン部の生徒がITパスポート取得するなど文化部の活動も活発である。</p> <p>○公務員希望者に22回、就職希望者対象に8回の学内講座を実施し、外部講師から専門的な指導を受けることで高い合格率を実現している。</p> <p>○各クラスに学級文庫を配布(40冊)し、随時本を巡回させて読書の機会を提供している。</p> <p>○学校運営協議会開始3年目となり、学校教育活動と地域とのつながりがさらに強くなっている</p>	
小学科ごとの特長を生かした教育活動	普通科	2年生から文類型、理類型、スキルアップ型に分かれ、多様な進路希望に対応した教育課程を設置している。
		スキルアップ型の家庭コースでは食物調理技術検定、被服製作技術検定取得に取り組んでいる。福祉コースでは「介護職員初任者研修」の研修事業者指定されており、2年生修了の段階で「初任者研修修了証」が得られる。
		英語と数学で習熟度による少人数指導を実施、個々に応じた手厚い指導を実践している。
	情報デザイン科	課題研究を通して、公共施設、地域企業と連携したデザイン制作に多数取り組んでいる（1億円プロジェクト、市図書館ロゴマーク制作、企業のキャラクターデザイン、イベント開催告知ポスター制作、市議会議員選挙投票啓発ポスター制作他）。
		専門性を高める色彩検定、レタリング検定、マルチメディア検定ベーシック等の資格取得に取り組んでいる。
		2年生からメディアデザイン(主にPC利用)と探究デザイン(主に手書き、デッサン)の選択科目を設置し、デザインについて深化した学習をしている。

看護科	5年一貫教育(高校3年+専攻科2年)の実施により、最短で正看護師国家試験の受験資格を取得する。
	1年生から市内外の医療施設、介護施設で臨地実習を実施し、専門スキルの向上に努めている。
	専攻科では年間約60名の非常勤講師(医師や大学教授等)に依頼し、専門性の高い授業を展開している。
	卒業後、助産師、保健師、養護教諭の資格取得のための進学指導を行っている。

2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況

他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	全学科	ボランティア活動、地域のイベントへの協力(学校単位、部活動単位でも)貢献している。
		家庭部が市内の企業と商品を共同開発、NPO法人とともに「こども食堂」実施へ協力、黒石こみせまつりで手作り商品を販売。
		中学生が本校の部活動に参加する「中学生との体験交流」を8月から実施する予定。
	普通科	弘前大学の「高大連携公開講座」へ希望者が参加している。
	情報デザイン科	産学官連携(弘南鉄道、中南県民局、本校)の地域デザインに取り組んでいる。沿線の地場産品、サービス紹介、地域の魅力発信に資する高校制作、広告掲出列車の運行など。
		世界規模で事業展開する市内企業で「社会に求められるデザインのあり方について」の体験学習を実施中。
看護科	1に書いたように、とにかく多くのポスター制作やデザイン制作の依頼があり、学年進行に応じた社会とつながる生きた教育活動を実践している。また、地域で活動しているデザインの専門家による講義を毎年複数回実施。さらに大学におけるデザインの学習について説明会を開いている。	
看護科	臨地実習の実習調整などを含め、近隣大学各校と連携した活動を実施。臨地実習先は市内外の病院、市役所、訪問看護ステーション、企業保健師、市内の老人福祉センター、特別支援学校など幅広い。地域保健に寄与する活動として、県赤十字センターや腎バンクなどの見学を実施。	

3 情報発信に係る状況

学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	中学生向けの「黒高通信」を作成し、近隣の28校に届けているほか、HPに掲載している。
	学校の取組はHPで情報発信している。

青森中央	高校
全日制	課程
設置小学科名	総合学科
1. 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○産業社会における自己の在り方生き方について考えさせる「産業社会と人間」の学習（1年次）</p> <p>○問題の解決や探究活動に主体的に取り組む、総合的な探究の時間「あすなる学」（2, 3年次）</p> <p>○総合学科の4つの系列（数理情報、人文科学、生活科学、美術）の、多様な教科・科目から、生徒一人一人が学習内容を選択し、自分の得意分野を伸ばすことによって、それぞれの進路実現を果たしている。</p>
2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>総合学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青森大学、青森中央学院大学、青森中央短期大学、青森明の星短期大学との高大連携による <ul style="list-style-type: none"> ①大学模擬講義等講座への講師招聘②生徒の体験授業（看護体験など）③あすなる学の研究指導や発表会への参加。 ・「総合的な探究の時間」では青森市役所との連携を青森市探究活動として推進している。 <ul style="list-style-type: none"> ①生徒自身の興味がある分野において、青森市に関する情報を収集する。 ②青森市が行っている取り組みと課題の話聞き知識を深める。 ③課題解決を目指した実践方法を計画する。 ④課題解決に向けた実践活動を行う。 ・昨年度よりあすなるクラブを発足し、地域貢献活動を行っている日本全国の高校や、一般社団法人未来の大人応援プロジェクトと連携し、活動の企画や実施を目指している。
3. 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	本校の活動を広くかつ効果的に周知するために、インスタグラムの学校の公式アカウントを開設し、オンタイムで積極的な情報発信をしている。

木造	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	総合学科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○創立95周年を迎える伝統校のため、地域で活躍する卒業生も多く地域の信頼も厚い。</p> <p>○硬式野球部、柔道部、陸上競技部、弓道部、相撲部など各種大会で活躍する部活動がある。</p> <p>○総合的な探究の時間において、「地域・未来・私」をテーマに、地域の課題解決に向けての取組や自分の将来へつなげる探究学習を行っている。</p>	
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	総合学科	西北地域県民局や東北経済産業局と連携し地域の課題をSDG'Sに繋げる探究学習に取り組んでいる
		絶滅危惧種「ガシャモク」をテーマに弘前大学と連携した探究学習に取り組んでいる。
		青森中央学院大学及び青森大学と連携して、授業や実習を体験するなど、幅広い探究活動を目指している。
		中学生に向けた職業人講話や部活動体験など、地域の小中学校との交流も盛んである。
		地域のまつりや催し物に積極的に参加し、地域と協働しながら、地域活性化のために取り組んでいる。
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況		HP内に木高ブログを開設し、生徒の了承を得た上で、写真付きで生徒の学校生活の様子を随時発信している。
		HP内に探究ブログを開設し、生徒の了承を得た上で、写真付きで生徒の探究活動の様子を随時発信している。

七戸	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	総合学科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○人文科学、自然科学、情報ビジネス、福祉健康の4つの専門科目群（系列）を設置し、進学から就職まで、幅広い進路希望に対応する。</p> <p>○各系列の科目と系列の枠を超えた自由選択科目を数多く設定し、少人数制によるきめ細かい指導及び生徒の適性や理解度に合わせたアウトプット重視の分かりやすい授業を実施する。</p> <p>○系列の特徴を活かした多種多様な資格試験へ挑戦する。</p> <p>○1年次での「産業社会と人間」と2・3年次での「総合的な探究の時間」を接続し、3年間を通じて探究的・協働的・体験的な教育活動を実施する。</p> <p>○「総合的な探究の時間」全3単位を、2年次で2単位、3年次で1単位設定し、生徒自らが疑問や課題を発見し解決に向けて探究する意欲と能力を早期から育成する。</p> <p>○地域企業・団体・個人等と連携したり地域行事に関わったりするなど、キャリア教育をとおして知識及び技能の定着を図るよう、体験的で実践的な学びを展開する。</p> <p>○特色ある部活動の設置（アーチェリー、空手道、新体操、ボクシング）</p>	
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	総合学科	七戸町の支援による「七戸公営柏葉塾」を開校した。七戸高校の生徒であれば、無料で学習支援を受けられる。
		七戸養護学校との交流学习及び特別支援教育の連携。
		全校生徒による「しちのへ秋まつり」への参加。民謡「とらじよさま」をサンバ風にアレンジした「トラジョサンバ」にあわせて、地元商店街を練り歩く。
		科目「総合的な探究の時間」の一環として、七戸町や地域関係機関との連携による研究活動の実施。
		科目「産業社会と人間」の一環として、社会人講師を積極的に招聘した社会人講話、県内高等教育機関の見学及び、就業体験の実施。
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況		学校ホームページへ、随時掲載している。
		各種通信を関係者へ定期的に配布している。

大湊	高校	
全日制	課程	
設置小学科名	総合学科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ○大学との連携による専門的な授業の活用 ○地域企業との連携による多様な人材の育成 ○外部指導者（コーチ）の活用による、各部の専門的な指導 ○総合学科の特性を生かした、学びの選択(系列の選択、選択科目の設定) ○震災から学ぶプロジェクト 	
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	総合学科	「産業社会と人間」におけるキャリア形成 (地域の企業人への職業インタビュー「下北ヒーローズ」)
	総合学科	「総合的な探究の時間」における課題研究 (ジオパークを活用したむつ市との連携授業や課題研究発表に向けた探究活動)
	総合学科	福祉系列における外部人材を活用した授業 (むつ市社会福祉課との連携)
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	行事等の取り組み状況をホームページで発信	

北斗	高校	
定時制	課程	
設置小学科名	普通科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○スクールソーシャルワーカー（2名）やスクールライフサポーター（3名）による支援。</p> <p>○地域若者サポートステーションによる支援。（現場実習やアルバイト等の支援）</p> <p>○今年度で6年目となる自立活動（通級による指導）。希望する生徒は年々増えており、令和5年度は34名が行っている。</p>	
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科	就労移行支援施設との連携。（学校と企業のパイプ役）
		「NPO法人ひろだい多文化リソースルーム」との連携。（昨年度ネパールの中学校から入学した生徒への支援）
		入学年次による町内清掃活動。
		不登校となっている中学生の居場所として、年3回フリースクールを開設している。（北斗サタデースクール）
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況		年に1度行っている学校公開を回覧板等を通じて、近隣の町内の方々へお知らせしている。
		学校ホームページにて行事などの実施状況を記事と写真で発信をしている。

五所川原	高校
定時制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○基本的な生活習慣を身に付け、社会生活を営むための必要な力を身に付けられるよう個々に応じた指導を行っている。</p> <p>○生徒の進路希望の実現に向け、進学希望者を対象に対して修業前に特別時間割を作成し講習を実施している。</p> <p>○学校祭や芸術鑑賞について、全日制とともに取り組んでいる。</p> <p>○五所川原市観光課の協力を得て、ねぶた絵のモザイク壁画を生徒全員で制作するとともに、五所川原立佞武多について講演を行っている。</p> <p>○立佞武多の館へ来館し、五所川原市の祭りの歴史や金魚ねぶた制作体験を行い、郷土の魅力を再発見する機会として行っている。</p>
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>普通科</p> <p>五所川原公共職業安定所の協力を得て、職場見学や職業講話を実施するなど生徒の進路指導に役立っている。</p> <p>学校周辺の清掃活動などのボランティア活動に取り組んでいる。</p> <p>五所川原第一高等学校通信制生徒との交流会を実施している。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>定時制便りを作成し、生徒の了承を得た上で、写真付きで生徒の取り組む様子や活動を掲載している。また、ホームページを通して、学校情報を積極的に発信している。</p>

尾上総合	高校
定時制の	課程
設置小学科名	総合学科
1. 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○3部制の定時制で、3つの時間帯から自分の生活スタイルに合った学習時間を選べる。</p> <p>○総合学科のカリキュラムを通して、自分の進路について深く考え、将来社会に貢献するための知識や態度を養える。</p> <p>○地域の協力を仰ぎ、社会体験を重視したキャリア教育を実践している。</p> <p>○授業のユニバーサルデザイン化を推進し、分かりやすい授業の実践。</p> <p>○発達障害等困難を抱えた生徒に向き合い、教育相談の充実を図り、希望者には通級による指導を行っているとともに、生徒の就労移行支援にも取り組んでいる。</p>
2. 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田舎館村との連携（田んぼアート田植え、稲刈り、測量） ・平川市との連携（あおもり10市大祭典ボランティア活動事業） ・平川市観光協会への協力依頼（課題研究） ・平川市商工会への協力依頼（課題研究）
	<p>企業等外部機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業人インタビュー（県内企業・大学） ・校内居場所カフェ（大学、法人団体等） ・農業体験（市内農業生産法人） ・インターンシップ事業（県内企業・大学、事業所等） ・「就職活動応援隊」協力による就職促進 ・AOMORI多文化共生推進事業に係る日本語指導支援員の派遣（ひろだい多文化リソースルーム） ・地元ねぶた団体との交流（ねぶた愛好会・課題研究）
	<p>教育相談等の支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSW,SLSと連携協働した生徒及び保護者への支援 ・SLSと協働した通級による指導の実践 ・生徒が利用している医療機関や福祉サービスとの連携・協働 ・就労移行支援を必要とする生徒の施設見学会 ・入学、転編入希望者相談会
3. 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学校ホームページ、報道等からの情報発信
	年次通信による保護者への情報発信

三沢	高校
定時制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○三年間で卒業単位の取得を可能とする教育課程を編成しており、全生徒が最少年限での卒業を目指して学業に取り組んでいる。</p> <p>○単位制の特長を生かして、中途転入生については必要に応じて個別の時間割を設定し、柔軟な科目履修を可能にしている。</p> <p>○スクールソーシャルワーカーが常駐しているため、スクールソーシャルワーカーによるきめ細かい面接を実施し、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう努めている。</p> <p>○定時制ながらも部活動に全生徒が所属し、年次の枠を超えた交流の機会を設けている。県定時制通信制高校総体には文化部の生徒も報道係を務めて全生徒が参加して、バスケットボール部男子が優勝した。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>生徒のアルバイト活動を積極的に推奨しており、長期休業中には教員による雇用主訪問を実施し、雇用主の助言や協力を得ながら、生徒の社会性の向上、勤労観の育成等に努めている。</p> <p>県の「ドリカム人づくり推進事業」による支援を活用して、地域の魅力理解、魅力創生、魅力発信を目的とした「全国1億円プロジェクト」に参加している。地域の魅力理解の場面では、三沢市役所職員による三沢地域の観光資源等の説明を受けたり、地元の料理士の指導を受け、保護者の協力を仰いだりしながら活動している。また参加校との意見交換や現地での交流会への参加を通じて生徒の資質向上に努めている。</p> <p>三沢市ハローワーク職員による高校生の雇用状況の説明会や、本校進路指導部による求人票の読み方、履歴書の書き方指導等、生徒の就職に関する指導を継続して実施している。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>HP内で本校生徒の学校行事への取り組みを、写真を掲載して紹介している。学校行事の際には保護者にも案内し、保護者が気軽に本校の教育活動を理解できるよう努めている。行事後にはPTAだよりを発行し、インターネット以外の手段による情報発信も行っている。</p>

田名部	高校
定時制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○生徒の進路支援のために漢字テストを実施する「ゼロ校時」や、考査に向けて学習支援を行う「考査前補習」、生徒理解を深める「面談週間」を設置するなど、「生徒理解」と「個別最適な学習」を重要視した学校全体の教育活動が行われている。</p> <p>○学校祭では保護者が生徒とともに模擬店の出店を行い、体育祭では保護者と生徒がともに参加するファミリーレースを実施している。また年度末には生徒と保護者がともに参加し、レクリエーション等をおして卒業を祝う「祝卒業会」を行うなど、「保護者参加型」の学校行事を数多く実施し、生徒と保護者、保護者と学校の関係性を深める活動を実施している。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>普通科</p> <p>北斗高校の通信制を利用することにより、卒業に必要な単位を修得できる制度がある。通常の授業のほかに、添削問題（レポート）、面接（スクーリング）、テストにより所定の単位を修得することができ、3年で卒業することも可能である。</p> <p>下北むつ地区の高等学校定時制の課程の振興を図ることを目的に、むつ市長を会長とした下北郡町村会長・教育長・関係中学校長などから成る「下北むつ地区定通教育振興会」の事務局となり、本校教育活動への深い理解、協力をいただいている。</p> <p>地域理解を深め、郷土愛の育成、発展に寄与する人材育成のためにむつ市の協力のもと「下北ジオパーク」の講演会を開き、一般社会法人「しもきたTABIあしすと」（旧下北観光協会）と連携し、下北地区のフィールドワークを行い、年度末に校内で探究活動としての成果発表会を行う。</p> <p>むつ下北地域で働いている社会人との対話を通して、将来の仕事や地域の未来のことなど、今後の自らの生き方を考えさせることを目的として、下北地区の様々な業種の方々を講師として迎え、ワークショップ形式の講演会「来さまい先輩」をNPO法人「ぶらっと下北」と連携し実施している。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>随時学校HPの更新を行い、学校の教育活動の紹介や、学校行事、公開授業の案内等を行っている。</p> <p>「社会人入試説明会」や「科目履修生の募集説明会」を実施し、学校HPや市の広報等をおして告知している。</p>

八戸中央	高校	
定時制	課程	
設置小学科名	普通科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○生徒ファーストを意識し、全教職員を対象とした合理的配慮に関する研修会を実施している。ユニバーサルデザイン化授業、丁寧な教育相談、通級による指導等を行い、特別な配慮を必要とする生徒に対して学校全体で支援できる体制をとっている。</p> <p>○ユニバーサルデザイン化授業を実践している。</p> <p>○通級による指導、キャリアチューター制度、就労支援等、一人一人の生徒に合わせた丁寧な教育指導を実践している。</p> <p>○インターンシップ、アルバイト等を通して就業意識を高め、社会人としての資質能力を高める指導を実践している。</p> <p>○生徒の実情に合わせた学校設定科目の設置と検定や資格取得へ向けた指導を行っている。</p>	
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科	八戸市都市整備部と諏訪町内会と本校生徒で美化活動（花の鉢植え）を行っている。
	普通科	八戸市危機管理部と諏訪町内会と県防災士会と合同で防災訓練（津波発生対応）を行っている。
	普通科	今年度、1年次生が岩手県野田村に行き、現地の語り部から説明を受けながら防災ツアーを行った。
	普通科	今年度、NHKアナウンサーによる言葉による防災授業を行った。生徒は、周囲に何を伝えたいかを考え、発表した。
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	普通科	学校ホームページで公開している。
	普通科	学校説明会や学校訪問等で本校の魅力を伝えている。

北斗	高校
通信制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○前後期の2学期制で、半期毎に単位認定をし、前期卒業・後期新入学も可能である。</p> <p>○日・水スクーリングの他、必履修科目単位を修得できなかった生徒や後期入学生のために月曜スクーリングを設定している。</p> <p>○スクーリング日以外に進学講習や就職講習、学び直し講座等を実施し、様々な生徒のニーズに対応することが可能である。</p> <p>○スクーリングへの出席が困難な生徒へのサポート（放送視聴、個人面接指導）を実施している。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	<p>進路指導部が中心となって、ハローワークやジョブカフェあおもりとも連携し、企業見学会や職場実習などの進路行事等を実施している。</p>
	<p>普通科 青森市はもとより、下北地区等の他地域を含め、通信制の学びを選択した中学生及び進路変更をした高校生、そして中途退学した社会人の学び直しの場としての受皿となっている。</p>
	<p>田名部高校定時制の課程、五所川原高校定時制の課程と定通併修を実施している。</p>
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	<p>ホームページで行事の様子を知らせたり、年次通信等を掲載している。</p>
	<p>北斗通信を年3回発行し、町内会長を通じて町内会に配布している。</p>

八戸中央	高校	
通信制	課程	
設置小学科名	普通科	
1 学校の特色等		
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○・・・半期ごとに単位認定を行い、個々の実情に配慮しながら、少しでも早い段階で、多くの単位が修得できるようにしている。</p> <p>○・・・J・R小中野駅から徒歩15分ほどのところにあり、広範囲からの通学が可能である。</p>	
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況		
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科	外国籍を有する生徒が在籍しており、弘前大学教育学部多文化リソースルーム及びNPO法人みちのく国際日本語教育センターと連携しながら当該生徒の日本語支援に当たっている。
	普通科	青森県発達障害者支援センターの支援を受けている生徒が在籍しており、不測の事態が起こった際には、連携して対応にあたることができるよう体制を整えている。
	普通科	6月末実施の進路研修会において、必要に応じて専門学校から講師を招聘し、講演してもらっている。今年度は内部人材で対応した。
3 情報発信に係る状況		
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	昨年度、通信制の学校ホームページを見直し、より見やすくわかりやすいものに一新した。	

尾上総合	高校
通信制	課程
設置小学科名	普通科
1 学校の特色等	
学校全体で取り組んでいる教育活動の状況（特別活動や課外活動を含む）	<p>○他校からの転編入生や他校退学による新規入学生が少なくないことから、教員が生徒に寄り添って指導している。</p> <p>○面接指導（スクーリング）の回数が多いことから、教員は丁寧でわかりやすい授業づくりを行っている。</p> <p>○通信制普通科の単位制高校で制限はあるものの、必修科目以外の選択科目を設け、商業科や家庭科の専門科目を選択できるようにしている。</p> <p>○中学校までの不登校経験者も少なくないことから、数学科と外国語科において中学校の学習内容を学び直すための学校設定科目を設けている。</p> <p>○公認心理師の資格を持つSLSを活用し、生徒の修学上の困難を明らかにするとともに、困難の排除に努めている。</p>
2 高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況	
他の高校や地域、大学、研究施設、企業等の外部機関との連携、協働及び他の主体とつながりを持った取組内容	普通科 他の学校との連携 ・学校法人白銀学園サンモードオブデザインとの技能連携協定
	地域との連携 ・田舎館村との連携（田んぼアート田植え、稲刈り）
	外部機関との連携 ・AOMORI多文化共生推進事業に係る日本語指導支援員の派遣（ひろだい多文化リソースルーム）
3 情報発信に係る状況	
学校で取り組んでいる、魅力・特色の発信状況	学校HPでの学校行事等の取り組み状況を発信している。
	年4回通信制だよりを発行して保護者に対して情報を発信している。